

令和6年度実施事業における
教育に関する事務の管理および
執行の状況の点検および評価等の報告書

令和7年 12 月

米 原 市 教 育 委 員 会

目 次

1	点検および評価制度の概要	
(1)	背景	1
(2)	目的	1
(3)	対象事業の考え方	1
(4)	評価の方法	1
(5)	学識経験者の知見の活用	2
2	教育委員会の活動状況	
(1)	教育委員	3
(2)	教育委員会の活動状況	3
(ア)	教育委員会議の開催および議決状況	3
(イ)	その他の活動状況	3
(ウ)	委員の就任状況	4
3	学識経験者による意見	
(1)	趣旨	5
(2)	学識経験者	5
(3)	米原市教育行政の点検・評価に関する懇話会	5
(4)	学識経験者による意見	7
4	事務の管理および執行状況の点検・評価	
(1)	施策の体系と事務事業一覧	13
(2)	点検および評価等の結果	21
	対象事業の評価一覧	23
	各事業の点検および評価等	
	教育総務課所管事業	25
	学校教育課所管事業	41
	学校給食課所管事業	57
	生涯学習課所管事業	60
	図書館所管事業	80
	スポーツ推進課所管事業	82
	子育て支援課所管事業	88
	保育幼稚園課所管事業	90
(3)	学校等の評価	

認定こども園運営委員・幼稚園評議員による園評価・・・・・・・・	94
小・中学校運営協議会委員・学校評議員による学校評価・・・	110
図書館内部評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	124

1 点検および評価制度の概要

(1) 背景

平成 18 年 12 月の教育基本法の改正および平成 19 年 3 月の中央教育審議会の答申を踏まえ、平成 19 年 6 月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）が改正され、平成 20 年 4 月に施行されました。

この地教行法の改正目的である、「教育委員会の責任体制の明確化」の一つとして、教育委員会が毎年、その権限に属する事務の管理および執行の状況について点検および評価（以下「点検および評価」という。）を行い、その結果を公表することが義務付けられました。

(2) 目的

教育委員会は、首長から独立した中立的・専門的な立場で、学校教育、生涯学習をはじめ文化、スポーツなど幅広い分野に関する施策を展開する合議制による行政機関として設置されています。点検および評価等は、教育委員会が教育行政の事務の執行状況を点検および評価し、市民への説明責任を果たすことにより、市民の意向を踏まえながら、効果的・計画的な教育行政の推進に資することを目的とするものです。

なお、点検および評価の方法、議会への報告の方法などは、各自治体の教育委員会が実情を踏まえて決定することとされています。

(3) 対象事業の考え方

本年度の点検および評価の対象は、令和 6 年度の事業実績を対象とし、その対象範囲は、地教行法第 21 条に基づく「教育委員会の職務権限」として規定されている事務をはじめ、市長の補助執行として行っている事務を含む全ての事務が対象となります。

事業のまとめ方については、「第 3 期米原市教育振興基本計画」の体系に基づく分類によりまとめることとしました。

(4) 評価の方法

評価の方法については、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 233 条第 5 項の規定に基づく、令和 6 年度における主要施策の成果説明書（以下「主要施策の成果説明書」という。）の主要な施策の実績の事業分類により、客観的な評価を行えるよう「第 3 期米原市教育振興基本計画」の目標指標など数値化された目標がある事業については数値化された達成状況を基に、数値化の難しい事業については事業の達成度を基に教育委員会事務局で自己点検および評価を行いました。

(5) 学識経験者の知見の活用

「教育に関する事務の管理および執行の状況の点検および評価等の報告書」の素案をもとに、学識経験者と教育委員との懇話会を開催し、本市教育委員会の主な取組や課題について、様々な観点から議論しました。

『参考』

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」【抜粋】

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 教育委員会の活動状況（期間 令和6年4月1日～令和7年3月31日）

（1）教育委員（委員定数：5人 任期：4年）

役 職	氏 名	任 期
教育長	馬 淵 均	R5.8.14～R6.10.13
	一ノ宮 賢 了	R6.12.1～R8.8.13
教育長職務代理者	中 川 清 和	R3.3.28～R7.3.27
	上 橋 文 彰	R7.3.28～R11.3.27
委 員	本 庄 通 子	R5.3.25～R9.3.24
委 員	膽 吹 照 子	R3.10.1～R7.9.30
委 員	法 戸 繁 利	R4.3.25～R8.3.24
委 員	井 口 英 知	R6.3.25～R10.3.24

（2）教育委員会の活動状況

（ア）教育委員会議の開催および議決状況

月 日 (定例・臨時の別)	議 決 事 項							協議 報告 事項 ほか
	条例案	規則	訓令 要綱	委員等 任命・ 委嘱等	予算案	後援等 名義使 用	その他	
令和6年4月23日(定例)		3	1			2	1	3
令和6年5月21日(定例)		2		3	1	4	1	2
令和6年6月24日(定例)		3		2		6		2
令和6年7月24日(定例)			1	3		2	2	2
令和6年8月19日(定例)				1	1	2	1	2
令和6年9月26日(定例)		1		2		2		2
令和6年10月23日(定例)		1				2		2
令和6年11月19日(定例)					1	1	4	2
令和6年12月24日(定例)				1		2	3	3
令和7年1月21日(定例)	2	4		2	2		1	2
令和7年2月14日(定例)								
令和7年3月4日(臨時)							1	
令和7年3月21日(定例)				2	2	2		6
合 計 (定例12回・臨時1回)	2	14	2	16	7	25	14	28

（イ）その他の活動状況

○学校園訪問（各小学校・中学校・幼稚園、保育所および認定こども園）

(ウ) 委員の就任状況

- ・米原市特別支援保育支援委員会
- ・米原市奨学金給付審査会
- ・米原市人権尊重のまちづくり審議会
- ・米原市民生委員推薦会
- ・青少年育成市民会議

3 米原市教育行政の点検・評価に関する懇話会

(1) 趣旨

地教行法第 26 条第 2 項の規定に基づき、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るために、米原市教育行政の点検・評価に関する懇話会を開催し、意見交換を行い、2 人の学識経験者から意見をいただきました。

(2) 学識経験者

○大橋松行氏 滋賀県立大学名誉教授

○大澤厚美氏 元小学校長

(3) 米原市教育行政の点検・評価に関する懇話会

◆日 時 令和 7 年 11 月 14 日（金） 9 時 00 分から 11 時 30 分まで

◆出席者：(学識経験者) 大橋松行氏、大澤厚美氏

(教 育 委 員) 上橋文彰委員、本庄通子委員、法戸繁利委員
井口英知委員、北川真依子委員

(教 育 長) 一ノ宮賢了

(各 所 属 長) 教育部長：口分田、教育部理事：高木、学校教育課：北川
学校給食課：花部、生涯学習課：平山、山東図書館：梶川
スポーツ推進課：横田、子育て支援課：山田
保育幼稚園課：清水（代理出席）

(事 務 局) 教育総務課：馬場、吉川、辻村

◆意見交換での主な意見

(教育総務課)

- ・安全な通学環境を確保するため、路線バスやまいちゃん号で通学する児童がいるが、連日のクマ出没ニュースで不安がられている保護者も多い。今後も検討していただきたい。

(学校教育課)

- ・令和 6 年度に「コミュニティ・スクールと地域学校共同活動の一体的推進」の文部科学大臣賞を受賞されたということで、とても素晴らしい取組をされている。コミュニティ・スクールの発信方法は課題で、ブログは更新しやすいが、各学校のホームページで特色が出るようなかたちで発信方法を検討されると良いと思う。
- ・事業の評価を公表したとき、市民は C 評価を見るのではないかと思う。C 評価のところに明確な説明責任の準備をしていただきたい。

(学校給食課)

- ・学校給食の保護者負担金額徴収状況で現年度分の未納額が令和5年度と比べて減っているということは評価できる。

(生涯学習課)

- ・文化協会の加盟団体が、令和6年度が62団体、令和5年度は70団体とあり、かなり減っている。

(図書館)

- ・B評価が続いてるというのは大きな問題だと思う。子ども達・市民の方達の読書離れ、スマートフォンやパソコンの利用が増え、本を読まないという状況もあると思うが、今後も色々イベント等も開催していただきたい。

(スポーツ推進課)

- ・施設の遠隔施錠システムも導入され、管理面やセキュリティ面で非常に向上したと思う

(子育て支援課)

- ・パトロール活動をして子どもがいないという話が出ている。保護者に送迎してもらって市外の施設へ行ったりしており、子どもの活動範囲が広がっている。ボランティアの高齢化もあり情報が入りにくくなっている。例年どおりの巡回も必要だが、イベント開催情報等を共有してパトロールの活動範囲を広げていくことも必要だと思う。

(保育幼稚園課)

- ・発達障害の子どもが増えている。認定こども園の素晴らしさとしてインクルーシブでみんなと一緒に生活している。それが学校へ行くと特別支援学級に入る子どもが多い。発達に課題を持つ子どもと一緒に生活することで大きく成長してる事例が多々ある。研修等取組はされているだろうが、小学校への連携をしてもらえたらと思う。

(4)学識経験者の意見

滋賀県立大学名誉教授 大橋松行氏 の意見

米原市教育委員会の「令和6年度実施事業における教育に関する事務の管理および執行の状況の点検および評価等」について、以下に報告します。

本年度は「第3期米原市教育振興基本計画」の3年度の事業評価となります。昨年度と同様、本年度も客観的な評価が行えるよう「第3期米原市教育振興基本計画」の目標指標など数値化された目標がある事業については数値化された達成度を基に、数値化が難しいか適切でない事業については事業の達成度を基に教育委員会事務局で自己点検および評価がなされました。とりわけ学校教育課においては新たに7つの取組内容を数値化され、評価の客観性がより高まったのではないかと思います。以下で、この自己点検および評価について私の意見を具体的に提示したいと思います。

まず、全般的には各主管課の事業評価において全30事業中A評価が26、B評価が4、C評価が0となっています。全事業の87%がA評価ですので、昨年度の70%を大きく上回っています。これは各主管課が事業内容に工夫を凝らして効率的・効果的に事業を実施されたことの結果がこのような高い評価となったと認識しています。

次に各主管課の事務事業について順次見ていきます。個々の事務事業については主要なものについて意見を提示したいと思います。最初に教育総務課です。7つの対象事業全てがA評価となりましたので、この点は非常に高く評価できると思います。個々の事業について見ていきます。まず「事務局教育振興事業」ですが、給付型奨学金では所得制限をなくしたことによって応募者が大幅に増加したことは、それを必要とする子どもたちの進学を後押しするという意味でも、その意義が大きいと思います。「事業の実績」には「応募者数」が記載されていませんが、大事な項目だと思いますので、記載していただいた方がよいと思います。定住率は年度によって差がありますが、概ね順調に推移していると考えます。児童生徒の通学方法については、クマ対策、熱中症対策、不審者対応などの新たな課題に柔軟に対応していただくことを希望します。小学校および中学校の施設整備事業では、令和6年度も安心安全で快適な学習環境を確保するため施設の修繕や改修が適切になされていることは高く評価できますが、昨今の夏の災害級の猛暑に対応できるよう、また災害時には避難所として有効に活用できるよう体育館の空調整備をできるだけ早く進めていただきたことを期待します。「中学校教育振興事業」については、中学校入学支援金および部活動用具等購入補助金において、交付率がいずれも令和5年度を上回っていますので支援制度が充実してきているといえると思います。

第2に学校教育課です。本年度は7事業のうち5事業がA評価、2事業がB評価となっており、昨年度を上回っています。また、新規事業もいくつか行われていますので、その積極性についても高く評価できると思います。個々の事業について見ていきます。「事務局教育振興事業」は、「取組ごとの評価」で新たに3つの数値目標が追加され、客観性がよ

り高まったと思います。ただ、C評価が4つありますので改善の余地は残されています。

「事業の課題と今後の取組」のところで「市内の学校からPTAが徐々に消滅している。」と指摘し、その主な理由として学校運営協議会が機能していることが大きいとしておられます。担当課から説明を聞いて理解しました。新規事業の1つとして「シビック・プライド」の醸成事業をされましたが、これは近年各自治体でも重視されている概念ですので、今後とも重点的に実施していただくことを期待します。「子どもサポート事業」では『『みのり』での児童生徒支援』を指標化されたことによって、支援を受けた児童生徒の学校復帰率が明確になりました。小学校および中学校の教育振興事業については、令和5年度から児童生徒の「読み解く力の向上」を図るために各学校へ新聞を配備されました。この取り組みはNIE学習、すなわち新聞を教材として活用し、興味や関心の幅を広げる教育手法につながるものですので、非常に素晴らしい取り組みだと思います。ただ、子ども新聞ならそれほど問題はないかと思いますが、一般紙の場合には、それぞれの色（イデオロギー）がついていますので、児童生徒が偏った事実認識をすることがないように、バランスを考慮して配備していただきたいと思います（これは昨年度も指摘したことです）。

第3に学校給食課です。「学校給食事業」では、アレルギーのある子どもたちに対してこれまでから適切な対応がなされ、安全・安心で栄養バランスの取れた給食を提供していただけることは高く評価できます。また、給食の食材については、地場産物の活用率が31.7%で令和5年度と比べて大きく減少してはいますが、それでも県平均（29.0%）を上回っていますのでこれも評価できます。学校給食費保護者等負担金徴収については、令和5年度と比べて大幅に改善されていますので、これは担当課のご努力の結果と認められます。また、未納者に対しては弁護士を介して対応していただけるということですので、今後も継続して取り組まれることを期待したいと思います。

第4に生涯学習課です。事業評価はA評価8、B評価1で、令和5年度と比べて高い評価となっています。「人権教育推進事業」では、「きらめき人権講座」の参加者が令和5年度比大幅減となったことは残念ですが、他の事業では増加していますので一定評価できると思います。「市民交流プラザ管理運営事業」では、施設の改修工事の影響でベルホール310、スタジオの稼働率がともに令和5年度を下回ってはいますが、自主事業（公演事業）では成果を収めておられると思います。「次代を担う青少年育成事業」では成人主体の二十歳のつどいの式典参加率が、2年続けて県内2番目の参加率となったことは大変喜ばしいことであり高く評価できます。「文化財施設管理運営事業」では、指定管理者の2資料館で入館者数が令和5年度を下回っていますので、情報発信の強化を含めて取組の改善が必要かと思います。

最後にスポーツ推進課、子育て支援課、保育幼稚園課です。スポーツ推進課の「体育施設管理運営事業」では、社会体育施設の利用者数が、令和5年度と比較して一部の施設を除いて増加していますし、米原市民意識調査で「スポーツの推進」満足度も高いことから一定評価できます。子育て支援課の「次代を担う青少年育成事業」では、PTA連絡協議会

からの退会により各団体の構成人数の減少が進んでいることは危惧します。保育幼稚園課の「幼稚園管理運営事業」は、令和7年3月末の閉園をもって終了しましたが、跡地利用を含めて、子育て環境の充実に資する施設への再整備に向けて十分検討をしていただきたいと思います。

以上、全般的な事業評価および各主管課の主たる事務事業について意見を付してきました。令和6年度の米原市教育委員会は、これまでの事業の他にいくつかの新規事業を取り入れ、創意工夫を施して多くの事業を実施されました。事業によっては多少の課題が存在するものの、概ね十全に機能していると判断いたします。今後とも、市長部局と教育委員会が緊密に意思疎通を図り、連携して効率的で効果的な教育行政を推進するとともに、市民の声に十分耳を傾け、優れた提案は積極的に施策に反映させていただくことを期待します。

米原市教育委員会の「令和6年度実施事業における教育に関する事務の管理および執行の状況の点検および評価等」について、以下に報告いたします。

令和6年度も引き続き「第3期米原市教育振興基本計画」の体系に基づく分類によって点検・評価が行われました。点検および評価等の素案をもとに、第3期教育振興基本計画の指標と各課所管主要事業内容との整合性や今日的な教育課題を鑑み、各課所管の主な事業取組の成果や課題について、意見をまとめさせていただきました。

① 教育総務課所管事業（事業1から事業7）

昨年度に引き続きすべてA評価となっています。適切かつ教育ニーズに沿った充実した事業として評価できると思います。特に、事業3：小学校教育振興事業、事業6：中学校教育振興事業における経済的に就学困難な児童生徒への就学援助制度に多くの予算を費やしていただけることは、大変重要な評価視点であると考えます。また、中学校入学支援金（一人当たり6万円）交付率が97.7%であることは、米原市教育振興に大きく寄与する重要な予算執行であると考えます。広報まいばらにも掲載し、広く市民に周知することを含め、交付率100%になることを願います。

事業4：小学校施設整備事業、事業7：中学校施設整備授業において、未整備となっている体育館の空調設備も、令和7年度から順次整備され、令和15年度を目途に市内全小・中学校において完了する整備計画が予定されていることは、本事業の特筆すべき成果であると考えます。安心・安全で快適な学習環境を保証するために、令和6年度も適切かつ充実した予算執行がされていることに感謝いたします。

② 学校教育課所管事業（事業8から事業14）

事業8：事務局教育振興事業、事業9：教育センター事業が、B評価となっています。対象事業について考察したいと思います。

○事業8における「教員・保育者の働き方改革の推進」に係る指標「1か月の超過勤務が45時間を超える教職員の割合」について、事業8に具体的な取組内容（指標）は示されていませんが、彦根市ホームページ掲載により、令和6年度は、目標値15%に対し実績値32%となっています。教員、保育士の働き方改革は、喫緊の教育課題であり、事業8に具体的な取組内容（指標）を示していただき、目標値15%に少しでも近づける検討を、各小中学校、園との協議を重ね、進めていただくことを願います。

○事業8の新たな指標となった「コミュニティ・スクール（CS）の推進：学校ホームページによるCSや学校運営協議会のページの設置率」の達成率が27%でC評価となっています。米原市は令和3年度から市内全小中学校に学校運営協議会が設置され、コミュニティ・スクールとして取組を進めています。ただ、学校ブログのCSページ設置の足並みが揃わない現状を鑑み、米原市ホームページなどを利用して、市内全小中学校のコミュニティ・スクールの取組や学校運営協議会の話し合い内容等が周知されるなら、市内全小中学校の特色ある取組内容がさらに地域に浸透されたいと考えます。

米原市においては、令和４年度に「光照らすかがやきっ子」（山室湿原やゲンジボタル等）として、山東小学校学校運営協議会と大東学区学校地域協働本部が、さらに令和６年度は、米原中学校と米原学区学校地域協働本部が「MAICHU BASE～人をつなぎ学びをつなぐ農園活動と収穫祭～」として、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰を受けるという素晴らしい評価を受けています。米原市のコミュニティ・スクールの益々の推進を期待します。

○事業８「不登校に対する支援の充実」成果指標：不登校生徒児童数の目標達成率が小学校 2.6 倍、中学校 1.6 倍と目標値を大きく上回っています。全国的に見ても不登校児童生徒数が急増している現状は否めませんが、この現状に対応すべく早急の対策が求められると考えます。本市は令和５年度からステップ・フォワード・プログラム事業、令和６年度からフリースクール利用支援補助事業を取り入れ、不登校児童生徒の居場所づくりに支援強化されていることは大きな成果であると思います。令和６年度はステップ・フォワード・プログラムに５人の生徒が参加され、フリースクールに通う２人の生徒への支援をされています。これらの事業が多くの不登校生徒児童の居場所づくりに繋がることを願います。

○事業９：教育センター事業の実績は確実に成果をあげていると思います。取組指標が「ヤングケアラー、特別支援教育、性的マイノリティー、教職員の指導力向上などの研修会の実施回数」となっていて、総合評価がＢ評価となっています。教職員の働き方改革の視点からも、１年間で多岐にわたるこれら全ての観点の研修会を網羅することは難しいと考えます。長期的（２～３年）なスパンでの研修計画を検討されることを助言いたします。

○事業１２：小学校教育振興事業、事業１４：中学校教育振興事業における「学校経営予算の効果的な執行」について、成果指標を「学校運営協議会における熟議を経た、学校教育目標具現化のための執行」とされたことは適切であると思います。校長裁量で執行できる魅力ある予算ではあるけれど、市内全小中学校がコミュニティ・スクールとして運営されていることから、学校運営協議会での熟議を経て、学校教育目標の具現化のために活用されることが、適切かつ有効な予算執行になると考えます。

③ 学校給食課所管事業（事業１５）

昨年度に引き続き総合評価がＡ評価となっています。学校給食に地場産物を使用する割合が県平均を上回る 31.7%であることは、地元 JA と連携した米原市の地域性を生かした強みであるとともに、安心安全な給食の提供として大きく評価できると思います。今後の課題としては、市内２か所の給食センター施設及び調理機器の老朽化や、児童生徒の減少、調理員等の高齢化等を鑑み、改修や統合に向けた方向性を検討することが求められてくると考えます。また食材の価格高騰による値上がり分について、保護者負担を求めず、多額の予算を市負担として計上されていることにも、感謝いたします。

④ 生涯学習課所管事業（事業１６から事業２４）

○令和５年度にＢ評価であった事業１６：社会教育総務事業の総合評価がＡ評価となっています。事業１６においては、生涯学習まちづくり出前講座の目標達成率が86.7%と令和５年度実績を大きく上回っていることや、スマートフォン講座は住民ニーズに対応いただいた開催となりました。事業２４においては、学びあいステーション（指定管理者運営地域４施設）の講座やイベントの利用者数が大幅に増加した成果を得ました。市民の生涯学習のニーズに沿った魅力ある講座やイベントが今後も継続、発展することを願います。

○事業２３：文化財施設管理運営事業が令和５年度に引き続きＢ評価となっています。各施設（３施設）がそれぞれの特色を生かした施設運営がされていますが、直営の柏原宿歴史館の入館者数は増加したものの、指定管理施設（２施設）の入館者数が減少していることがＢ評価の理由となっています。単独のPRや宣伝に加え、観光部局のイベント等と連携した誘客、宣伝の取組を期待します。

⑤ 図書館所管事業（事業２５）

令和５年度に引き続きＢ評価となっています。成果指標「15歳以下の市民１人当たりの図書館貸冊数（18.0冊）」「市民１人当たり図書館貸出冊数（7.5冊）」の目標達成率が、67.8%と60%となっていることがＢ評価の理由となっています。近年のSNSの過剰な使用状況などで子どもたちの読者離れが著しく進んでいる現状は憂慮に堪えませんが、やはり読書の楽しさ、面白さをもっと子どもたち（特に幼児期から）に味わわせてあげてほしいと切に願います。市内２つの図書館のイベントや企画や図書館環境は大変充実していると思います。今後、学校・園・関係機関等との連携を深めながら、更なる魅力的な図書館運営や企画が実現することを期待いたします。

⑥ スポーツ推進課（事業２６、事業２７）、子育て支援課（事業２８、事業２９）、保育幼稚園課所管事業（事業３０）

事業３０：幼稚園管理運営事業の成果指標「幼稚園学校評議員による園経営全体に関する評価点」の目標達成率が100%を超える高評価であることから、全ての園において地域に根差した温かい園経営が成されていることに敬意を表します。発達障害の子どもが急増している中、ぜひ市内全園で大事にされているインクルーシブな教育が、園から小学校へと繋がっていける米原市独自の架け橋プログラムの作成を期待します。

以上、全般的な事業評価や各課所管の事業成果について意見を付してきました。令和６年度は３０の対象事業中、Ａ評価２６、Ｂ評価４、Ｃ評価０と市民の教育ニーズに沿った大変良好な事業執行であると判断いたします。米原市に引き継がれている多くの文化財と各地に根差した米原ならではの自然環境と魅力を大いに活用され、ふるさと米原を愛し、誇りに思う子どもの育成のために、今後益々特色ある米原市教育行政を推進していただくことを願っております。

4 事務の管理および執行状況の点検・評価

(1) 第3期米原市教育振興基本計画における政策施策の体系と事務事業一覧

基本目標 1 心豊かで、たくましく、しなやかに生きる力を育む教育を実現します

施策および施策の方向	指標名	担当課	事業名
(1) 就学前の教育・保育の充実			
○子育て支援の充実	市民意識調査の「子育て・子育て支援の充実」についての満足度 市民意識調査の「米原市を子育てしやすいまちだ」と思う市民の割合	保育幼稚園課	30. 幼稚園管理運営事業
○子育て支援の充実	地域子育て支援センター利用者アンケートによる満足度	(保育幼稚園課) (子育て支援課)	(子ども・子育て支援事業)
○就学前教育・保育の量と質の充実	就学前施設の待機児童数	(保育幼稚園課)	(保育所・認定こども園管理運営事業)
○就学前教育と小学校教育との円滑な接続と連携の推進	認定こども園等と小学校が連携を行った最小回数	保育幼稚園課	30. 幼稚園管理運営事業
(2) 確かな学力の向上			
○基礎学力の向上 ○主体的・対話的で深い学びを目指す授業づくり	全国学力・学習状況調査の国語科、算数科、数学科における正答率と回答率	学校教育課	8. 事務局教育振興事業 9. 教育センター事業
○外国語教育・国際理解教育の推進	全国学力・学習状況調査の「5年生までに受けた英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていた」児童割合 (小学校) 全国学力・学習状況調査の「1、2年生のときに受けた英語の授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていた」生徒の割合 (中学校)	学校教育課	8. 事務局教育振興事業 9. 教育センター事業
○子どもの読書活動の推進	1か月に1冊以上本を読んだ児童生徒の割合	生涯学習課	25. 図書館管理運営事業
○教育情報化の推進	全国学力・学習状況調査「学校でICT機器を友達との意見交換や調べることにほぼ毎日使用している」児童生徒の割合	学校教育課	8. 事務局教育振興事業 9. 教育センター事業
○小学校教育と中学校教育との連携の推進	小学校と中学校が小中連携を行った最小回数	学校教育課	8. 事務局教育振興事業 9. 教育センター事業

施策および施策の方向	指標名	担当課	事業名
(3)豊かな心の育成			
○道徳教育の推進 ○人権教育の推進	全国学力・学習状況調査「自分にはよいところがあると思う」児童生徒の割合	学校教育課	8. 事務局教育振興事業 9. 教育センター事業
○キャリア教育の推進	全国学力・学習状況調査「将来の夢や目標を持っている」児童生徒の割合	学校教育課	14. 中学校教育振興事業
○情報モラル教育の推進	全国学力・学習状況調査「スマートフォン等の使い方について、家族との約束を守っている」児童生徒の割合	学校教育課	8. 事務局教育振興事業 9. 教育センター事業
○地域における学校園間・世代間交流の推進	地域学校協働活動ボランティア登録数	学校教育課	8. 事務局教育振興事業
○子ども等への暴力防止の推進	児童虐待防止に関する研修実施率	(子育て支援課)	(子ども家庭相談支援事業)
(4)健やかな体の育成			
○学校における体育指導等の充実	全国体力・運動能力調査「子ども(小学5年生)の体力・運動能力テスト」の体力合計点	学校教育課	8. 事務局教育振興事業
	全国体力・運動能力調査「子ども(中学2年生)の体力・運動能力テスト」の体力合計点		
○健康教育の推進	健康教育のため、小中学校で実施した出前講座の実施校数	(健康づくり課)	-
○基本的生活習慣の形成	全国学力・学習状況調査「朝食を毎日食べている」児童生徒の割合	学校教育課	8. 事務局教育振興事業 9. 教育センター事業
○食育の推進	栄養教諭による食育の指導回数	学校給食課	15. 学校給食事業
○安全・安心な給食の提供	学校給食に地場産物を使用する割合(食材数ベース)	学校給食課	15. 学校給食事業
(5)地域の良さを生かした特色ある教育の推進			
○米原の自然・歴史を学ぶ機会の充実	伊吹山に登ろう・ふるさとを描こうのほか、ふるさと親子俳句事業を実施した学校の割合	学校教育課	8. 事務局教育振興事業
○環境学習の推進	学校給食に地場産物を使用する割合(食材数ベース) 【再掲】	学校給食課	15. 学校給食事業
	伊吹山等における自然観察会の実施回数	(自治環境課)	-
○地域人材の活用 ○ふるさとを愛し、誇りに思う心の育成	全国学力・学習状況調査「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」児童生徒の割合	学校教育課	8. 事務局教育振興事業 9. 教育センター事業

基本目標 2 学校・家庭・地域がつながり、協働して地域全体の教育力を高め、ふるさとを愛する人を育てます

施策および施策の方向	指標名	担当課	事業名
(1)子育て支援と家庭の教育力の向上			
○家庭の教育力向上の支援 ○家庭支援推進保育事業の推進 ○親子のつながり・親子活動の充実	子育てをテーマにした講演会の参加者数	子育て支援課	28. 次代を担う青少年育成事業
○PTA連絡協議会活動の充実	PTA連絡協議会の広報発行回数	子育て支援課	28. 次代を担う青少年育成事業
○要保護児童対策地域協議会活動の活性化	児童虐待防止のため、伊吹山TVによる周知回数	(子育て支援課)	(子ども家庭相談支援事業)
○インターネット・ゲーム・スマートフォン等の適切な利用の推進	全国学力・学習状況調査「スマートフォン等の使い方について、家族との約束を守っている」児童生徒の割合【再掲】	学校教育課	8. 事務局教育振興事業 9. 教育センター事業
(2)子どもの育ちを支える家庭・地域づくり			
○社会活動・体験活動等を通じた交流機会の充実 ○学校園と地域団体等の連携	全国学力・学習状況調査「地域の行事に参加している」児童生徒の割合	学校教育課	8. 事務局教育振興事業
○地域における子育て支援活動・体験活動の充実	冒険遊び場の設置数	(子育て支援課)	(地域の子育て支援事業)
(3)子どもや青少年の健全育成			
○放課後等の子どもの居場所づくり	放課後児童クラブの待機児童数(年間利用者分)	(子育て支援課)	(子ども・子育て支援事業)
○子ども会活動の充実	子ども会活動への参加者数	子育て支援課	28. 次代を担う青少年育成事業
○ヤングケアラーの把握・支援	貧困等に関する教職員への研修実施回数	学校教育課	9. 教育センター事業
○青少年の健全育成の推進	あいさつ運動実施率	子育て支援課	28. 次代を担う青少年育成事業
○子ども・若者支援地域協議会活動の推進	若者自立ルームあおぞらにおける就労または就労体験件数	(子育て支援課)	(子ども若者自立支援事業)

施策および施策の方向	指標名	担当課	事業名
(4) 学校支援活動や地域活動の推進			
○コミュニティ・スクールの推進 ○子どもの地域活動を支える担い手の確保	地域学校協働活動ボランティア登録数【再掲】	学校教育課	8. 事務局教育振興事業
○学校支援ボランティアの拡充	まなびサポーター登録者数	生涯学習課	16. 社会教育総務事業
○ジュニアリーダーの育成	ジュニアリーダー育成事業実施回数	子育て支援課	28. 次代を担う青少年育成事業
(5) 地域との協働による学校園づくり			
○信頼される学校園づくりの推進 ○地域連携に向けた学校園の環境・体制の充実	学校運営協議会委員年間活動平均回数	学校教育課	11. 小学校管理運営事業 13. 中学校管理運営事業

基本目標 3 一人一人が大切にされ、安全・安心で質の高い教育が受けられる環境をつくります

施策および施策の方向	指標名	担当課	事業名
(1) 一人一人の特性に応じた教育の推進			
○学校園における発達障がいのある子どもへの支援 ○特別支援教育の充実 ○就学前の特別支援保育の充実	教員、保育者が出席する特別支援教育等に関する研修回数	学校教育課	8. 事務局教育振興事業 9. 教育センター事業
○子どもケアサポーターの派遣	子どもケアサポーター派遣人数	学校教育課	10. 子どもサポート事業
○日本語指導が必要な外国籍の児童生徒の支援	日本語指導が必要な、児童生徒に対する特別指導の実施割合	学校教育課	8. 事務局教育振興事業
○性的マイノリティの児童生徒の支援	性的マイノリティの課題を含む人権研修の実施回数	学校教育課	9. 教育センター事業
○乳幼児等を対象にした児童通所支援サービスの充実	児童発達支援事業の親子通園開設日数	(社会福祉課)	-
○新たな教育モデルについての研究	「子どもたちが自分でつかむ自分の未来」を実現するための研究および実績校数	学校教育課	9. 教育センター事業
○療育ネットワークの充実	発達障がいに関する研修会の参加人数	学校教育課	8. 事務局教育振興事業 9. 教育センター事業

施策および施策の方向	指標名	担当課	事業名
(2)教育相談・教育支援の充実と学校支援体制の構築			
○就学指導・相談の充実 ○不登校・非行等に対する支援の充実	不登校児童生徒数	学校教育課	8. 事務局教育振興事業 10. 子どもサポート事業
○児童虐待に対する支援の充実	児童虐待防止のため、伊吹山TVによる周知回数【再掲】	(子育て支援課)	(子ども家庭相談支援事業)
○学校支援専門職員の配置 ○いじめの防止等の取組	全国学力・学習状況調査「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。」児童生徒の割合(小学校・中学校)	学校教育課	8. 事務局教育振興事業 9. 教育センター事業
○就学・進学の経済的支援	新たに給付型奨学金の支給を受けた者	教育総務課	1. 事務局教育振興事業
○子どもの貧困対策	生活・学習支援(ほたる一む)の実施件数	(子育て支援課)	(母子・父子家庭支援事業)
	貧困等に関する教職員への研修実施回数【再掲】	学校教育課	9. 教育センター事業
(3)安全・安心な教育環境の整備			
○子どもの安全の確保	子ども110番のおうち設置数	子育て支援課	28. 次代を担う青少年育成事業
	子ども110番のくるま設置数		
○通学等の安全確保	スクールガード登録者数	学校教育課	8. 事務局教育振興事業
○就学前教育・保育施設、学校教育施設の整備・改修	市民意識調査の「教育内容、施設の充実」の満足度	教育総務課	4. 小学校施設整備事業 7. 中学校施設整備事業
○給食施設の適正な維持管理	給食センターの稼働率	学校給食課	15. 学校給食事業
○学習環境における感染症対策の実施	常時、必要な感染症対策を実施している校園の割合	学校教育課	8. 事務局教育振興事業
(4)適切な教育環境の整備			
○通学区域の弾力的な対応 ○適切な教育環境の取組 ○指導内容に対応した教材、備品の配備	市民意識調査の「教育内容、施設の充実」の満足度【再掲】	教育総務課	(事務局総務事業) 2. 小学校管理運営事業 3. 小学校教育振興事業 5. 中学校管理運営事業 6. 中学校教育振興事業
(5)質の高い教育の推進			
○教員・保育者の指導力の向上 ○教員・保育者の研究・研修の充実 ○新しい教育課題への対応	教育センター開講講座・研修会の延べ受講人数	学校教育課	9. 教育センター事業
○教員・保育者の働き方改革の推進	1か月の超過勤務時間が45時間を超える教職員の割合	学校教育課	8. 事務局教育振興事業

基本目標 4 生涯にわたって豊かに学びあい、いきいきと活動が続けられる環境をつくります

施策および施策の方向	指標名	担当課	事業名
(1)生涯学び続けられる機会の充実			
○生涯学習講座の開催 ○ルッチまちづくり大学の活用 ○生涯学習情報の発信	市民意識調査の「生涯学習の推進」の満足度	生涯学習課	16. 社会教育総務事業 18. 地域人材育成事業 21. 学びあいステーション管理運営事業
○市民相互の学びの場の提供	学びあいステーションの講座受講者がサークル化した団体数	生涯学習課	21. 学びあいステーション管理運営事業
(2)多様性の理解および人権文化の確立			
○人権教育・人権啓発の推進	ハートフル・フォーラムの実施率	生涯学習課	17. 人権教育推進事業
○人権教育の担い手の育成	地域人権リーダー研修会の参加者数	生涯学習課	17. 人権教育推進事業
○人権に関する情報提供	各種啓発週間・月間における情報提供回数	(人権政策課)	-
○多文化共生の推進	外国籍市民の日本語教室への参加延べ人数	(人権政策課)	-
○男女共同参画の推進	市の審議会等における女性委員の登用(割合)	(人権政策課)	-
○いじめの防止等の取組(再掲)	全国学力・学習状況調査「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。」児童生徒の割合(小学校・中学校)【再掲】	学校教育課	8. 事務局教育振興事業 9. 教育センター事業
(3)地域で活躍する人材の育成			
○まちづくりの担い手の育成 ○学習成果を生かす仕組みづくり	まなびサポーター登録者数【再掲】	生涯学習課	16. 社会教育総務事業
○学習活動とまちづくり活動のマッチング	生涯学習まちづくり出前講座年間実施回数	生涯学習課	16. 社会教育総務事業
○地域における男女共同参画社会づくりの推進	市の審議会等における女性委員の登用(割合)【再掲】	(人権政策課)	-
○各分野における指導者や支援人材の確保	スポーツボランティア参加者数	スポーツ推進課	27. スポーツ推進事業
(4)読書を通じた学びの機会の提供			
○子どもの読書環境の整備・充実	15歳以下の市民一人当たり図書館貸出冊数	生涯学習課	25. 図書館管理運営事業
○図書館利用の促進	市民一人当たり図書館貸出冊数	生涯学習課	25. 図書館管理運営事業
	図書館のレファレンス満足度		

施策および施策の方向	指標名	担当課	事業名
(5)生涯スポーツの振興			
○スポーツ少年団・総合型地域スポーツクラブ・学校部活動の連携	休日における学校部活動の地域活動への移行部活動数	学校教育課	14. 中学校教育振興事業
○(仮称)米原市スポーツ推進連絡協議会の設立	(仮称)米原市スポーツ推進連絡協議会の設立	スポーツ推進課	27. スポーツ推進事業
○競技スポーツの振興	オリンピック・パラリンピックの強化選手数	スポーツ推進課	27. スポーツ推進事業
○特色を生かしたスポーツの推進	スポーツボランティア参加者数【再掲】	スポーツ推進課	27. スポーツ推進事業
	ホッケー競技人口		
○地域スポーツの振興	地域スポーツクラブ会員数(延べ人数)	スポーツ推進課	27. スポーツ推進事業
○スポーツ活動等への支援	スポーツ協会加盟人数	スポーツ推進課	27. スポーツ推進事業
○自然環境を生かしたスポーツの推進	自然を生かしたスポーツ教室の実施回数	スポーツ推進課	27. スポーツ推進事業
○健康づくりの推進	3歳6か月健康診査時の調査において、1時間以上外遊びをしている子どもの割合	(健康づくり課)	-
	20歳～64歳で1日30分以上の運動を週2回以上、1年以上している人の割合(男女別)		
(6)生涯学習施設やスポーツ施設の整備・活用			
○社会教育施設の適正な維持管理 ○スポーツ施設の整備・活用 ○国民スポーツ大会滋賀県開催に向けた環境整備	米原市市民意識調査「スポーツの推進」の満足度	スポーツ推進課	26. 体育施設管理運営事業

基本目標 5 米原の自然・歴史・文化の保存・活用を進め、地域文化を育みます

施策および施策の方向	指標名	担当課	事業名
(1) 自然環境保全意識の醸成			
○地域資源を生かした学習機会の創出	市民意識調査の「自然環境の保全」の満足度	(自治環境課)	-
	伊吹山に登ろう事業実施率	学校教育課	8. 事務局教育振興事業
	伊吹山等における自然観察会【再掲】	(自治環境課)	-
○食育を通じた自然環境保全意識の向上	給食センターにおける収穫体験実施校数	学校給食課	15. 学校給食事業
(2) 市民の文化・芸術活動の促進			
○文化のまちづくりの推進	芸術展覧会への市民作品出展数	生涯学習課	19. 文化のまちづくり事業
○文化施設の運営と利用促進	文化協会事業への参加団体数	生涯学習課	19. 文化のまちづくり事業
○地域文化の担い手の育成 ○文化協会の組織強化の推進	文化協会加盟団体数	生涯学習課	19. 文化のまちづくり事業
(3) 歴史・文化財の保全活動と学習機会の充実			
○歴史文化遺産の保存・継承と活用	文化財等保存・伝承活動団体数	生涯学習課	23. 文化財保護事業
○埋蔵文化財の発掘調査・未指定文化財の調査の実施 ○文化財保存活動の充実	市民意識調査の「歴史・文化の継承と活用」の満足度	生涯学習課	23. 文化財保護事業
○歴史・文化の魅力発信	歴史講座受講者数	生涯学習課	23. 文化財保護事業
○資料館・歴史館の管理・運営	歴史イベント開催回数	生涯学習課	24. 文化財施設管理運営事業

(2) 点検および評価等の結果

主要施策の成果説明書の事業に基づき、教育委員会に関連する事務を 30 に分類し、事業ごとに点検および評価を行いました。

○事業評価資料の各項目概要

事業名	令和 6 年度主要事業説明書に記載した事業区分としました。
主管課	令和 7 年 4 月 1 日現在の事業主管部課名で表記しました。
予算額	決算時の予算額（当初予算に補正予算と前年度からの繰越額を加減した総額）を表記しました。 下段には、前年度からの繰越額を再掲しました。
決算額	事業に要した経費の合計額を表記しました。 下段には、前年度からの繰越額を再掲しました。
執行率	決算額を予算額で除した数値を百分率で表記しました。 ①80%以下の事業については、その理由を表記しました。
増減率	当年度決算額を前年度決算額で除し、1（100%）を引いた数値を百分率で表記しました。 ②50%以上の増減がある事業については、その理由を表記しました。
財源内訳	決算額の財源内訳を表記しました。 その他については、内訳を表記しました。
事業コスト	決算額を年度末の人口（36,835 人）で除し、市民 1 人当たりのコストを掲載しました。その他参考となる測定指標がある場合は、その下欄に表記しました。
人件費	一般会計については、事業主管課における各事業の従事職員数を「〇. 〇〇人役」で表し、当該職員数に令和 6 年度決算における平均人件費を乗じることで算出しました（令和 6 度平均人件費：7,011 千円）。
事業の実績	主な事業の実績を数値で示すなど具体的に記載しています。 事業の経費については、主な事業の経費を記載しているため、決算額と同額にならないことがあります。

成 果 指 標	評価を実施するに当たり、第3期米原市教育振興基本計画に目標指標の設定があり、明確な数値目標がある場合は、評価の基となる成果指標と目標達成率を記載しています。
評 価	<p>①まずは主な取組ごとに分けて以下のとおり評価を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3期米原市教育振興基本計画に目標指標の設定があり、明確な数値目標がある場合、成果指標の目標達成率に応じ評価を行いました。 ・明確な数値目標がない場合や、数値による評価が難しい場合は、事業の達成度合いに応じて評価を行いました。 <p>②取組ごとの評価ランクを点数化した上で事業全体の平均点を算出し、平均点に応じて事業全体の総合評価を3段階ランクで評価しました。</p>

【評価ランク】

①取組ごとの評価

評価	数値で評価する場合	点数
A	目標達成率 80%以上～100%超	3点
B	目標達成率 60%以上～80%未満	2点
C	目標達成率 60%未満	1点

評価	数値での評価が難しい場合	点数
A	具体的な施策を通して、基本目標が達成できた。	3点
B	概ね達成できたが、課題が残った。	2点
C	基本目標が達成できなかった。	1点

②事業の総合評価

総合評価	評価基準
A	平均点が3点以上(端数の場合は四捨五入して3点)
B	平均点が2点以上(端数の場合は四捨五入して2点)
C	平均点が1点以下(端数の場合は四捨五入して1点)

【対象事業の評価一覧】

対象事業の評価結果は以下のとおりとなりました。

番 号	事 務 事 業 名	評 価	主 管 課
1	事務局教育振興事業	A	教育総務課
2	小学校管理運営事業	A	〃
3	小学校教育振興事業	A	〃
4	小学校施設整備事業	A	〃
5	中学校管理運営事業	A	〃
6	中学校教育振興事業	A	〃
7	中学校施設整備事業	A	〃
8	事務局教育振興事業	B	学校教育課
9	教育センター事業	B	〃
10	子どもサポート事業	A	〃
11	小学校管理運営事業	A	〃
12	小学校教育振興事業	A	〃
13	中学校管理運営事業	A	〃
14	中学校教育振興事業	A	〃
15	学校給食事業	A	学校給食課
16	社会教育総務事業	A	生涯学習課
17	人権教育推進事業	A	〃
18	地域人材育成事業	A	〃
19	文化のまちづくり事業	A	〃
20	市民交流プラザ管理運営事業	A	〃
21	学びあいステーション管理運営事業	A	〃
22	次代を担う青少年育成事業	A	〃
23	文化財保護事業	A	〃
24	文化財施設管理運営事業	B	〃
25	図書館管理運営事業	B	図 書 館
26	体育施設管理運営事業	A	スポーツ推進課
27	スポーツ推進事業	A	〃
28	次代を担う青少年育成事業	A	子育て支援課
29	少年センター事業	A	〃
30	幼稚園管理運営事業	A	保育幼稚園課

【課別対象事業評価集計表】

主 管 課 名	A	B	C	対象事業数
教育総務課	7	0	0	7
学校教育課	5	2	0	7
学校給食課	1	0	0	1
生涯学習課	8	1	0	9
図 書 館	0	1	0	1
スポーツ推進課	2	0	0	2
子育て支援課	2	0	0	2
保育幼稚園課	1	0	0	1
計	26	4	0	30

款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育振興費	決算書	134 ~ 139 ページ		
事業名		事務局教育振興事業				主管課	教育部 教育総務課		
事業費(円)		令和6年度		令和5年度		財源内訳(円)		令和6年度	令和5年度
予算額		99,968,000		72,145,000		国 費		0	0
うち繰越		0		0		県 費		10,100,000	0
決算額		98,926,422		68,660,130		市 債		0	0
うち繰越		0		0		そ の 他		57,790,000	42,510,000
執行率(%) / 増減率(%)		99.0	+44.1	95.2		一般財源		31,036,422	26,150,130
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和6年度)					その他の内訳(令和6年度)				
					地域の絆でまちづくり基金繰入金 47,790,000円 米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 10,000,000円				
事業コスト			事業費		人件費(0.85 人役)		計		
決 算 額			98,926 千円		5,959 千円		104,885 千円		
市民1人当たり (36,835 人)			2,686 円		162 円		2,848 円		
児童生徒1人当たり (3,027 人)			32,681 円		1,969 円		34,650 円		
事業の目的および内容									
(1) 子どもたちが総合的な学習を通じ、幅広い体験ができるよう、各学校の校外活動の充実や学校間の交流促進のため、バスを運行します。									
(2) 徒歩通学が困難な児童のため、路線バスなどによる通学児童の支援を行い、通学環境の充実を図ります。									
(3) 給付型奨学金制度により、修学上必要な学資金の給付を行うことで、将来を担う人材の育成および市への定住を促進します。									
事業の実績 ※小学校児童数 2,001人、中学校生徒数 1,026人 (令和6年5月1日現在(学校基本調査基準日))									
(1) スクールバス5台(伊吹地域3台、山東小1台、河南小1台)の運行について、安全かつ効率的な運行を行うため、令和6年度から学校支援バスと同様にバス事業者に委託しました。 スクールバス運行管理経費(委託料、添乗員賃金等) 39,478,617円 校外活動バス借上料(延べ168台) 8,615,981円									
(2) 安全な通学環境を確保するため、路線バスおよびまいちゃん号で通学する児童への助成を行いました(59人)。 柏原小19人、山東小2人、米原小9人、息長小26人、河南小3人 2,949,210円									
(3) 将来を担う人材の育成および市への定住促進を図るため、令和6年度分の奨学金の給付を行いました。また、令和7年度分の奨学生を募集し、審査を行いました(決定者数45人)。									
年度	決定者数 A+B+C+D	廃止者数 A	停止中 猶予中 B	令和6年度		給付終了者数 D	定住者数 E	定住率 E/D	
				給付者数 C	給付額				
平成30年度分	29人	0人	0人	終了	—	29人	25人	86.2%	
令和元年度分	26人	1人	2人	終了	—	23人	17人	73.9%	
令和2年度分	32人	1人	1人	2人	510,000円	28人	23人	82.1%	
令和3年度分	40人	2人	1人	26人	9,120,000円	11人	11人	100.0%	
令和4年度分	47人	6人	1人	29人	10,440,000円	11人	8人	72.7%	
令和5年度分	33人	1人	0人	32人	11,520,000円	—	—	—	
令和6年度分	45人	0人	0人	45人	16,200,000円	—	—	—	
合計	252人	11人	5人	134人	47,790,000円	102人	84人	82.4%	
事業の成果等									
(1) 市内外への校外活動の実施により、日常の学校生活では得ることのできない体験学習や環境学習など様々な体験を通じて、子どもたちの社会性を養う一助となりました。									
(2) 小学校児童の遠距離通学に対して路線バス等の定期券を購入し、安全な通学環境の確保につなげることができました。令和6年度からは、通学バス運行业務の外部委託を行いました。									
(3) 給付型奨学金の給付により、市への愛着と誇りを持った意欲のある若者の進学を支援することができました。給付終了後の定住についてもおおむね順調に進んでいます。									

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
活動バスの運行	—	—	—	—	A
通学定期券補助事業	—	—	—	—	A
給付型奨学金制度	新たに給付型奨学金の支給を受けた者	45人	45人	100%	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
定期券補助や校外活動バスの運行については計画通り事業を実施することができました。また、給付型奨学金制度については、奨学生給付対象者が目標値を満たしたことからA評価としました。					A
③事業の課題と今後の取組					
市内小中学校の児童生徒の通学方法については、米原市内小中学校における通学に関する基本方針をに基づいて、運用している。児童数の減少や保護者の就労により少人数で下校する生徒が増えています。また、不審者への対応、通学時における熱中症のリスクが高まるなど、新たな課題が生じており、個別具体の事案についてその都度柔軟に対応する必要がある。					

款	10 教育費	項	2 小学校費	目	1 学校管理費	決算書	138 ~ 139 ページ
事業名		小学校管理運営事業				主管課	教育部 教育総務課
事業費(円)		令和6年度		令和5年度		財源内訳(円)	
予算額		38,318,000		32,913,000		国 費	
うち繰越		0		0		県 費	
決算額		35,200,893		31,306,037		市 債	
うち繰越		0		0		そ の 他	
執行率(%) / 増減率(%)		91.9 +12.4		95.1		一般財源	
						33,200,893 16,306,037	
①執行率80%以下/②増減率±50%以上の理由(令和6年度)				その他の内訳(令和6年度)			
				米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金			
				2,000,000円			
事業コスト		事業費		人件費(0.40 人 役)		計	
決 算 額		35,201 千円		2,804 千円		38,005 千円	
市民1人当たり (36,835 人)		956 円		76 円		1,032 円	
児童1人当たり (2,001 人)		17,592 円		1,401 円		18,993 円	
事業の目的および内容							
小学校施設の適切な維持管理を行い、安心安全な学習環境を確保します。							
事業の実績 ※小学校児童数 2,001人（令和6年5月1日現在（学校基本調査基準日））							
(1) 小学校施設や設備を適切に維持管理するため、各種設備等の管理業務を委託しました。 警備保障業務、設備保守点検業務等 17,576,614円							
(2) 事務機器等のリース契約を継続して行い、情報学習や学校事務に活用しました。 事務機器リース料（カラー複合機、印刷機） 1,507,968円							
(3) 施設の運営等に必要な備品を購入しました。 事務用備品、施設管理用備品、児童用机・椅子ほか 11,345,741円							
							
【更新した除雪機 息長小学校】				【更新した牛乳保冷庫 息長小学校】			
事業の成果等							
各種管理業務委託の実施、事務機器等のリースおよび施設に必要な備品の購入により、適切な学習環境の確保につなげることができました。							

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
小学校施設維持管理	—	—	—	—	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
警備保障、施設保守点検等の維持管理業務を予定通り実施できたことや、備品購入を適切に進められたことから、評価をAとしました。					A
③事業の課題と今後の取組					
今後も安全安心な学習環境を確保するため引き続き各種整備を行うとともに、施設運営等に必要な備品を計画的に更新・配備していきます。					

款	10 教育費	項	2 小学校費	目	2 教育振興費	決算書	138 ~ 141 ページ	
事業名		小学校教育振興事業				主管課	教育部 教育総務課	
事業費(円)		令和6年度		令和5年度		財源内訳(円)	令和6年度	令和5年度
予算額		32,283,000		46,483,000		国 費	1,197,000	1,144,000
うち繰越		0		0		県 費	0	0
決算額		31,073,008		43,621,925		市 債	0	0
うち繰越		0		0		そ の 他	0	0
執行率(%) / 増減率(%)		96.3	▲ 28.8	93.8		一般財源	29,876,008	42,477,925
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和6年度)					その他の内訳(令和6年度)			
事業コスト		事業費		人件費(0.35 人役)		計		
決 算 額		31,073 千円		2,454 千円		33,527 千円		
市民1人当たり (36,835 人)		844 円		67 円		911 円		
児童1人当たり (2,001 人)		15,529 円		1,226 円		16,755 円		
事業の目的および内容								
(1) 経済的、身体的な理由により、就学が困難な児童への援助を行い、安心して学習できる環境となるよう支援します。								
(2) 教育のICT化の推進のため、統合型校務支援システムおよび学校間ネットワークの適切な維持管理を行います。また、教員用ノートパソコンの更新と特別教室への電子黒板の整備を行います。								
事業の実績		※小学校児童数 2,001人 (令和6年5月1日現在 (学校基本調査基準日))						
(1) 就学が困難と認められる児童の保護者に、学校生活に必要な学用品費や給食費等の一部を援助しました。併せて、新入学児童学用品費を入学準備金として支給しました。								
要保護準要保護児童就学援助費		11,966,762円						
令和6年度入学準備金		1,027,080円						
特別支援教育就学奨励費		2,393,831円						
支給対象者の5年間の推移						(単位:人)		
区分		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
要保護児童就学援助		0	0	0	0	0		
準要保護児童就学援助		218	221	220	211	187		
入学準備金		20	22	26	23	18		
特別支援教育就学奨励		59	62	61	69	74		
(2) 保守業者と連携し、学校間ネットワークの適切な維持管理を行いました。また、教員用ノートパソコンの更新および電子黒板の導入を行いました。								
学校ネットワーク再構築業務委託 (小学校分)		9,368,000円						
教員用ノートパソコン購入 (25台)		4,171,640円						
電子黒板購入 (2台)		656,590円						
事業の成果等								
(1) 家庭への経済的負担を軽減することで、児童の学習環境を確保し義務教育の円滑な実施に与ることができました。特に、入学準備金については、時機に合わせて支給することで、より有益な援助につながりました。								
(2) システムの適切な維持管理を実施することにより、教員および児童にICT教育の学習環境を円滑に提供することができました。								

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
小学校就学援助業務	—	—	—	—	A
教育のICT化推進	—	—	—	—	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
就学援助制度により、経済的・身体的理由により就学が困難な家庭を援助することで、学習環境の確保に寄与することができました。また、統合型校務支援システムおよび学校間ネットワークの適切な維持管理や教員用ノートパソコンの更新、電子黒板の整備など教育のICT化の推進に取り組めたことから、評価をAとしました。					A
③事業の課題と今後の取組					
就学援助制度については、経済的支援を必要とする世帯に支援が行き届くよう、情報発信等制度の周知をしっかりと行う必要があります。					

款	10 教育費	項	2 小学校費	目	3 施設整備費	決算書	140 ~ 141 ページ
事業名		小学校施設整備事業				主管課	教育部 教育総務課
事業費(円)	令和6年度	令和5年度		財源内訳(円)		令和6年度	令和5年度
予算額	1,834,400,000	1,490,000,000		国 費	217,554,000	56,753,000	
うち繰越	1,102,500,000	382,900,000		県 費	0	0	
決算額	1,128,671,886	347,206,297		市 債	856,900,000	263,500,000	
うち繰越	1,084,783,000	329,676,700		そ の 他	35,224,000	348,000	
執行率(%) / 増減率(%)	61.5	+225.1	23.3	一般財源	18,993,886	26,605,297	
①執行率80%以下/②増減率±50%以上の理由(令和6年度)				その他の内訳(令和6年度)			
① 国の補正予算に伴う事業実施により、坂田小学校長寿命化改良建築工事外6件を令和7年度に繰り越したため。 ＜令和7年度への繰越額＞ 687,100,000円				教育施設整備基金繰入金 32,695,000円 繰越事業費等充当財源繰越金 2,529,000円			
② 坂田小学校長寿命化改良事業の進捗により事業費が増加したため。							
事業コスト		事業費		人件費(0.70 人 役)		計	
決 算 額		1,128,672 千円		4,908 千円		1,133,580 千円	
市民1人当たり (36,835 人)		30,641 円		133 円		30,774 円	
児童1人当たり (2,001 人)		564,054 円		2,453 円		566,507 円	
事業の目的および内容							
安心安全で快適な学習環境を確保するため、施設の修繕や改修など緊急性の高いものから順次計画的に整備します。また、予防保全型の維持管理へ転換し、計画的に施設の点検等を行い、不具合を未然に防止します。							
事業の実績 ※小学校児童数 2,001人 (令和6年5月1日現在 (学校基本調査基準日))							
(1) 坂田小学校駐車場造成工事 14,286,800円 駐車場整備のための造成工事を行いました。 路床盛土 V=910m3 側溝工PU1-240 L=187mほか							
(2) 伊吹小学校校舎照明改修工事 (繰越) 27,616,600円 快適な学習環境を確保するため、校舎照明をLEDに改修しました。 照明改修 354か所、その他照明改修 9か所ほか							
(3) 大原小学校トイレ改修工事 (第2期工事) (繰越) 58,833,500円 快適な学習環境を確保するため、トイレ改修工事を行いました。 トイレ改修工事 6か所ほか 監理委託費 2,310,000円、工事費 56,523,500円							
(4) 坂田小学校長寿命化改良工事 (令和6年度分) (繰越) 905,737,500円 学校施設長寿命化計画に基づき、坂田小学校長寿命化改良工事を進めました。令和7年度の完成に向けて、普通教室棟の建築工事、電気設備工事、機械設備工事、ネットワーク環境移設復旧工事および体育館外壁改修工事等を実施しました。 事業期間 令和5年度から令和7年度まで 事業全体 監理委託費 8,030,000円、工事費 1,542,277,000円 令和6年度分 監理委託費 4,818,000円、工事費 900,919,500円 普通教室棟および体育館改修工事 1式							

事業の実績

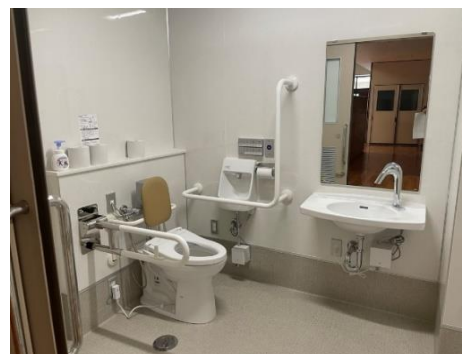
令和6年度実施事業の写真



【整備後の駐車場 坂田小学校】



【照明改修後の特別教室（音楽室） 伊吹小学校】



【改修後の児童用トイレおよびバリアフリートイレ 大原小学校】



【改修後の理科室および体育館（外壁） 坂田小学校】

事業の成果等

各種の整備工事や不具合箇所の補修により、安心安全で快適な学習環境の確保につなげることができました。

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
小学校施設整備事業	—	—	—	—	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
学校施設の長寿命化にかかる大規模改修工事や照明のLED化等を実施し、安全で快適な学習環境の確保に寄与できたことから、評価をAとしました。					A
③事業の課題と今後の取組					
米原市学校施設長寿命化計画に基づく改修工事や、老朽化に伴う修繕等を計画的に進めるとともに、交付金等の財源確保に努める必要があります。 各学校校舎の空調設備の整備は終えているが、体育館については未整備の状況にある。地球温暖化等の影響による気温の上昇により、児童生徒の熱中症のリスクが高まっていることや、災害時には避難所としていることなどから空調設備の必要性が高まっている。					

款	10 教育費	項	3 中学校費	目	1 学校管理費	決算書	140 ~ 143 ページ		
事業名		中学校管理運営事業				主管課	教育部 教育総務課		
事業費(円)		令和6年度		令和5年度		財源内訳(円)		令和6年度	令和5年度
予算額		19,298,000		21,637,000		国 費		0	0
うち繰越		0		0		県 費		0	0
決算額		17,594,528		20,597,152		市 債		0	0
うち繰越		0		0		そ の 他		1,000,000	9,000,000
執行率(%) / 増減率(%)		91.2	▲ 14.6	95.2		一般財源		16,594,528	11,597,152
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和6年度)					その他の内訳(令和6年度)				
					米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 1,000,000円				
事業コスト			事業費		人件費(0.45 人 役)		計		
決 算 額			17,595 千円		3,155 千円		20,750 千円		
市民1人当たり (36,835 人)			478 円		86 円		564 円		
生徒1人当たり (1,026 人)			17,149 円		3,075 円		20,224 円		
事業の目的および内容									
中学校施設の適切な維持管理を行い、安心安全な学習環境を確保します。									
事業の実績 ※中学校生徒数 1,026人（令和6年5月1日現在（学校基本調査基準日））									
(1) 中学校施設や設備を適切に維持管理するため、各種設備等の管理業務を委託しました。 警備保障業務、設備保守点検業務等 12,926,650円									
(2) 事務機器等のリース契約を継続して行い、情報学習や学校事務に活用しました。 事務機器リース料（カラー複合機、印刷機） 1,005,312円									
(3) 施設の運営等に必要な備品を購入しました。 事務用備品、施設管理用備品、生徒用机・椅子ほか 2,776,664円									
									
【更新した牛乳保冷库 柏原中学校】					【更新した牛乳保冷库 米原中学校】				
事業の成果等									
各種管理業務委託の実施、事務機器等のリースおよび施設に必要な備品の購入により、適切な学習環境の確保につなげることができました。									

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
中学校施設維持管理	—	—	—	—	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
警備保障、施設保守点検等の維持管理業務を予定通り実施できたことや、備品購入を適切に進められたことから、評価をAとしました。					A
③事業の課題と今後の取組					
今後も安全安心な学習環境を確保するため引き続き各種整備を行うとともに、施設運営等に必要な備品を計画的に更新・配備していきます。					

款	10 教育費	項	3 中学校費	目	2 教育振興費	決算書	142 ~ 143 ページ	
事業名 中学校教育振興事業						主管課	教育部 教育総務課	
事業費(円)		令和6年度		令和5年度		財源内訳(円)	令和6年度	令和5年度
予算額		52,792,000		61,495,000		国 費	14,257,000	24,577,000
うち繰越		0		0		県 費	0	0
決算額		50,892,942		57,241,171		市 債	0	0
うち繰越		0		0		そ の 他	13,485,832	1,184,521
執行率(%) / 増減率(%)		96.4	▲ 11.1	93.1		一般財源	23,150,110	31,479,650
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和6年度)						その他の内訳(令和6年度)		
						地域の絆でまちづくり基金繰入金 13,485,832円		
事業コスト			事業費		人件費(0.35 人 役)		計	
決 算 額			50,893 千円		2,454 千円		53,347 千円	
市民1人当たり (36,835 人)			1,382 円		67 円		1,449 円	
生徒1人当たり (1,026 人)			49,603 円		2,392 円		51,995 円	
事業の目的および内容								
(1) 経済的、身体的な理由により、就学が困難な生徒への援助を行い、安心して学習できる環境となるよう支援します。								
(2) 教育のICT化の推進のため、統合型校務支援システムおよび学校間ネットワークの適切な維持管理を行います。また、教員用ノートパソコンの更新と特別教室への電子黒板の整備を行います。								
(3) 子どもが安心して中学校に入学し、学びや部活動など充実した学校生活が送れるよう、中学校入学支援金制度により、入学時の制服や自転車等の購入費および部活動開始後の用具費等について、引き続き支援を行います。								
事業の実績 ※中学校生徒数 1,026人 (令和6年5月1日現在 (学校基本調査基準日))								
(1) 就学が困難と認められる生徒の保護者に、学校生活に必要な学用品費や給食費等の一部を援助しました。								
要保護準要保護生徒就学援助費 12,451,721円								
特別支援教育就学奨励費 1,444,675円								
支給対象者の5年間の推移 (単位：人)								
区分		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
要保護生徒就学援助		0	2	1	0	0		
準要保護生徒就学援助		106	124	129	137	127		
入学準備金		35	36	0	0	0		
特別支援教育就学奨励		19	21	24	26	31		
(2) 保守業者と連携し、学校間ネットワークの適切な維持管理を行いました。また、教員用ノートパソコンの更新および電子黒板の導入を行いました。								
学校ネットワーク再構築業務委託 (中学校分) 6,208,000円								
教員用ノートパソコン購入 (13台) 2,084,830円								
電子黒板購入 (3台) 952,380円								
(3) 新中学1年生が充実した学校生活を開始できるよう、中学校入学支援金および部活動用具等購入補助金を交付し、入学時の学用品費等の購入に対する支援を行いました。								
中学校入学支援金 (令和6年度入学者 351人/359人、交付率97.7%) 23,010,000円								
部活動用具等購入補助金 (266人/346人、交付率76.8%) 4,010,832円								
事業の成果等								
(1) 家庭への経済的負担を軽減することで、生徒の学習環境を確保し義務教育の円滑な実施に寄与することができました。								
(2) システムの適切な維持管理を実施することにより、教員および生徒にICT教育の学習環境を円滑に提供することができました。								
(3) 中学校入学時に必要となる費用の負担軽減により、新中学1年生の充実した学校生活の開始に寄与することができました。								

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
中学校就学援助業務	—	—	—	—	A
入学支援金・ 部活動用具等購入補助金	—	—	—	—	A
教育のICT化推進	—	—	—	—	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
<p>就学援助制度により、経済的・身体的理由により就学が困難な家庭を援助することで、学習環境の確保に寄与することができました。また、統合型校務支援システムおよび学校間ネットワークの適切な維持管理や教員用ノートパソコンの更新、電子黒板の整備など教育のICT化の推進に取り組みました。中学校入学支援金、部活動用具等購入補助金については、所得制限の廃止や、制度周知を丁寧に行ったことにより、交付率を大幅に向上し、制度の有効活用を図ることができました</p>					A
③事業の課題と今後の取組					
<p>就学援助制度については、経済的支援を必要とする世帯に支援が行き届くよう、情報発信等制度の周知をしっかりと行う必要があります。</p>					

款	10 教育費	項	3 中学校費	目	3 施設整備費	決算書	142 ～ 143 ページ	
事業名		中学校施設整備事業				主管課	教育部 教育総務課	
事業費(円)		令和6年度		令和5年度		財源内訳(円)	令和6年度	令和5年度
予算額		272,200,000		284,800,000		国 費	34,654,000	27,338,000
うち繰越		161,400,000		80,900,000		県 費	0	0
決算額		157,635,300		118,391,307		市 債	108,800,000	49,500,000
うち繰越		143,154,000		78,638,340		そ の 他	9,415,000	318,000
執行率(%) / 増減率(%)		57.9	+33.1	41.6		一般財源	4,766,300	41,235,307
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和6年度)					その他の内訳(令和6年度)			
① 国の補正予算に伴う事業実施により、柏原中学校防災機能強化工事外3件を令和7年度に繰り越したため。 ＜令和7年度への繰越額＞ 95,100,000円					教育施設整備基金繰入金 9,415,000円			
事業コスト		事業費		人件費(0.75 人 役)		計		
決 算 額		157,635 千円		5,258 千円		162,893 千円		
市民1人当たり (36,835 人)		4,279 円		143 円		4,422 円		
生徒1人当たり (1,026 人)		153,640 円		5,125 円		158,765 円		
事業の目的および内容								
安心安全で快適な学習環境を確保するため、施設の修繕や改修など緊急性の高いものから順次計画的に整備します。また、予防保全型の維持管理へ転換し、計画的に施設の点検等を行い、不具合を未然に防止します。								
事業の実績		※中学校生徒数 1,026人（令和6年5月1日現在（学校基本調査基準日））						
(1) 伊吹山中学校放送卓改修工事 1,865,600円 老朽化した放送卓の更新を行いました。 放送卓更新 1式								
(2) 柏原中学校校舎照明改修工事（繰越） 28,880,500円 快適な学習環境を確保するため、校舎照明をLEDに改修しました。 照明改修 322か所、高圧受電設備改修 1式								
(3) 伊吹山中学校トイレ改修工事（第1期工事）（繰越） 32,110,100円 快適な学習環境を確保するため、トイレ改修工事を行いました。 監理委託費 1,947,000円、工事費 30,163,100円								
(4) 双葉中学校グラウンド改修工事（繰越） 82,163,400円 排水機能が低下した双葉中学校のグラウンドおよび施設改修工事を行いました。 グラウンド舗装 8,717㎡、防球ネット 2,235㎡ほか								

事業の実績

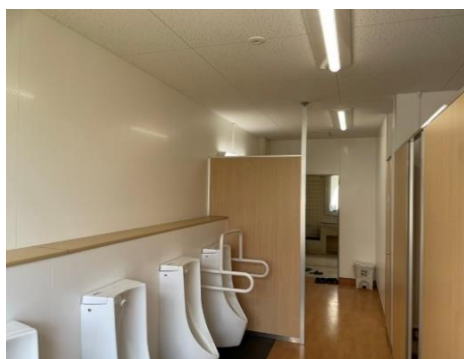
令和6年度実施事業の写真



【更新後の放送設備 伊吹山中学校】



【照明改修後の特別教室（コンピューター室、美術室） 柏原中学校】



【改修後の生徒用トイレ 伊吹山中学校】



【改修後のグラウンド 双葉中学校】

事業の成果等

各種の整備工事や不具合箇所の補修により、安心安全で快適な学習環境の確保につなげることができました。

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
中学校施設整備事業	—	—	—	—	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
学校施設の長寿命化にかかる大規模改修工事や照明のLED化等を実施し、安全で快適な学習環境の確保に寄与できたことから、評価をAとしました。					A
③事業の課題と今後の取組					
米原市学校施設長寿命化計画に基づく改修工事や、老朽化に伴う修繕等を計画的に進めるとともに、交付金等の財源確保に努める必要があります。 各学校校舎の空調設備の整備は終えているが、体育館については未整備の状況にある。地球温暖化等の影響による気温の上昇により、児童生徒の熱中症のリスクが高まっていることや、災害時には避難所としていることなどから空調設備の必要性が高まっている。					

款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育振興費	決算書	134 ~ 139 ページ		
事業名		事務局教育振興事業				主管課	教育部 学校教育課		
事業費(円)		令和6年度		令和5年度		財源内訳(円)		令和6年度	令和5年度
予算額		95,170,000		106,696,000		国 費		150,000	1,931,000
うち繰越		0		15,300,000		県 費		7,490,896	5,907,939
決算額		85,834,869		86,222,945		市 債		0	0
うち繰越		0		3,574,780		そ の 他		8,520,938	8,115,646
執行率(%) / 増減率(%)		90.2	▲ 0.5	80.8		一般財源		69,673,035	70,268,360
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和6年度)					その他の内訳(令和6年度)				
					地域の絆でまちづくり基金繰入金 8,438,438 円 家庭学習用Wi-Fi通信費保護者負担金 82,500 円				
事業コスト			事業費		人件費(6.70 人 役)		計		
決 算 額			85,835 千円		46,974 千円		132,809 千円		
市民1人当たり (36,835 人)			2,330 円		1,275 円		3,605 円		
児童生徒1人当たり (3,027 人)			28,356 円		15,518 円		43,874 円		
事業の目的および内容									
(1) 児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高めるとともに、学ぶ意欲を引き出し、確かな学力を育みます。									
(2) 校内フリースクールとしてのステップ・フォワード・プログラムを充実させ、不登校生徒の社会的自立につなげるとともに、利用対象者を小学生に拡大することを検討します。									
(3) 特別な支援が必要な児童生徒の増加に伴う特別支援教育の充実を行います。									
(4) 教員によるICT機器の使用較差を減らし、どの学校・学級においても、個別最適な学びの体制を整えます。									
(5) コミュニティスクール事業・地域学校協働推進本部事業の充実に努め、地域人材の力を取り入れたり、地域の人たちとの関わりを通して社会性を高めたりするなど、地域の良さを生かした特色ある教育を進めます。									
事業の実績 ※小学校児童数 2,001人、中学校生徒数 1,026人 (令和6年5月1日現在(学校基本調査基準日))									
(1) 会計年度任用職員配置事業 各種会計年度任用職員の配置を行いました。特に、教科を指導する非常勤講師やスクールカウンセラーを派遣し、学習指導や児童生徒支援等の充実に努めました。									
非常勤講師報酬等(28人) 15,311,516円 スクールカウンセラー(6人) 3,451,343円 ※延べ1,234人の面談を実施し、課題解決に取り組みました。									
スクールソーシャルワーカー(2人) 1,251,558円 母語支援員(1人) 230,000円 いじめ等対応支援員報酬等(1人) 854,344円 いじめ問題調査委員会委員報酬等(3回) 126,740円 ※いじめ事案報告件数275件(令和5年度 267件)									
(2) スクールロイヤー配置事業 学校で起こるいじめや保護者の対応について、学校問題を専門とする弁護士に事業を委託し、法的側面から指導、助言を受けました。また、いじめ問題専門委員会への出席や、いじめ問題に関する教員向けの研修会で講師として指導いただきました。									
直接面談(12回)、電話相談(4回)、メール相談(3回) スクールロイヤー委託料 713,500円									
(3) フリースクール利用支援補助事業 フリースクールに通う児童生徒2人への支援を行い、不登校児童生徒の学びの場の確保に努めました。									
フリースクール利用支援補助金 96,000円 不登校対策調査協力補助金(フリースクールアンケート協力金) 90,000円									

事業の実績

(4) ステップ・フォワード・プログラム事業

教室に入れない生徒のための居場所を開設し、ガイドウォーカー（支援員）がサポートしながら、各種活動を通じて社会的自立を支援しました。

ガイドウォーカー報酬等（2人）	2,644,612円
消耗品費	6,480円

(5) 特別な支援が必要な児童生徒への就学支援指導

①特別支援教育支援委員会（10回）

医師や専門的識見者等17人が委員となる特別支援教育支援委員会を開催し、特別支援が必要な幼児や児童生徒88人（令和5年度 92人）について調査、審議を行い、適切な就学先等の答申を受けました。

特別支援教育支援委員会委員報酬等	146,060円
就学相談員謝礼等	125,260円

②通級指導教室（小学校4教室、中学校2教室）

147人（令和5年度 150人）の児童生徒に対し、発音や発達障がいに関わる支援等、児童生徒の個々の状況に応じた指導を行いました。また、発達検査や教育相談を実施しました。

通級指導教室（消耗品費、備品購入費等）	1,073,049円
---------------------	------------

(6) コミュニティ・スクール推進事業、地域学校協働活動推進事業

保護者や地域の人々が持つ豊かで専門的な力を取り入れ、地域に根ざしたコミュニティ・スクール推進事業を全小中学校で進めました。また、全ての中学校区で地域学校協働本部を運営し、地域コーディネーターを中心に学校のニーズに応じた支援を行いました。

コミュニティ・スクール推進事業	5,543,872円
地域学校協働本部事務経費（消耗品費等）	299,083円
地域コーディネーター等謝礼	1,746,560円

※環境整備、部活動指導および学習支援を含む。

(7) シビック・プライド（愛郷心と地域貢献）の醸成事業

イングリッシュ・オラトリカル・パフォーマンス・ミートの開催	28,234円
「演劇の子」事業（委託料、施設使用料、自動車借上料）	1,476,520円
「平和の子」事業（講師謝礼、自動車借上料、消耗品費）	515,082円
生徒会×伊吹山再生復元プロジェクト（消耗品費、通信運搬費等）	117,330円

(8) 脱炭素の取組および熱中症対策のための、ウォーターサーバーの設置（4か月間）

サーバー賃借料（各校1台）	46,200円
ウォーターボトル購入（477本）	515,160円

事業の成果等

- (1) いじめ等対応支援員を配置し、いじめの解消に向けた取組を進めるとともに、いじめ問題専門委員会の実施等により、地域・保護者等に向けた啓発紙の検討・作成に取り組むことができました。
- (2) 不登校生徒の居場所となるステップ・フォワード・プログラムに5人の生徒が参加し、生徒間の交流や近隣施設でのボランティア等、社会的自立に向けた活動を行うことができました。
- (3) 「演劇の子」ではプロの劇団の生観劇を通して、「平和の子」では遺族会の体験談を通して、そして生徒会フォーラムでは伊吹山再生に向けた取組を通して、児童生徒のシビックプライドを高めることができました。課題として、今後も継続して実施できるよう持続可能な方法を検討していく必要があります。

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
基礎学力の向上	全国学力・学習状況調査の国語科、算数科、数学科における正答率と回答率	県平均を上回る	小国×算× 中国○数○	50.0%	C
外国語教育の推進	全国学力・学習状況調査「英語の授業の内容はよくわかる」児童生徒の割合	小75% 中80%	—	—	—
教育情報化の推進	全国学力・学習状況調査「授業でPC・タブレットを毎日使用している」児童生徒の割合	80%	小56.8% 中62.3%	小71% 中77.9%	B
道徳教育・人権教育の推進	全国学力・学習状況調査「自分には良いところがあると思う」児童生徒の割合	小85% 中85%	小88.4% 中87.0%	小104% 中77.9%	A
地域における学校園間・世代間交流の推進	地域学校協働ボランティア登録数	1,000人	818人	81.8%	A
学校等における体育指導等の充実	「子ども（小5・中2）の体力・運動能力テスト」の体力合計点	全国平均点を上回る	小5男× 小5女× 中2男○ 中2女○	50%	C
基本的生活習慣の形成	全国学力・学習状況調査「朝食を毎日食べている」児童生徒の割合	小98% 中98%	小88.4% 中83.6%	小90.2% 中85.3%	A
ふるさとを愛し、誇りに思う心の育成	全国学力・学習状況調査「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」児童生徒の割合	小55% 中45%	小82.3% 中79.8%	小149.6% 中177.3%	A
不登校に対する支援の充実	不登校児童生徒数	小15人 中30人	小39人 中50人	小2.6倍 中1.6倍	C
いじめの防止等の措置	全国学力・学習状況調査「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」児童生徒の割合	小100% 中100%	小98.2% 中96.9%	小98.2% 中96.9%	A
いじめの防止等の措置	認知したいじめの解消率	100%	96%	96%	A
コミュニティ・スクールの推進	学校HPによるCSや学校運営協議会のページの設置率	100%	27%	27%	C
学校教育活動の地域住民への発信	学校HPによる学校ブログや学校だよりの公開の実施率	100%	93%	93%	A
通学路の安全確保	スクールガード登録者数	1,000人	800人	80%	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
・学力調査については、小学校では県平均を超えられなかったが、中学校では超えることができた。 ・不登校児童生徒数は目標を大きく超えてしまったが、在籍率は前年度よりも減少した。					
②事業の総合評価					
評価の理由				総合評価	
・「いじめ解消率」「CSの学校HP活用」「学校ブログ」の3点について、新たに指標とした。 ・本市が重点としている自己肯定感に関する質問については、県や全国平均を超えている。基本的な生活習慣や地域とのつながりといったところもよい数値が出ている。これらの成果を共有しつつ、さらに充実した教育活動に取り組んでいきたい。				B	
③事業の課題と今後の取組					
・「シビックプライドの醸成」「自己肯定感と自己有用感の育成」「道徳教育」等、近年本市教育が取り組んでいる領域に関する観点について、質問紙調査の結果はおおむね良好な結果である。 ・市内の学校からPTAが徐々に消滅している。学校と地域とが一体化し、持続可能な学校教育としてのコミュニティ・スクールや学校運営協議会の充実が欠かせない。これらの効果的な発信方法を模索していきたい。					

款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育振興費	決算書	134 ~ 139 ページ	
事業名		教育センター事業				主管課	教育部 学校教育課	
事業費(円)		令和6年度		令和5年度		財源内訳(円)	令和6年度	令和5年度
予算額		1,362,000		1,383,000		国 費	0	0
うち繰越		0		0		県 費	0	0
決算額		1,283,576		1,199,657		市 債	0	0
うち繰越		0		0		そ の 他	0	0
執行率(%) / 増減率(%)		94.2	+7.0	86.7		一般財源	1,283,576	1,199,657
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和6年度)					その他の内訳(令和6年度)			
事業コスト			事業費		人件費(1.20 人 役)		計	
決 算 額			1,284 千円		8,413 千円		9,697 千円	
市民1人当たり (36,835 人)			35 円		228 円		263 円	
児童生徒1人当たり (3,027 人)			424 円		2,779 円		3,203 円	
事業の目的および内容								
<p>(1) 市独自の学力状況調査(小学校4年生 国語、算数)および意識調査を実施し、その分析結果を基に課題を明確にすることで、学力の定着を目指した授業改善につなげます。また、自己肯定感・自己有用感育成調査研究部会やICT活用に関する調査研究、郷土愛に関する調査研究部会等を実施します。</p> <p>(2) 教職員全員研修会や教育研究発表大会を実施し、教育に関する諸課題について研鑽を深めます。また、若手教職員研修や教頭研修等の職層別研修を行い人材育成に努めます。</p> <p>(3) 研修講座では、授業力向上研修に加え、今日的な課題である幼小連携や特別支援教育、ICT活用に関する講座等、教職員のニーズに応じた講座を実施します。</p>								
事業の実績 ※小学校児童数 2,001人、中学校生徒数 1,026人 (令和6年5月1日現在(学校基本調査基準日))								
<p>(1) 教育センター主催の全員研修会(8月)、不祥事防止研修(11月)、調査研究発表大会(2月)は、動画配信で行いました。また、市の初任者研修や教頭研修、若手教職員研修、夏季研修講座、TMT研修など、全38回の研修および講座を実施しました。さらに、ICTに関する調査研究部会では、令和3年度から本格実施となった1人1台タブレット端末の効果的な活用について授業実践を行い、その成果と課題を各学校と共有しました。</p> <p>①小中教職員全員研修会 令和6年8月19日 動画配信 ②調査研究発表大会 令和7年2月12日 動画配信 教育センターおよび各部研修会講師謝礼 214,530円</p> <p>(2) 小学校4年生の学力状況調査を6月に実施し、その分析結果を基に、指導法の工夫改善に関する実践研究を行いました。 学力状況調査委託料 383,761円</p> <p>(3) 教育資料の作成に関する事業として、教育センターだより「はぐくみ」、研究紀要「米原教育」、研究論文集の発刊(DVD配布)を行いました。 消耗品費等 103,231円</p> <p>(4) その他 各教育関係部会補助金および負担金 214,513円</p>								
<div><div>【夏季研修講座】</div><div></div></div>								
事業の成果等								
<p>(1) 市内の教職員を対象に各種研修および講座を開催し、指導力の向上につなげることができました。また、教職員全員研修会では93%、教育研究発表大会では96%の参加者から、内容が分かりやすい等、肯定的な評価を得ました。</p> <p>(2) 学力状況調査は、基礎的な学力の定着と主体的・対話的で深い学びを視点とする授業改善のための基礎資料として活用し、より良い授業につなげることができました。</p> <p>(3) 教職員の専門性や指導力の向上を目標にICTに関する調査研究部会を開催し、「主体的・対話的で深い学びを実現するICTを活用した授業づくり」をテーマに調査・研究を進め、市内に発信しました。</p> <p>(4) 教育研究奨励事業として、43点の研究論文・実践報告(個人)の応募があり、教職員の自主的な教育研究、自己研鑽による指導力の向上につながりました。</p>								

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
ヤングケアラーの把握・支援	貧困等に関する教職員への研修実施回数	1回	0回	0%	C
特別支援教育の充実	教員、保育者が出席する特別支援教育等に関する研修会数	4回	2回	50%	C
性的マイノリティの児童生徒の支援	性的マイノリティの課題を含む人権研修の実施回数	1回	1回	100%	A
教員・保育者の指導力の向上	教育センター開講講座・研修会の延べ受講人数	1,000人	1177人	118%	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
・ヤングケアラーについては、昨年度多くの教職員が学ぶ機会があったために実施しなかった。 ・夏季研修のテーマを多岐にわたって展開した結果、特別支援教育については2回となった。					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
・教職員が学ばなければならない知識や技能は、多岐にわたっており、それにこたえられる研修を実施できるよう努力をしているが、教職員のニーズや社会的な必要性、講師のスケジュール等の都合で、すべての観点を網羅するまでには至っていない。					B
③事業の課題と今後の取組					
・教職員に求められる資質や知識・技能は、年々幅広くなっている。しかし、学校は若年教職員が大半を占め、社会からの要望に応えるためには、研修の機会の確保が重要である。研修は、公教育の質を担保する大変重要なものであるため、次年度以降も本市の実情にマッチし、社会的な要求に答えられるような研修を実施していきたい。					

款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育振興費	決算書	134 ~ 139 ページ		
事業名		子どもサポート事業				主管課	教育部 学校教育課		
事業費(円)		令和6年度		令和5年度		財源内訳(円)		令和6年度	令和5年度
予算額		65,655,000		54,536,000		国 費		0	0
うち繰越		0		0		県 費		1,743,000	1,086,000
決算額		64,429,904		52,851,105		市 債		0	0
うち繰越		0		0		そ の 他		0	0
執行率(%) / 増減率(%)		98.1	+21.9	96.9		一般財源		62,686,904	51,765,105
①執行率80%以下/②増減率±50%以上の理由(令和6年度)					その他の内訳(令和6年度)				
事業コスト		事業費		人件費(1.40 人 役)		計			
決 算 額		64,430 千円		9,815 千円		74,245 千円			
市民1人当たり (36,835 人)		1,749 円		266 円		2,015 円			
児童生徒1人当たり (3,027 人)		21,285 円		3,242 円		24,527 円			
事業の目的および内容									
(1) 特別な支援が必要な児童生徒や不登校傾向の児童生徒に対して、子どもケアサポーターを小中学校へ派遣し、担任と連携してきめ細かな指導および支援を行います。									
(2) 小中学校の不登校児童生徒に対して、心の安定を図るとともに、学力や生活力の向上に向けた支援を行うため、教育支援センターを運営します。									
(3) 小中学校の児童生徒および保護者の教育相談や児童生徒の発達検査を実施し、学校との連携を深めます。									
事業の実績 ※小学校児童数 2,001人、中学校生徒数 1,026人 (令和6年5月1日現在(学校基本調査基準日))									
(1) ケアサポーター配置事業 (実人数38人 延べ人数62人) 子どもケアサポーター36人を市内9小学校、6中学校に年間210日派遣しました。 また、2人のスクーリングケアサポーターを小中学校に年間226回(887時間)派遣しました。									
子どもケアサポーター報酬等 60,993,151円									
(2) 不登校児童生徒に対する教育支援センター「みのり」の運営 教育支援センター「みのり」では、延べ10人の児童生徒が通所し、2人の指導員が週5回、年間200回の指導を行いました。そのうち、5人が学校復帰しています。 また、教育支援センターへの通級希望者に向けた体験見学の機会を設けました。									
指導員報酬等 3,287,613円									
(3) 児童生徒の心の安定を図る教育相談 こころの教育相談事業では、心理判定員(臨床心理士)1人による本庁舎、山東支所での相談、電話相談および訪問相談などの相談体制を整備しました。									
事業の成果等									
(1) 特別な支援を必要とする児童生徒や不登校による別室登校の児童生徒への個別支援を行うことにより、心の安定を図り、学習課題に意欲を持って取り組む姿が見られるようになりました。									
(2) 不登校傾向の児童生徒の保護者と学校、教育支援センター指導員、心理判定員との連携や相談を密にすることにより、教育支援センターへの通所や在籍校への復帰、放課後登校等の成果が見られました。また、教育支援センターにおける体験や見学は、児童生徒の自立を助けるための有効な活動であり、学校復帰の足掛かりとなりました。									

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
子どもケアサポーターの派遣	子どもケアサポーターの派遣人数	35人	36人	103%	A
「みのり」での不登校児童生徒支援	「みのり」での支援を受けた児童生徒の学校復帰率	30%	50%	167%	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
・「みのりでの児童生徒支援の状況」について、新たに指標とした。 ・子どもケアサポーターの配置だけでなく、教育支援センターの整備、校内教育支援センターへの支援員派遣、民間フリースクールを利用する児童生徒保護者への経済的な支援等、支援の体制は年々充実して生きている。					A
③事業の課題と今後の取組					
・減少する児童生徒数に対して、特別な支援を必要とする児童生徒や不登校児童生徒数は増加傾向である。サポーター配置によって、一定個別支援を実施できているが、学校に登校していない児童生徒にはなかなか支援が行き届いていない。一人でも多くの児童生徒が教育支援センター「みのり」「SFP」への通室につながるよう学校・保護者・児童生徒への周知に努めたい。					

款	10	教育費	項	2	小学校費	目	1	学校管理費	決算書	138 ~ 139	ページ
事業名		小学校管理運営事業							主管課	教育部 学校教育課	
事業費(円)		令和6年度		令和5年度		財源内訳(円)		令和6年度	令和5年度		
予算額		94,468,000		106,066,000		国 費		0	0		
うち繰越		0		0		県 費		0	0		
決算額		85,277,882		78,158,915		市 債		0	0		
うち繰越		0		0		そ の 他		1,228,390	1,254,325		
執行率(%) / 増減率(%)		90.3	+9.1	73.7		一般財源		84,049,492	76,904,590		
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和6年度)						その他の内訳(令和6年度)					
						小学校共済掛金保護者負担金 839,040円					
						要保護児童生徒共済掛金補助金 27,000円					
						小学校施設使用料 362,350円					
事業コスト			事業費			人件費(0.70 人 役)		計			
決 算 額			85,278 千円			4,908 千円		90,186 千円			
市民1人当たり (36,835 人)			2,315 円			133 円		2,448 円			
児童1人当たり (2,001 人)			42,618 円			2,453 円		45,071 円			
事業の目的および内容											
(1) 開かれた学校づくりを一層推進するために、学校運営協議会を開催し、地域からの意向を反映しながら地域とともにある学校づくりを進めます。											
(2) 小学校の児童が安全・安心で質の高い教育が受けられるよう適切に学校管理を行うとともに、健やかに学校生活を過ごせるよう児童、教職員の健康管理を行います。											
事業の実績 ※小学校児童数 2,001人 (令和6年5月1日現在 (学校基本調査基準日))											
(1) 一般管理											
小学校の児童が安全安心に学校生活を送れるよう、適切な学校管理を行いました。											
学校運営協議会委員報酬等 596,620円											
光熱水費 46,143,396円											
通信運搬費 3,249,706円											
葉刈り、剪定などの委託料 632,895円											
事務機器使用料 1,364,943円											
会計年度任用職員 (学校校務員) 給料等 18,372,251円											
(正規学校校務員の配置のない小学校8校に配置)											
(2) 健康管理											
小学校の児童が健やかに学校生活を過ごせるように、児童および教職員の健康管理を行いました。											
児童、教職員健康診断業務委託料 2,830,366円											
校医、歯科医、薬剤師報酬 3,848,740円											
日本スポーツ振興センター共済掛金 1,875,610円											
飲料水検査委託料 (年1回) 99,000円											
事業の成果等											
(1) 各学校施設、設備等を適切に管理運営することができました。											
(2) 学校運営協議会を開き、学校と家庭、地域との連携の在り方について協議を行うとともに、学校運営協議会委員からの意見や学校経営の評価等により、地域の声を的確に把握しながら、学校経営を行うことができました。											

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
地域連携に向けた学 校園の環境・体制の 充実	学校運営協議会委員年間活動平均回数	4回	4.89回	122%	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
・ 学校運営協議会の開催は、学校によって差があるものの、3～7回とどの学校も定例開催を行い、熟議を重ねている。					A
③事業の課題と今後の取組					
・ 市内小中学校において、PTAを廃止する学校が増えてきた。その理由としては、この学校運営協議会が機能していることが大きいという。特にPTAを廃止した学校においては、学校運営協議会での議論の内容を、通信や学校HPなどを活用して、保護者や地域住民に広く周知していく必要があるだろう。					

款	10 教育費	項	2 小学校費	目	2 教育振興費	決算書	138 ~ 141 ページ	
事業名		小学校教育振興事業				主管課	教育部 学校教育課	
事業費(円)		令和6年度		令和5年度		財源内訳(円)	令和6年度	令和5年度
予算額		21,890,000		48,643,000		国 費	94,000	94,810
うち繰越		0		0		県 費	0	0
決算額		20,247,356		47,570,055		市 債	0	0
うち繰越		0		0		そ の 他	0	0
執行率(%) / 増減率(%)		92.5	▲ 57.4	97.8		一般財源	20,153,356	47,475,245
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和6年度) ②教科書改定に伴う購入費が減少したため。					その他の内訳(令和6年度)			
事業コスト		事業費		人件費(1.50 人 役)		計		
決 算 額		20,247 千円		10,517 千円		30,764 千円		
市民1人当たり (36,835 人)		550 円		286 円		836 円		
児童1人当たり (2,001 人)		10,118 円		5,256 円		15,374 円		
事業の目的および内容								
(1) デジタル教科書を整備し、デジタル教材を活用することにより、主体的かつ対話的で深い学びを推進します。 (2) 各小学校に新聞紙・朝刊(2紙)を配備し、子ども達の読み解く力を育てます。 (3) 全ての小学校で英語教育の充実を図ります。現行の外国語活動に加え、つづりと発音の関係の理解を深める教材やスピーキング力を上達させる教材等を使ったモジュール学習(短時間の反復学習)を実施します。 (4) 学校における読書活動の推進を図るため、図書を購入し、学校図書館の充実に努めます。 (5) 学校の教育目標を達成するために、校長に一定の予算執行権限を設けた学校経営予算制度を実施し、校長の思いを踏まえた学校づくりを進めます。								
事業の実績 ※小学校児童数 2,001人(令和6年5月1日現在(学校基本調査基準日))								
(1) 指導者用デジタル教科書を購入し、児童の学力向上に努めました。 また、理科備品については国庫補助を活用し、充実を図りました。 理科教材備品 202,029円 デジタル教科書(9校分) 4,218,050円 (2) 各学校に図書館図書等を購入し、学校図書館の充実を図りました。 図書購入費 2,557,712円 新聞購入費(各校2紙) 481,530円 (3) 各学校の教育目標を達成するために、校長に一定の予算執行権限を設けた学校経営予算制度を実施し、学校の状況に応じた執行を行いました。授業力向上を目的とした教材の購入や、体力向上を目的とした体育備品整備など、各校の実状や教育目標に合わせた取組を全ての小学校で実施しました。 学校経営予算制度(消耗品費、備品購入費) 1,442,068円								
事業の成果等								
(1) ICT機器の充実により、学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む授業改善を推進することができました。 (2) 教育活動の充実のために必要な経費の支出や補助を行うことで、各校の教育目標の実現に向けた取組を展開することができました。また、校長に一定の予算執行権限を設ける学校経営予算制度により、各校の実状に応じた環境改善や、校長の思いに沿った学校経営を支援することができました。								

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
学校図書館への新聞配備	学校図書館に2紙以上の新聞の配備率	100%	100%	100%	A
学校経営予算の効果的な執行	学校運営協議会における熟議を経た、学校教育目標具現化のための執行				—
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由				総合評価	
・「学校図書館への新聞配備」について、新たな指標とした。 ・学校運営協議会の開催はどの学校においても定例化しており、熟議に基づく学校教育活動が行われている。				A	
③事業の課題と今後の取組					
・「学校図書館への新聞配備」はどの学校でも定着したが、児童生徒の新聞離れが顕著であることが全国学学調査の質問紙調査からもわかっているため、授業において学校図書や新聞を効果的に活用する方法を検証していく必要がある。 ・たとえ校長が交代することになっても、学校運営協議会での熟議内容が引き継がれるように、充実した学校運営協議会を運営していく必要がある。その結果として、学校経営予算のさらなる有効活用が見込めると考える。					

款	10 教育費	項	3 中学校費	目	1 学校管理費	決算書	140 ~ 143 ページ
事業名		中学校管理運営事業				主管課	教育部 学校教育課
事業費(円)		令和6年度	令和5年度	財源内訳(円)		令和6年度	令和5年度
予算額		66,489,000	72,534,000	国 費		0	0
うち繰越		0	0	県 費		0	0
決算額		62,152,902	55,991,536	市 債		0	0
うち繰越		0	0	そ の 他		1,153,830	982,405
執行率(%) / 増減率(%)		93.5	+11.0	77.2	一般財源	60,999,072	55,009,131
①執行率80%以下/②増減率±50%以上の理由(令和6年度)				その他の内訳(令和6年度)			
				中学校共済掛金保護者負担金 415,380円			
				要保護児童生徒共済掛金補助金 19,000円			
				中学校施設使用料 719,450円			
事業コスト		事業費		人件費(0.60 人役)		計	
決 算 額		62,153 千円		4,207 千円		66,360 千円	
市民1人当たり (36,835 人)		1,687 円		114 円		1,801 円	
生徒1人当たり (1,026 人)		60,578 円		4,100 円		64,678 円	
事業の目的および内容							
(1) 開かれた学校づくりを一層推進するために、学校運営協議会を開催し、地域からの意向を反映しながら地域とともにある学校づくりを進めます。							
(2) 中学校の生徒が安全・安心で質の高い教育が受けられるよう適切に学校管理を行うとともに、健やかに学校生活を過ごせるよう生徒、教職員の健康管理を行います。							
(3) 心身ともに健康で安心安全な教育環境づくりのため、生理用品のトイレ内配備を行います。							
事業の実績 ※中学校生徒数 1,026人(令和6年5月1日現在(学校基本調査基準日))							
(1) 一般管理							
中学校の生徒が安全安心に学校生活を送れるよう、適切な学校管理を行いました。							
学校運営協議会委員報酬等 369,088円							
光熱水費 36,241,633円							
通信運搬費 2,022,074円							
葉刈り、剪定などの委託料 527,717円							
事務機器使用料 1,217,728円							
会計年度任用職員(学校校務員)給料等 11,843,165円							
(正規学校校務員の配置のない中学校5校に配置)							
(2) 健康管理							
中学校の生徒が健やかに学校生活を過ごせるように、生徒および教職員の健康管理を行いました。							
生徒、教職員健康診断業務委託料 2,331,736円							
校医、歯科医、薬剤師報酬 2,170,200円							
日本スポーツ振興センター共済掛金 962,115円							
飲料水検査委託料(年1回) 66,000円							
生理用品購入費 88,262円							
事業の成果等							
(1) 各学校施設、設備等を適切に管理運営することができました。							
(2) 学校運営協議会を開き、学校と家庭、地域との連携の在り方について協議を行うとともに、学校運営協議会委員からの意見や学校経営の評価等により、地域の声を的確に把握しながら、学校経営を行うことができました。							
(3) 衛生用品の配備により、生徒の健やかな成長に必要な環境づくりを整えることができました。							

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
地域連携に向けた学 校園の環境・体制の 充実	学校運営協議会委員年間活動平均回数	4回	4.83回	121%	A
生理用品の学校配 備	貧困対策としてのトイレ個室や保健 室への配備を実施している学校	6校	6校	100%	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
・貧困対策としての「生理用品の配備」について、新たな成果指標とした。 ・学校運営協議会の開催は3～6回と回数は異なるが、どの学校においても定例開催を しており、熟議に基づく学校教育活動が行われている。					A
③事業の課題と今後の取組					
・たとえ校長が交代することになっても、学校運営協議会での熟議内容が引き継がれるように、充実した 学校運営協議会を運営していく必要がある。					

款	10 教育費	項	3 中学校費	目	2 教育振興費	決算書	142 ~ 143 ページ		
事業名		中学校教育振興事業				主管課	教育部 学校教育課		
事業費(円)		令和6年度		令和5年度		財源内訳(円)		令和6年度	令和5年度
予算額		43,667,000		24,245,000		国 費		323,000	123,190
うち繰越		0		0		県 費		2,641,327	1,667,000
決算額		38,107,310		21,941,728		市 債		0	0
うち繰越		0		0		そ の 他		0	0
執行率(%) / 増減率(%)		87.3	+73.7	90.5		一般財源		35,142,983	20,151,538
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和6年度)					その他の内訳(令和6年度)				
②教科書改定に伴う購入費が増加したため。									
事業コスト			事業費		人件費(1.90 人役)		計		
決 算 額			38,107 千円		13,321 千円		51,428 千円		
市民1人当たり (36,835 人)			1,035 円		362 円		1,397 円		
生徒1人当たり (1,026 人)			37,141 円		12,983 円		50,124 円		
事業の目的および内容									
<p>(1) デジタル教科書を整備し、映像等のデジタルならではの教材を提示することにより、主体的かつ対話的で深い学びを推進します。</p> <p>(2) 学校の教育目標を達成するために、校長に一定の予算執行権限を設けた学校経営予算制度を実施し、校長の思いを踏まえた学校づくりを進めます。</p> <p>(3) 社会での自分の役割、将来の生き方・働き方を考える職場体験学習を行います。</p> <p>(4) 修学旅行、校外活動および部活動の公式大会等に対する支援を行い、教育活動の充実、教育の振興に努めます。</p> <p>(5) 教科書改訂(4年毎)に伴い、令和7年度から使用する、指導書および教師用教科書の購入を行います。</p> <p>(6) 部活動の地域移行化に向けて、コーディネーターの配置および協議会の設置を行い、方針の策定に向けて検討を進めます。</p>									
事業の実績 ※中学校生徒数 1,026人(令和6年5月1日現在(学校基本調査基準日))									
<p>(1) 指導者用デジタル教科書を購入し、生徒の学力向上に努めました。また、理科備品については国庫補助を活用し、充実を図りました。</p> <p>理科教材備品 727,843円</p> <p>デジタル教科書(6校分) 1,986,600円</p> <p>(2) 各学校に図書館図書を購入し、学校図書館の充実を図りました。</p> <p>図書購入費 1,423,671円</p> <p>新聞購入費(各校3紙) 334,860円</p> <p>(3) 教科書改訂に伴い、令和7年度から使用する中学校教師用指導書および教科書を購入しました。</p> <p>中学校教師用(指導書・教科書) 15,718,046円</p> <p>(4) 職場体験学習を実施し、社会での自分の役割や将来の生き方等を考える機会を提供しました。</p> <p>キャリア教育実践事業(中学2年生職場体験活動経費) 377,019円</p> <p>(5) 中学校で実施している部活動の公式大会参加に対する補助等を行いました。</p> <p>生徒派遣補助金 4,023,000円</p> <p>(6) 中学校における部活動の指導体制の充実を図りました。</p> <p>地域スポーツクラブ活動体制整備事業 945,327円</p> <p>部活動指導員報酬等 2,022,508円</p> <p>地域移行コーディネーター報酬等 705,542円</p> <p>(7) 各学校の教育目標を達成するために、校長に一定の予算執行権限を設けた学校経営予算制度を実施し、学校の状況に応じた執行を行いました。各学校独自の取組や、各校の実状、教育目標に合わせた取組を全ての中学校で実施しました。</p> <p>学校経営予算制度(報償費、消耗品費、備品購入費) 923,333円</p>									



事業の成果等

- (1) ICT機器の充実により、学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む授業改善を推進することができました。
- (2) 部活動の地域移行化に向けて、会計年度任用職員（地域移行コーディネーター）を1人任用し、地域団体や学校といった現場の声を吸い上げることにより、方針の策定に向けて検討を進めることができました。また、部活動の地域展開に向けた基本方針について答申を受け、令和7年度以降は、「地域展開」のさらなる推進に向けて、学校や地域団体との連携体制の整備を進めます。
- (3) 令和7年度から使用する指導書および教師用教科書の購入により、デジタルコンテンツの活用が強化されたことでより効果的な学習環境を整えるとともに、生徒の学習状況や理解度に合わせる準備を進めることができました。

令和6年度児童生徒数の状況（令和6年5月1日現在）

1 小学校の児童数の状況

（単位：人）

小 学 校 名	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	5 年 生	6 年 生	合 計	前 年 比 較
柏 原 小 学 校	15	11	14	16	17	10	83	▲ 4
山 東 小 学 校	24	18	26	18	15	38	139	4
大 原 小 学 校	42	39	48	50	47	60	286	▲ 10
伊 吹 小 学 校	10	12	16	11	11	10	70	▲ 3
春 照 小 学 校	27	25	31	28	30	27	168	0
米 原 小 学 校	88	89	89	84	82	74	506	15
河 南 小 学 校	18	28	21	24	27	30	148	▲ 15
坂 田 小 学 校	71	72	70	87	80	75	455	▲ 7
息 長 小 学 校	19	20	19	22	31	35	146	▲ 10
9 校 合 計	314	314	334	340	340	359	2,001	▲ 30


2 中学校の生徒数の状況

（単位：人）

中 学 校 名	1 年 生	2 年 生	3 年 生	合 計	前 年 比 較
柏 原 中 学 校	20	7	20	47	▲ 3
大 東 中 学 校	70	79	91	240	▲ 4
伊 吹 山 中 学 校	48	46	54	148	13
米 原 中 学 校	71	72	65	208	13
河 南 中 学 校	26	17	23	66	▲ 4
双 葉 中 学 校	111	94	112	317	▲ 2
6 校 合 計	346	315	365	1,026	13

小中合計 3,027人

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
学校図書館への新聞配備	学校図書館に2紙以上の新聞の配備率	100%	100%	100%	A
キャリア教育の推進	全国学力・学習状況調査「将来の夢や目標を持っている」生徒の割合	小90% 中85%	小79.5% 中61.7%	小88.3% 中72.6%	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
・「学校図書館への新聞配備」について、新たな指標とした。					A
③事業の課題と今後の取組					
<p>・「学校図書館への新聞配備」はどの学校でも定着したが、児童生徒の新聞離れが顕著であることが全国学学調査の質問紙調査からもわかっているため、授業において学校図書や新聞を効果的に活用する方法を検証していく必要がある。</p> <p>・たとえ校長が交代することになっても、学校運営協議会での熟議内容が引き継がれるように、充実した学校運営協議会を運営していく必要がある。その結果として、学校経営予算のさらなる有効活用が見込めると考える。</p> <p>・部活動の地域展開により、生徒のスポーツ・文化活動環境を持続可能な形で確保していく必要があるが、現状としては先行きが不透明な状況である。</p>					

款	10 教育費	項	6 保健体育費	目	4 学校給食費	決算書	156 ～ 159 ページ				
事業名		学校給食事業				主管課	教育部 学校給食課				
事業費(円)		令和6年度		令和5年度		財源内訳(円)		令和6年度	令和5年度		
予算額		537,582,000		425,533,000		国 費		0	0		
うち繰越		0		0		県 費		272,000	3,430,000		
決算額		519,866,304		397,644,293		市 債		59,600,000	0		
うち繰越		0		0		そ の 他		212,255,446	181,471,299		
執行率(%) / 増減率(%)		96.7	+30.7	93.4		一般財源		247,738,858	212,742,994		
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和6年度)					その他の内訳(令和6年度)						
					東部給食センター調理研修室使用料 600円						
					学校給食費保護者等負担金 167,073,264円						
					特定教育・保育施設給食費利用者負担金 12,844,582円						
					教育施設整備基金繰入金 32,332,000円						
					米養士等実習生受入金 5,000円						
事業コスト		事業費		人件費(9.00 人 役)		計					
決 算 額		519,866 千円		63,099 千円		582,965 千円					
市民1人当たり (36,835 人)		14,113 円		1,713 円		15,826 円					
給食1人当たり (4,021 人)		129,288 円		15,692 円		144,980 円					
事業の目的および内容											
生活の多様化が進み、食生活を取り巻く社会環境も大きく変化する中、米原市の将来を担う子どもたちにバランスの取れた安心安全な学校給食を提供するため、適正な施設の維持管理および業務の運営を行います。											
事業の実績											
小中学校および園に安心安全な給食を提供するため、学校給食衛生管理基準に基づく衛生面への配慮など、給食センターの適正な管理運営に努めるとともに、食物アレルギーへの対応や地元の食材の積極的な活用を行いました。											
(1) 令和7年3月現在の給食提供数(職員を含む。)					(単位：校・園・食)						
区 分	東部給食センター			西部給食センター			計				
	校園数	食数(1回当たり)		校園数	食数(1回当たり)		校園数	食数(1回当たり)			
幼稚園・こども園	4	461		1	189		5	650			
小学校	7	1,214		2	1,027		9	2,241			
中学校	4	554		2	576		6	1,130			
合 計	15	2,229		5	1,792		20	4,021			
(2) 食物アレルギー対応人数											
東部給食センター 66人、西部給食センター 50人 計116人(令和5年度 117人)											
【内訳(延べ数)】					(単位：人)						
項目	卵	牛乳	乳製品	甲殻類	魚介類	種実類	大豆	果物	野菜	小麦	その他 (牛、豚肉)
東部	14	10	8	11	9	2	2	30	7	3	0
西部	21	12	11	10	8	0	0	17	6	1	1
(3) 給食回数と主食の内容					(単位：回)						
項 目	東部給食センター			西部給食センター							
米飯給食	152			152							
パン給食	23			23							
麺給食	19			19							
合 計	194			194							
											
【調理室での調理】											

事業の実績

(4) 賄材料費の状況

食材の価格高騰による値上がり分については、保護者に負担を求めることがないよう、給食費の値上げは行わず、市が負担することとして対応しました。

賄材料費 243,396,277円 〈東部 137,240,158円、西部 106,156,119円〉
(令和5年度 232,106,855円 〈東部 131,306,322円、西部 100,800,533円〉)

(5) 学校給食費保護者等負担金徴収状況

現年度分	調定額	166,989,618 円	未納額	401,484円
	収入額	166,588,134 円	収納率	99.76 %
過年度分	調定額	2,792,583 円	未納額	2,307,453 円
	収入額	485,130 円	収納率	17.37 %

学校給食費/月 (小学校：4,100円、中学校：4,600円、園：3,300円)

(6) 東部・西部給食センターにおける食育推進事業

食に関する指導体験学習等を通じて、子どもの食育推進に取り組みました。

① 収穫体験

白ねぎ収穫：春照小 (2・3年) 56人、米原小 (2年) 88人

② 食育に関する情報発信

給食だよりなどでレシピや食育の実践の様子などを紹介しました。

【食に関する指導】

(7) 特色ある給食

項 目	実施回数
季節の行事食	各月 1 回
お誕生日給食	
カミカミメニュー	
日本型食生活の日	
ふるさと滋賀給食の日	
給食開始明治の給食 (給食週間中)	1 回 (全校)
郷土料理	随時
地元食材の使用	
食べ物の旅給食	月 1 回



【白ねぎの収穫体験】

(8) 施設の主な運営経費

① 会計年度任用職員を配置し、直営による調理業務を実施しました。

会計年度任用職員給料、報酬等 (栄養士、配膳員含む。)

東部給食センター (常勤 15人、非常勤 7人) 36,128,804円

西部給食センター (常勤 13人、非常勤 4人) 31,679,614円

② 給食の配送は、米原市シルバー人材センターに委託しました。

配送業務委託料 東部給食センター 12,423,434円

西部給食センター 3,417,111円

(9) 給食センターの施設改修等

両給食センターの厨房機器等の適切な維持管理と修繕、施設の改修等を行いました。

東部給食センター照明改修工事 66,319,000円

西部給食センター洗浄室空調設備設置工事 21,479,700円

西部給食センター厨房備品購入 (冷凍庫、殺菌庫等) 3,481,500円

修繕料 (厨房機器、施設修繕) 11,049,346円

事業の成果等

(1) 給食の食材については、レーク伊吹農業協同組合と連携して地元の食材を積極的に取り入れ、地場産物活用率は県平均29.0%を上回る31.7%とすることができました。

(2) 給食メニューの多様化を図るため、月間目標を定めて郷土料理や市内の行事に合わせたメニューを取り入れたことなどにより、子どもたちの食への関心を高めることができました。

(3) 毎月の食に関する指導、出前授業、収穫体験等を通じて食べ物の大切さを知ってもらうことができました。

(4) 食物アレルギーのある子どもの給食については、代替食・除去食の対応を徹底し、保護者、学校、給食センターが情報を共有して連携することにより、安全な給食を提供できました。

(5) 施設の照明改修や空調設備の設置、老朽箇所の修繕等を行ったことにより、施設の適切な管理と調理環境の改善を図ることができました。

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
食育の推進	栄養教諭による食育の指導回数	75回	88回	117.3%	A
安心・安全な給食の提供	学校給食に地場産物を使用する割合 (食材数ベース)	県平均を上回る(29.0)	31.7%	109.3%	A
食育を通じた自然環境保全意識の向上	給食センターにおける収穫体験実施校数	3校	2校	66.7%	B
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
・学校給食の実施においては、「学校給食衛生管理基準」を遵守した調理業務等を行うとともに、食に関する指導や体験学習を通じて、子どもたちの食への関心を高める事ができました。また、食物アレルギーのある子どもには代替食や除去食の適切な対応を行うなど、保護者、学校、給食センターが連携し、安心・安全な給食を提供する事ができました。このため、評価を「A」としました。					A
③事業の課題と今後の取組					
・西部給食センターは供用開始から26年が経過し、機器および施設の老朽化が著しく、抜本的な改修が必要な状況である。また、東部給食センターも16年が経過し、厨房機器や機械設備の更新改修が必要となっている。こうした中、児童生徒数は減少傾向にあり、安定した給食を提供するため給食センター施設の統合を進める必要がある。 ・両給食センターともに、多くの会計年度任用職員（調理員、調理補助員）によって調理業務を行っているが職員の高齢化が進んでおり、安定した給食提供のため民間委託の検討を進める必要がある。					

款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費	決算書	144 ~ 147 ページ	
事業名						社会教育総務事業	主管課	教育部 生涯学習課
事業費(円)		令和6年度		令和5年度		財源内訳(円)	令和6年度	令和5年度
予算額		1,049,000		2,104,000		国 費	0	0
うち繰越		0		0		県 費	0	0
決算額		709,778		1,067,985		市 債	0	0
うち繰越		0		0		そ の 他	372,570	532,840
執行率(%) / 増減率(%)		67.7	▲ 33.5	50.8		一般財源	337,208	535,145
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和6年度)						その他の内訳(令和6年度)		
① スマートフォン講習会の事業費について、事業者が国の補助金を直接受けて実施することとなり、市の負担額が減少したため。						地域の絆でまちづくり基金繰入金 372,570円		
事業コスト				事業費		人件費(0.70 人 役)		計
決 算 額				710 千円		4,908 千円		5,618 千円
市民1人当たり (36,835 人)				19 円		133 円		152 円
事業の目的および内容								
(1) 社会教育委員会議を開催し、市民ニーズや地域資源の把握、社会課題解決のための調査研究を行い、社会教育の推進を図ります。								
(2) 出前講座やまなびサポーター制度（市民講師）により、市民の生涯学習活動を支援します。								
(3) 市民がデジタル社会の利便性を実感できるよう、スマートフォン講習会を行い、DX事業の推進を図ります。								
事業の実績								
(1) 社会教育委員会議（社会教育委員 12人） 報酬 155,000円 社会教育委員会議や地域活動などの視察等により、「米原らしさがいきる学びの場」について取りまとめ、教育委員会へ提出しました。 社会教育委員会議 4回								
(2) 出前講座事業 市民の依頼に応じて市職員等が講師となり、市民の生活や生涯学習の推進に役立つ情報を提供しました。 利用実績 180回（令和5年度 142回）								
(3) まなびサポーター事業 市民が指導者として、地域等に出向いて各種講座を行いました。 まなびサポーター登録者数 101人 利用実績 80回（令和5年度 40回）								
(4) スマートフォン講習会 372,570円 学びあいステーションや地域福祉センター等を会場にスマートフォンの基本操作や応用講座のほか相談会を行いました。 ①スマートフォン実践講座 開催回数 68回、参加者数 延べ210人（令和5年度 42回） ②スマートフォン相談会 開催回数 2回、参加者数 延べ12人								
事業の成果等								
(1) 社会教育委員の調査研究活動の成果として、「米原らしさがいきる学びの場」の提言書を取りまとめ、教育委員と情報共有を図ることができました。								
(2) 出前講座は、防災や健康、歴史分野のメニューに多くの申込みをいただき、市民の暮らしに役立つ情報などをお届けすることができました。まなびサポーター事業は、音楽やスポーツ分野のメニューで広く活用いただきました。								
(3) スマートフォン講習会に多くの人に参加いただき、インターネットの操作のほか防災アプリの活用、スマートフォンによる確定申告の実践体験など幅広い範囲でデジタル活用の普及推進を図ることができました。								
①取組ごとの評価								

取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
生涯学習情報の 発信・環境づくり	生涯学習まちづくり出前講座 (年間実施回数)	300回	260回	86.7%	A
地域で活躍する 人材の育成	まなびサポーター登録数	145人	101人	70%	B
学びの場の提供 (スマホ講座)	—	—	—	—	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
生涯学習出前講座は、防災や福祉分野のメニューに多く申込をいただくなど、利用実績が増加したほか、市民講師の講座は、音楽やニュースポーツの実績が増加しました。また、スマートフォン講座は、住民ニーズに対応するため、開催会場を拡充し、多くの人が参加いただき、一定の成果が得られたことから、事業全体の評価をAとしました。					A
③事業の課題と今後の取組					
出前講座・スマートフォン講座は、時代や住民ニーズに沿った内容の講座を用意し、引き続き、市民の暮らしに役立つ情報提供に努めます。					

款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費	決算書	144 ~ 147 ページ	
事業名		人権教育推進事業				主管課	教育部 生涯学習課	
事業費(円)		令和6年度		令和5年度		財源内訳(円)	令和6年度	令和5年度
予算額		4,399,000		3,937,000		国 費	0	0
うち繰越		0		0		県 費	0	0
決算額		4,318,700		3,735,661		市 債	0	0
うち繰越		0		0		そ の 他	1,271,616	1,300,486
執行率(%) / 増減率(%)		98.2	+15.6	94.9		一般財源	3,047,084	2,435,175
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和6年度)						その他の内訳(令和6年度)		
						地域の絆でまちづくり基金繰入金 1,043,616円		
						人権教育推進協議会等事業助成金 228,000円		
事業コスト			事業費		人件費(0.60 人 役)		計	
決 算 額			4,319 千円		4,207 千円		8,526 千円	
市民1人当たり (36,835 人)			117 円		114 円		231 円	
事業の目的および内容								
(1) 人権尊重の社会を目指し、多様化する人権問題について学ぶ機会を提供するため、米原市人権教育推進協議会と連携し、各種研修会や人権講座を開催します。								
(2) 市民の人権意識の向上を図り、明るく住みよいまちづくりを進めるため、ハートフル・フォーラム(地区別懇談会)を開催します。								
事業の実績								
(1) 人権教育推進協議会の活動支援および事業推進を行いました。								
①活動事業補助金 1,271,616円								
②地域人権リーダー研修会								
開催日 令和6年7月5日、7月12日								
開催場所 本庁舎・市民交流プラザ								
参加者数 227人(令和5年度 240人)								
内容 ハートフル・フォーラムの説明、 令和6年度の推奨テーマ啓発教材視聴								
③きらめき人権講座の開催(4回)								
開催日 令和6年8月9日、9月6日、10月10日、11月8日								
参加者数 243人(令和5年度 537人)								
開催場所 本庁舎・米原学びあいステーション								
内容 平和と人権、多文化共生、性の多様性、災害と人権								
④ハートフル・フォーラムの開催								
令和6年度推奨テーマ「性の多様性について」								
65自治会で開催 実施率60.2%(令和5年度 55.6%)								
(2) 同和教育推進本部研修会								
開催日 令和7年2月3日								
開催場所 本庁舎								
参加者数 111人(令和5年度 38人)								
内容 「部落差別問題」を“学ぶ部落差別問題”から“学ぶ”								
講師 藏本 龍樹 氏								
事業の成果等								
(1) きらめき人権講座では、多様な人権問題を学ぶきっかけとなる場を提供することで、市民の人権意識の向上を図りました。								
(2) ハートフル・フォーラムは、推奨テーマのほか、地域に応じたテーマについて、集会形式で地域住民による意見交換などを行い、人権問題を学び合うことの大切さを共有することができました。								
①取組ごとの評価								

取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
人権教育・ 人権啓発の推進	ハートフル・フォーラムの実施率	85%超	60.2%	70.8%	B
人権教育・ 担い手の育成	地域人権リーダー研修会の参加者数	260人	227人	87.3%	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
ハートフル・フォーラムは、少しずつであるが増加傾向にある。 地域人権リーダー研修会は、200人以上の参加者数が定着してきている。 令和6年度実施したきらめき人権講座のうち「平和」「災害」をテーマにした講座では、広島県、福島県の現地の語り部の方の話を聞くことができ、充実した講座になったことから、A評価としました。					A
③事業の課題と今後の取組					
地域住民の人権学習・啓発は大切な取組であり、ハートフル・フォーラムを含め、各種人権講座の参加率の向上をめざし、引き続き、根気強く啓発推進に取り組めます。					

款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費	決算書	144 ~ 147 ページ		
事業名						地域人材育成事業	主管課	教育部 生涯学習課	
事業費(円)		令和6年度		令和5年度		財源内訳(円)		令和6年度	令和5年度
予算額		719,000		616,000		国 費		0	0
うち繰越		0		0		県 費		0	0
決算額		561,508		470,850		市 債		0	0
うち繰越		0		0		そ の 他		561,508	170,000
執行率(%) / 増減率(%)		78.1 / +19.3		76.4 /		一般財源		0	300,850
①執行率80%以下/②増減率±50%以上の理由(令和6年度)						その他の内訳(令和6年度)			
① 10期生の卒業研究を主体に講義を行ったほか、 台風の影響で公開講座の回数が減少したため。						地域の絆でまちづくり基金繰入金 411,508円 社会教育事業関係受講料 150,000円			
事業コスト				事業費		人件費(0.90 人役)		計	
決 算 額				562 千円		6,310 千円		6,872 千円	
市民1人当たり (36,835 人)				15 円		171 円		186 円	
事業の目的および内容									
ルッチまちづくり大学は、「地域に根ざす。幸せになる。」をコンセプトに人を育てる市民カレッジです。楽しく学びながら、自ら考え、話し合い、行動できる「まちづくり人材」の育成を目的に開講しています。幅広い講義スタイルの授業と多彩な講師により、地域の魅力や課題についての学びの場を提供します。									
事業の実績									
(1) ルッチまちづくり大学									
① 10期生 16人【12回開講】									
3年間の最終年度として事例研究を進め、3グループが研究論文を作成し、9月22日に卒業式および事例研究報告会を行いました。									
事例報告 「私たちが考える幸せな居場所」 「米原市に伝承される祭り・踊り」 「地域の防災」									
② 11期生 15人【8回開講】									
7月から、広報誌、市公式ウェブサイト、パンフレット等により11期生の募集を行い、11月に入学式を行いました。									
③ 公開講座【2回開催】									
1回目 (令和6年11月24日)									
内容 人が惹かれる街の7つのルール									
講師 飯田 美樹 氏									
(カフェ文化、パブリック・ライフ研究家)									
2回目 (令和7年2月8日)									
内容 つくる未来展 地域の居場所と舞台の可能性									
講師 高野 翔 氏									
(福井県立大学地域経済研究所 准教授)									
(2) 主な経費									
講師謝礼等 385,000円									
需用費 (パンフレット等) 150,120円									
事業の成果等									
(1) 10期生16人が、3年間の学びの過程を経て、卒業式で研究発表を行うなど、「まちづくり人材」の育成を図ることができました。									
(2) 新たに11期生15人を迎え、多彩な講師によるまちづくりに関する幅広い講義を通じて、1年目のカリキュラムを進めました。									

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
ルッチまちづくり大学の開催	—	—	—	—	A
市民公開講座の開催	—	—	—	—	B
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
ルッチまちづくり大学は、10期生16人が卒業式で研究発表を行い、まちづくり人財を育成することができました。 また、11期生の募集を行ったところ、新たに15人の新入生を迎えることができ、人を育てる市民カレッジとして、取組が持続的に継承されている点を評価しました。					A
③事業の課題と今後の取組					
市民公開講座を通じて、今後も、ルッチまちづくり大学のPRを行う必要があり、市制20周年を節目にした記念講演会などを通じて、広く内外への発信に努めます。					

款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費	決算書	144 ~ 147 ページ
事業名		文化のまちづくり事業				主管課	教育部 生涯学習課
事業費(円)		令和6年度	令和5年度	財源内訳(円)		令和6年度	令和5年度
予算額		4,295,000	4,387,000	国 費		0	0
うち繰越		0	0	県 費		0	0
決算額		4,089,158	3,830,158	市 債		0	0
うち繰越		0	0	そ の 他		3,938,158	3,738,158
執行率(%) / 増減率(%)		95.2	+6.8	87.3	一般財源	151,000	92,000
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和6年度)				その他の内訳(令和6年度)			
				地域の絆でまちづくり基金繰入金 3,938,158円			
事業コスト		事業費		人件費(0.30 人 役)		計	
決 算 額		4,089 千円		2,103 千円		6,192 千円	
市民1人当たり (36,835 人)		111 円		57 円		168 円	
事業の目的および内容							
(1) 米原市芸術展覧会を開催し、市民の芸術感覚の高揚を図るとともに、心豊かな暮らしができる文化の創造を目指します。							
(2) 文化祭や作品展などを開催する市民団体を支援し、地域の芸術文化活動の推進を図ります。							
(3) 芸術・文化活動の成果として、全国大会等に出場が決定した人の栄誉を称え、激励、支援およびPRをすることにより、芸術文化活動の促進につなげます。							
事業の実績							
(1) 米原市芸術展覧会の開催 2,138,158円 会期 令和6年7月5日から7月13日まで 来場者数 1,250人 (令和5年度 1,203人) 出品数 絵画部門 55点(うち入選45点) 彫刻・工芸部門 18点(うち入選18点) 書部門 17点(うち入選17点) 写真部門 107点(うち入選63点) 合 計 197点							
							
				【第19回市芸術展覧会・表彰式】			
(2) 文化芸術振興事業補助金 1,800,000円 各地域で開催される文化芸術活動(文化祭、作品展、発表会等)に支援を行いました。 補助団体数 5団体							
							
				【文化祭・作品展】			
(3) 芸術・文化大会等出場激励金 106,000円 全国大会等に出場された人に激励金を交付しました。							
出場分野 ピアノ演奏、彫刻、調理、書道、着物、 作文、よさこい 激励金交付数 13団体 37人 (令和5年度 10団体 12人)							
							
				【芸術・文化大会出場報告会】			
事業の成果等							
(1) 芸術展覧会については、各部門で力作がそろい、本庁舎コンベンションホールを会場に開催した表彰式も好評でした。また、無鑑査作品展に加えて、子ども絵画コンクールを開催するなど取組の工夫を行いました。							
(2) 制度創設2年目を迎えた激励金制度は、様々な文化芸術分野で活躍する人の全国大会等への出場を激励することでシビックプライドの醸成につなげることができました。また、激励金交付人数(13団体 37人)は、昨年度と比べて大幅な増加となりました。							

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
文化のまちづくり の推進	芸術展覧会への市民作品出展数	100点	63点	63.0%	B
文化施設の運営 と利用促進	文化協会事業への参加団体数	100団体	85団体	85.0%	A
文化協会の 組織強化の推進	文化協会加盟団体数	75団体	62団体	82.7%	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
<p>芸術展覧会では、市民の出品数は減少したものの、新たに子ども絵画コンクールを行うなど工夫し、会期中の来場者数は増加しました。</p> <p>また、文化芸術振興事業では、新規団体による音楽事業が実施されるなど広がりが見られたほか、制度創設2年目の芸術・文化大会等出場激励金は、前年度より対象者が大幅に増加するなどの実績を踏まえ、事業全体の評価をAとしました。</p>					A
③事業の課題と今後の取組					
<p>文化協会の加盟団体は年々減少しており、今後は、時代の変化に応じた各事業や文化振興の取組を進めていく必要があると考えています。</p>					

款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費	決算書	144 ~ 147 ページ			
事業名		市民交流プラザ管理運営事業				主管課	教育部 生涯学習課			
事業費(円)		令和6年度		令和5年度		財源内訳(円)		令和6年度	令和5年度	
予算額		484,798,000		72,791,000		国 費		0	0	
うち繰越		0		0		県 費		16,876,500	0	
決算額		480,820,186		65,173,865		市 債		189,200,000	0	
うち繰越		0		0		そ の 他		36,284,732	16,190,686	
執行率(%) / 増減率(%)		99.2	+637.7	89.5		一般財源		238,458,954	48,983,179	
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和6年度)					その他の内訳(令和6年度)					
② 照明LED化、舞台照明設備および空調設備等の大規模改修を実施したことにより事業費が増加したため。					市民交流プラザ施設使用料					1,115,300円
					教育施設整備基金繰入金					22,724,000円
					私用消耗品・印刷・地図等収入					249,361円
					市民交流プラザラウンジ共益費					120,000円
					市民交流プラザ管理経費負担金					7,612,842円
					市民交流プラザ自主事業入場料					4,422,229円
					りれーピアノ参加者負担金					41,000円
事業コスト			事業費		人件費(1.00 人役)		計			
決 算 額			480,820 千円		7,011 千円		487,831 千円			
市民1人当たり (36,835 人)			13,053 円		190 円		13,243 円			
事業の目的および内容										
(1) 市民の文化活動、生涯学習、健康福祉サービスを通じて様々な交流ができる市民協働活動の拠点施設として機能充実を目指し、自主事業および貸館業務の利用推進に努めます。										
(2) ベルホール310は、県内屈指の音楽ホールであることから、地域の音楽文化の向上を目指し、次世代を担う演奏者の育成や多種多様な自主公演等を企画、開催します。										
(3) 施設や設備の適切な維持管理に努め、利用者の利便性の向上を図ります。										
事業の実績										
市民交流プラザの管理運営および自主企画事業を実施しました。										
(1) 管理運営										
①会計年度任用職員報酬等 (5人分) 9,674,730円										
②燃料費、光熱水費 (灯油、電気、ガス、上下水道代) 19,790,037円										
③管理委託料 (清掃、機械設備保守点検、音響保守点検等) 10,271,508円										
④施設修繕費 (自動ドア修繕など) 2,269,801円										
⑤その他 (消耗品費、通信運搬費、使用料) 3,072,674円										
(2) 自主事業 (公演事業)										
①年間10回の事業実施 入場者数 1,662人 (令和5年度 2,752人)										
②公演委託料 (10公演) 7,999,970円										
③入場料収入 4,422,229円										
(令和5年度 7,202,478円)										
自主事業 (公演事業) 開催内容 (単位:人)										
No.	開催日	イベント名						入場者数		
1	11月2日	徳永ゆうき&田中あいみジョイントコンサート						163		
2	11月16日	廣津留すみれトーク&ヴァイオリンコンサート						205		
3	11月30日	高木竜馬ピアノコンサート						170		
4	12月7日	澤田知可子〜うたぐすりコンサート〜						186		
5	12月14日	ジェイコブ・コーラー&大井健ピアノコンサート						135		
6	12月21日	中嶋俊晴カウンターテナーリサイタル						76		
7	3月2日	小林未奈ふるさとコンサート						128		
8	3月16日	秋川雅史〜千の風になってコンサート〜						356		
9	3月20日	第47回りれーピアノ発表会						102		
10	3月23日	ベルホールが育んだ若き演奏家たちのコンサートVol.5						141		

事業の実績

(3) 貸館業務

令和6年度ホール利用件数（貸館）92回 利用者数（貸館）8,082人

（令和5年度ホール利用件数（貸館）189回 利用者数（貸館）17,029人）

※令和6年度は、改修工事により稼働していない期間があります。

(4) ベルホール310、スタジオ稼働率

（単位：日・％）

月	令和6年度					令和5年度				
	開館 日数	ベルホール310		スタジオ		開館 日数	ベルホール310		スタジオ	
		稼働 日数	稼働率	稼働 日数	稼働率		稼働 日数	稼働率	稼働 日数	稼働率
4月	26	2	7.7	17	65.4	26	6	23.1	17	65.4
5月	26	3	11.5	17	65.4	26	11	42.3	17	65.4
6月	26	8	30.8	0	0	26	23	88.5	17	65.4
7月	27	1	3.7	0	0	27	23	85.2	14	51.9
8月	26	0	0	0	0	26	17	65.4	15	57.7
9月	26	0	0	0	0	26	17	65.4	13	50.0
10月	27	0	0	1	3.7	27	15	55.6	19	70.4
11月	25	19	76.0	19	76.0	25	14	56.0	13	52.0
12月	23	16	69.6	17	73.9	24	15	62.5	11	45.8
1月	23	13	56.5	12	52.2	24	12	50.0	13	54.2
2月	24	18	75.0	14	58.3	24	20	83.3	18	75.0
3月	26	12	46.2	15	57.7	26	16	61.5	15	57.7
合計	305	92	30.2	112	36.7	307	189	61.6	182	59.3

(5) 秋川雅史千の風になってコンサート（入場者356人）、廣津留すみれトーク＆ヴァイオリンコンサート（入場者205人）等、県内屈指の音楽ホールで、幅広い年齢層の人にプロの音楽等を楽しんでいただけるよう、公演を実施しました。



【秋川雅史～千の風になってコンサート～】 【廣津留すみれトーク＆ヴァイオリンコンサート】

(6) 改修工事等

- | | |
|---------------|--------------|
| ①空調設備改修工事監理業務 | 1,644,500円 |
| ②舞台照明設備改修工事 | 108,179,500円 |
| ③照明設備LED化工事 | 102,100,900円 |
| ④空調設備改修工事 | 214,702,400円 |



【照明LED化および空調改修工事】





事業の成果等

- ホール改修により公演を実施できない時期がありましたが、クラシックを中心に、有名アーティストのほか、幅広いジャンルのコンサートを実施し、誰もが気軽に音楽に触れられる機会を創出しました。
- 施設の適切な維持管理に努めたほか、施設全体の空調設備および照明LED化等の改修工事を行ったことで、利用者の快適環境および利便性の向上を図りました。

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
自主公演事業	—	—	—	—	A
貸館事業	—	—	—	—	B
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
令和6年度は、ルッチプラザ全体の空調設備工事・LED化工事を集中的に行い、上半期に工事を完成することができました。 この工事により、使用に制限があった中、リニューアルされたホールでの音楽コンサートは、約440万円の収入実績（入場料）があったことから、事業全体の評価をAとしました。					A
③事業の課題と今後の取組					
今後も市民の発表の場に加え、多彩なジャンルのプロの音楽等を楽しんでいただく機会を通じて、更に市民に親しんでもらえる魅力ある音楽・文化ホールの創出を目指した施設運営に努めます。					

款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費	決算書	144 ~ 147 ページ		
事業名		学びあいステーション管理運営事業				主管課	教育部 生涯学習課		
事業費(円)		令和6年度		令和5年度		財源内訳(円)		令和6年度	令和5年度
予算額		295,095,000		238,188,000		国 費		0	0
うち繰越		0		0		県 費		0	12,219,000
決算額		293,720,956		234,934,326		市 債		105,000,000	12,900,000
うち繰越		0		0		そ の 他		18,115,000	0
執行率(%) / 増減率(%)		99.5	+25.0	98.6		一般財源		170,605,956	209,815,326
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和6年度)					その他の内訳(令和6年度)				
					教育施設整備基金繰入金 18,115,000円				
事業コスト			事業費		人件費(1.10 人 役)		計		
決 算 額			293,721 千円		7,712 千円		301,433 千円		
市民1人当たり (36,835 人)			7,974 円		209 円		8,183 円		
事業の目的および内容									
(1) 各施設では、指定管理者のノウハウや特色を生かしながら多様化する住民のニーズに対応した独自の講座、教室、地域間交流イベントなどを開催し、魅力ある施設の運営を行います。									
(2) 施設の適切な維持管理を行い、市民の利便性やサービスの向上を図ります。									
事業の実績									
(1) 指定管理者により、各学びあいステーションの管理運営を行いました。									
① 山東学びあいステーション									
指定管理者 特定非営利活動法人カモンスポーツクラブ									
指定管理委託料 31,444,000円									
事業 プロから学ぶ生活講座、こどもチャレンジ講座、書初め教室、さつきまつりなど									
利用者数 37,123人 (令和5年度 26,192人) 【実績】講座 11種 延べ75回開講									
② 伊吹薬草の里文化センター (伊吹学びあいステーション)									
指定管理者 公益財団法人伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団									
指定管理委託料 59,025,000円									
事業 センゴクセミナー、リクエスト講座、息吹の奏・夏祭り、Xマスマーケットなど									
利用者数 54,367人 (令和5年度 50,409人) 【実績】講座34種 延べ63回開講									
薬草風呂利用者数 18,864人 (令和5年度 20,008人)									
③ 米原学びあいステーション									
指定管理者 特定非営利活動法人FIELD									
指定管理委託料 34,226,000円									
事業 認知症予防や健康講座、防災啓発等のロビー展示、るあなマルシェなど									
利用者数 50,997人 (令和5年度 43,557人) 【実績】講座 24種 延べ256回開講									
④ 近江学びあいステーション									
指定管理者 特定非営利活動法人おうみ地域人権・文化・スポーツ振興会									
指定管理委託料 37,942,000円									
事業 脳トレ、スケッチ教室等の講座、めぐり市、お笑いライブ、江州音頭フェスなど									
利用者数 41,896人 (令和5年度 38,269人) 【実績】講座 13種 延べ102回開講									
									
					【お笑いライブ】		【息吹の奏】		
(2) 改修工事									
伊吹薬草の里文化センターホール照明設備改修工事 110,434,500円									
山東学びあいステーション照明設備改修工事 6,469,100円									
近江学びあいステーション空調設備改修設計業務 495,000円									
事業の成果等									
(1) 指定管理者の運営により、各学びあいステーションにおいて、市民の多様なニーズに沿った講座や教室、イベント等が開催され、地域の交流拠点として学びの場を提供することができました。									
(2) 各施設に公共施設予約システムを導入し、利用者のサービス向上を図ったほか、照明のLED化工事や空調改修設計等を計画的に行い、施設の維持管理に努めました。									

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
学びの場の提供 (各施設の利用者)	—	—	—	—	A
学びの場の提供 (各施設の利用者)	学びあいステーションの講座受講者が サークル化した団体数	10団体	26団体	260%	A
社会教育施設の 管理運営	市民意識調査 「生涯学習の推進」の満足度	85%超	84.4%	99.3%	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由				総合評価	
地域の交流拠点である学びあいステーション（4施設）は、指定管理者によって、市民のニーズに沿った講座やイベントが企画実施されており、利用者数は、どの施設も大幅に増加しています。また、市の総合評価は4施設とも80点以上の評価点となっていることも踏まえ、全体の評価をAとします。				A	
③事業の課題と今後の取組					
各施設とも老朽化が進んでいるため、現在、照明のLED化や空調改修を重点に優先順位を定めて施設の修繕等に取り組んでいますが、今後は、市全体の公共施設の在り方を議論する時期にきており、学びあいステーション運営審議会などを通じて、市民のご意見等を伺いながら検討を進めます。					

款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 青少年育成費	決算書	148 ～ 149 ページ
事業名		次代を担う青少年育成事業				主管課	教育部 生涯学習課
事業費(円)		令和6年度	令和5年度	財源内訳(円)		令和6年度	令和5年度
予算額		575,000	607,000	国 費		0	0
うち繰越		0	0	県 費		0	0
決算額		368,706	580,998	市 債		0	0
うち繰越		0	0	そ の 他		368,706	580,998
執行率(%) / 増減率(%)		64.1	▲ 36.5	95.7	一般財源	0	0
①執行率80%以下/②増減率±50%以上の理由(令和6年度)				その他の内訳(令和6年度)			
① 記念品の採用価格が予定価格を下回ったため。				地域の絆でまちづくり基金繰入金 368,706円			
事業コスト		事業費		人件費(0.60 人 役)		計	
決 算 額		369 千円		4,207 千円		4,576 千円	
市民1人当たり (36,835 人)		10 円		114 円		124 円	
事業の目的および内容							
(1) 二十歳を迎えた皆さんが、家族や友人、地域社会などに対する感謝の気持ちを改めて認識し、社会貢献していくことを誓い合う場として、二十歳のつどいを開催します。							
(2) 対象者で構成される実行委員が主体となり、アトラクション、二十歳のメッセージ、思い出アルバム等の内容を企画し、式典を開催します。							
事業の実績							
二十歳を迎えた皆さんの人生の新しい門出を祝福する場として二十歳のつどいを開催しました。実行委員会を組織して企画運営を行い、2部構成で式典を実施しました。							
(1) 実行委員会の開催 2回(実行委員19人)							
(2) 二十歳のつどいの開催							
日 時 令和7年1月12日							
①山東・伊吹地域 12時30分から							
②米原・近江地域 15時00分から							
場 所 市民交流プラザ(ベルホール310)							
対象者数 337人							
参加者数 289人(うち①150人、②139人)							
参 加 率 85.8%(令和5年度 83.8%)							
【式典内容】							
1 オープニングアトラクション(恩師からのメッセージ動画、ピアノ演奏)							
2 来賓祝辞							
3 市長式辞							
4 二十歳のメッセージ							
5 思い出アルバム上映							
記念品(オリジナルタンブラー) 234,080円							
							
【オープニングアトラクション】				【二十歳のメッセージ】			
							
				【二十歳のつどい実行委員会】			
【式典の様子】							
事業の成果等							
(1) 2部制による二十歳のつどいを市民交流プラザで開催し、県内で2位の高い参加率となりました。また、実行委員会でオープニングアトラクション等を企画準備してもらうことで、新成人が主体となった式典を開催することができました。							
(2) 市公式YouTubeで式典の動画を公開しました。							

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
二十歳のつどいの開催	—	—	—	—	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
二十歳のつどいの式典参加率85.8%は、県内二番目に多い参加率であったことから、評価をAとしました。					A
③事業の課題と今後の取組					
式典は、コロナ禍以降、二回に分けて実施しているところですが、全体一回の開催について、今後、実行委員の皆さんご意見を聞きながら、検討していきたいと考えています。					

款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	4 文化財保護費	決算書	150 ～ 153 ページ		
事業名		文化財保護事業				主管課	教育部 生涯学習課		
事業費(円)		令和6年度		令和5年度		財源内訳(円)		令和6年度	令和5年度
予算額		57,640,000		72,724,000		国 費		19,189,000	8,703,000
うち繰越		25,665,000		0		県 費		1,066,000	1,081,000
決算額		53,588,180		41,327,236		市 債		0	0
うち繰越		24,446,400		0		そ の 他		27,706,100	16,856,500
執行率(%) / 増減率(%)		93.0	+29.7	56.8		一般財源		5,627,080	14,686,736
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和6年度)					その他の内訳(令和6年度)				
					教育施設整備基金繰入金 700,000円				
					地域の絆でまちづくり基金繰入金 6,132,000円				
					米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 7,672,200円				
					繰越事業費等充当財源繰越金 13,092,400円				
					社会教育事業関係受講料 109,500円				
事業コスト		事業費		人件費(3.50 人 役)		計			
決 算 額		53,588 千円		24,539 千円		78,127 千円			
市民1人当たり (36,835 人)		1,455 円		666 円		2,121 円			
事業の目的および内容									
(1) 米原市文化財保存活用地域計画に基づき、市内に所在する文化財の保存と活用の取組を推進します。									
(2) 文化財を後世に継承していくための保存活用や伝承活動等を支援します。									
(3) 地域のまちづくり活動や文化財を広くPR・発信し、ふるさとへの愛着とシビックプライドの醸成を図ります。									
(4) 山城を生かしたまちづくりを実践している団体と連携を図り、城跡の保存・活用を進めるとともに、八講師城跡の国史跡指定に向けた取組を推進します。									
事業の実績									
(1) 文化財保護保存活動補助金 9,234,000円 まちの文化財を次代に引き継ぐため、国・県・市指定文化財の伝承活動、維持管理、修理等の経費に対し、関係団体に補助金を交付しました。(計25団体)									
No.	団体名等			事業名			金額		
1	米原曳山祭保存会			米原曳山祭伝承事業			900,000円		
				米原曳山祭執行事業(松翁山組)			1,200,000円		
				曳山移動式仮設舞台製作事業			3,102,000円		
2	筑摩自治会(鍋冠祭保存会)			鍋冠祭保存会の伝承活動事業			80,000円		
3	志賀神社氏子総代			華の頭のオコナイの伝承活動事業			15,000円		
4	清滝自治会(清滝大松明保存会)			清滝の大松明の伝承活動事業			30,000円		
5	長沢自治会(福田寺公家奴振保存会)			福田寺公家奴振保存会の伝承活動事業			25,000円		
6	井之口自治会			井之口太鼓踊保存会の伝承活動事業			20,000円		
7	朝日自治会(豊年太鼓踊保存会)			朝日豊年太鼓踊保存会の伝承活動事業			30,000円		
8	春照太鼓踊保存会			春照太鼓踊保存会の伝承活動事業			250,000円		
				春照太鼓踊 奴振大うちわ保存修理事業			150,000円		
9	番場の歴史を知り明日を考える会			国史跡鎌刃城跡の保護活用事業			30,000円		
10	流星保存会			流星保存会の伝承活動事業			9,000円		
11	柏原学区史跡保存会			国史跡北畠具行卿墓の保護活用事業			15,000円		
12	大久保の史跡を守る会			市史跡長尾寺跡の保護活用事業			15,000円		
13	岩脇まちづくり委員会			市史跡蒸気機関車避難壕の保護活動事業			49,000円		

事業の実績

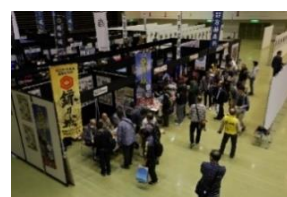
No.	団体名等	事業名	金額
14	鴨と蛭の里づくりグループ	ゲンジボタルおよび三島池のカモの調査研究事業	200,000円
15	弥高さつま会	弥高寺跡維持管理事業	150,000円
16	上平寺推進委員会京極氏戦国浪漫倶楽部	上平寺跡参道整備事業	150,000円
17	湿原を考える会	山室湿原整備・活用事業	95,000円
18	吉槻自治会	重要文化的景観吉野神社拝殿縁および束柱修理事業	429,000円
19	松浦家	市指定松浦家住宅 新座敷棟漆喰壁保存修理事業	83,000円
20	西山自治会	市指定天然記念物八幡神社杉並木維持管理事業	495,000円
21	徳源院	国史跡ほか徳源院の保護活動事業	67,000円
		国史跡京極家墓所保存修理事業	778,000円
22	観音寺	重要文化財観音寺の保護活用事業	60,000円
		重要文化財観音寺境内樹木剪定	352,000円
23	青岸寺	国名勝青岸寺庭園の保存活用事業	200,000円
24	福田寺	国名勝ほか福田寺の保存活用事業	42,000円
		県指定福田寺御殿葺屋根保存修理事業	201,000円
25	来照寺	県名勝来照寺庭園の保存活用事業	12,000円



【米原曳山祭子ども歌舞伎】



【春照太鼓踊り】



【お城EXPOin滋賀・びわ湖】

(2) 埋蔵文化財発掘調査事業

- ① 重要遺跡確認緊急調査（八講師城跡） 4,258,584円
八講師城跡の発掘調査、調査委員会（2回）等
- ② 市内遺跡発掘調査整理 168,300円
市内遺跡発掘調査報告書の刊行など



【近江鉄道式典シャギリ披露】

(3) 文化財施設等整備事業

- 旧常喜医院建物（主屋・書院）
耐震改修工事【令和5年度繰越事業】 24,446,400円
- 旧常喜医院附属棟（蔵）改修工事 4,782,800円
- 伊吹山山頂植生防護柵設置工事 4,316,400円
- 五色の滝周辺環境・遊歩道整備事業 1,050,000円



【八講師城跡 虎口石垣】

事業の成果等

- (1) 文化財保護保存活動では、5年振りに春照太鼓踊りが行われたほか、米原曳山祭は新たに本庁舎コンベンションホールの特設舞台で子ども歌舞伎が上演されるなど、地域に伝わる文化財の保存と活用の推進を図ることができました。
- (2) 八講師城跡の発掘調査において、虎口部分に石垣が設けられていたこと、曲輪の先端に柵列などの防御施設が設けられていたことが新たに分かり、国史跡指定に向けて、八講師城跡の新たな価値を確認できました。
- (3) 文化財の魅力発信の取組として、各種歴史講座や文化財シンポジウムを開催したほか、滋賀県立文化産業交流会館で行われたお城EXPOin滋賀・びわ湖などを通じて、市内の歴史・文化財の魅力を発信することができました。
- (4) 文化財施設等整備では、伊吹山山頂の植物群落を保全するため、食害防護柵を設置したほか、旧常喜医院の耐震補強や五色の滝遊歩道整備を進めました。

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
歴史文化財の 保存活用	文化財等保存・伝承活動団体数 (補助事業申請団体数)	25団体	25団体	100%	A
文化財保存活動 の充実	市民意識調査「歴史・文化の継承 と活用」の満足度	90%	86.5%	96.1%	A
歴史・文化の 魅力発信	歴史講座受講者数	70人	213人	304%	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
文化財の伝承は、5年ぶりの春照太鼓踊りや市役所コンベンションホール特設舞台での曳山祭子ども歌舞伎等、新たな試みを取り入れた中で、伝統の祭りを継承されていたほか、米原会場で開催されたお城EXPO滋賀などを通じて、歴史文化財の魅力を内外に発信することができました。また、八講師城跡の発掘調査や各種歴史講座でも一定の成果が得られたことから、評価をAとしました。					A
③事業の課題と今後の取組					
地域の歴史・文化・伝統のお祭りの継承と魅力発信の強化は、市の基本政策に位置づけられており、将来（次世代）に向け、今後、地域総ぐるみで文化財の保存と活用に向けた取組を実践していく必要があります。					

款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	4 文化財保護費	決算書	150 ~ 153 ページ
事業名		文化財施設管理運営事業				主管課	教育部 生涯学習課
事業費(円)		令和6年度	令和5年度	財源内訳(円)		令和6年度	令和5年度
予算額		23,901,000	25,871,000	国 費		0	0
うち繰越		0	0	県 費		0	0
決算額		22,886,056	24,626,615	市 債		0	0
うち繰越		0	0	そ の 他		2,747,221	836,319
執行率(%) / 増減率(%)		95.8	▲ 7.1	95.2	一般財源	20,138,835	23,790,296
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和6年度)				その他の内訳(令和6年度)			
				柏原宿歴史館入館料 385,350円			
				教育施設整備基金繰入金 1,954,000円			
				公衆・私用電話使用料等 2,560円			
				柏原宿歴史館施設管理経費負担金 100,811円			
				社会教育事業関係受講料 304,500円			
事業コスト		事業費		人件費(2.30 人 役)		計	
決 算 額		22,886 千円		16,125 千円		39,011 千円	
市民1人当たり (36,835 人)		621 円		438 円		1,059 円	
事業の目的および内容							
文化財施設の適切な管理運営を行い、郷土の歴史や文化資料を保存活用し、歴史文化の魅力発信を図ります。							
事業の実績							
(1) 指定管理者により、各歴史文化施設の管理運営を行いました。							
① 醒井宿資料館 4,548,671円							
(うち指定管理委託料 3,295,000円)							
指定管理者 醒井自治会							
年間施設入館者数 788人 (令和5年度 914人)							
連携事業 和の灯り展 (旧問屋場)							
② 伊吹山文化資料館 9,620,538円							
(うち指定管理委託料 9,140,000円)							
指定管理者 公益財団法人伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団							
年間施設入館者数 1,607人 (令和5年度 2,161人)							
企画展 7回 (酒井源蔵の木彫、まいばらと井筒屋など)							
歴史アカデミー 11回							
こども体験教室 13回など							
(2) 直営により管理運営を行いました。							
柏原宿歴史館 6,762,147円							
(うち会計年度任用職員報酬等 4,850,086円)							
年間施設入館者数 1,947人 (令和5年度 1,832人)							
(3) 文化財施設改修工事							
伊吹山文化資料館展示室床修繕工事 1,774,300円							
事業の成果等							
(1) 醒井宿資料館では、地域や観光イベントとの連携、伊吹山文化資料館では、企画展示のほか、学校の昔のくらし体験授業への協力など、柏原宿歴史館では、柏原宿ゆかりの資料展示のほか、寄託資料のデジタル化等、各施設の特色を生かした運営を行いました。							
(2) 文化財施設の改修工事や修繕により、施設の維持管理を適切に行い、来館者の対応に努めました。							



【醒井宿資料館(旧問屋場)】



【伊吹山文化資料館
学校見学】



【柏原宿歴史館 検地帳】

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
資料館・歴史館の 管理運営	歴史イベント開催回数	15回	22回	147%	A
各歴史文化施設の 入館者	—	—	—	—	B
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
各施設がそれぞれの特色を生かした施設運営が行われ、直営施設の柏原宿歴史館は、入館者数は増加しています。また、指定管理施設（2施設）の市の総合評価は、伊吹山文化資料館はA評価、醒井宿資料館はB評価でしたが、入館者数が減少したことを踏まえ、事業全体の評価をBとしました。					B
③事業の課題と今後の取組					
入館者数が減少傾向にあり、施設単独のPRや宣伝も必要ですが、今後は、例えば、国スポ大会や観光部局のイベントなどと連携した誘客やPRに努めます。					

款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	3 図書館費	決算書	148 ~ 151 ページ	
事業名		図書館管理運営事業				主管課	教育部 生涯学習課	
事業費(円)		令和6年度		令和5年度		財源内訳(円)	令和6年度	令和5年度
予算額		123,309,000		67,111,000		国 費	0	0
うち繰越		0		0		県 費	0	0
決算額		116,266,518		63,862,747		市 債	0	0
うち繰越		0		0		そ の 他	48,676,934	629,353
執行率(%) / 増減率(%)		94.3	+82.1	95.2		一般財源	67,589,584	63,233,394
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和6年度)					その他の内訳(令和6年度)			
② 近江図書館の空調設備改修を実施したことにより事業費(48,533,100円)が増加したため。					教育施設整備基金繰入金 48,532,000円 地域の絆でまちづくり基金繰入金 123,000円 私用消耗品・印刷・地図等収入 16,750円 本のリサイクル事業協力金 5,184円			
事業コスト			事業費		人件費(3.20 人 役)		計	
決 算 額			116,267 千円		22,435 千円		138,702 千円	
市民1人当たり (36,835 人)			3,156 円		609 円		3,765 円	
事業の目的および内容								
(1) 図書館サービスの基本理念である「暮らしに寄り添い、地域とつながり、学び合える図書館」を目指し、誰もが身近に利用できる文化・情報拠点となるよう図書館運営に努めます。								
(2) 子ども読書活動推進計画(第3次計画)に基づき、子どもの読書活動の推進に努めます。また、毎月23日の「まいばら読書の日」の更なる周知、啓発に努めます。								
事業の実績								
(1) 山東・近江図書館管理運営事業								
令和6年度			山東図書館			近江図書館		
図書購入費			4,997,657円			4,399,391円		
会計年度任用職員給料等			19,794,887円			19,873,445円		
貸出冊数 (対前年度増減率)			125,255冊 (▲20.9%)			151,182冊 (+1.8%)		
蔵書冊数(令和7年3月末現在)			154,786冊			147,126冊		
図書 視聴覚資料			2,209点			—		
実利用者数 (対前年度増減率)			2,565人 (▲6.3%)			2,815人 (+1.8%)		
予約・リクエスト件数			9,919件			14,917件		
レファレンス件数			2,192件			1,521件		
【主な取組】 ブックスタート、各種イベント(おはなし会、夏休み読書リレー、おばけ みーつけた!、こども図書館員体験、ルッチ魔法学校)、図書館協議会(4回開催)など								
(2) 子どもの読書活動を推進するため、まいばら読書の日 の取組や、キッズデー(子ども優先利用の日)の拡大実施、 各種イベント開催など、来館しやすい図書館づくりに努めました。								
(3) 設備工事等 近江図書館空調設備等更新工事 48,533,100円								
事業の成果等								
(1) 新たなイベントの企画や、単館で開催していたイベントの両館での拡大実施など、利用の促進に努めたことにより、おはなし会等の参加者数を増やすことができました。 おはなし会1回当たり参加者数 20.1人(令和5年度 19.5人)								
(2) ボランティアグループと協働で高齢者施設へ読書支援事業を実施し、来館困難な高齢者に本を届けることができました。 15施設延べ342回(令和5年度 10施設175回、令和4年度 3施設19回)								

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
子どもの読書環境の整備・充実	15歳以下の市民1人当たり図書館貸出冊数	18.0冊	12.2冊	67.8%	B
図書館利用の促進	市民一人当たり図書館貸出冊数	12.5冊	7.5冊	60%	B
図書館利用の促進	図書館のレファレンス満足度	100%	99.2%	99%	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
<p>図書館貸出冊数に係る指標の目標達成率が低くなっているのは、山東図書館改修工事による臨時休館が大きな要因と考えており、イベントの拡大実施等により、多くの利用者に来館してもらうことができたことから評価をBとしました。</p>					B
③事業の課題と今後の取組					
<p>来館しやすい図書館づくりを更に進めることで、未利用の市民等の利用が増加するよう努めます。また、子どもの読書について、多様な取組を継続して行うことで、子どもたちが本と出会える機会を増加させる必要があります。</p>					

款	10 教育費	項	6 保健体育費	目	2 体育施設費	決算書	152 ~ 155 ページ		
事業名		体育施設管理運営事業				主管課	教育部 スポーツ推進課		
事業費(円)		令和6年度		令和5年度		財源内訳(円)		令和6年度	令和5年度
予算額		160,457,000		86,942,000		国 費		4,913,700	0
うち繰越		0		0		県 費		0	0
決算額		105,069,391		84,756,929		市 債		2,100,000	4,100,000
うち繰越		0		0		そ の 他		40,367,300	8,307,800
執行率(%) / 増減率(%)		65.5	+24.0	97.5		一般財源		57,688,391	72,349,129
①執行率80%以下/②増減率±50%以上の理由(令和6年度)					その他の内訳(令和6年度)				
① 市所有地駐車場整備工事を令和7年度に繰り越したため。 ＜令和7年度への繰越額＞ 50,000,000円					ウッドピアいぶき使用料 15,000円				
					番場多目的広場使用料 174,300円				
					教育施設整備基金繰入金 40,178,000円				
事業コスト			事業費		人件費(2.20 人役)		計		
決 算 額			105,069 千円		15,424 千円		120,493 千円		
市民1人当たり (36,835 人)			2,852 円		419 円		3,271 円		
利用者1人当たり (145,776 人)			721 円		106 円		827 円		
事業の目的および内容									
(1) 誰もが身近で安全、安心にスポーツができるよう市内体育施設の維持管理に努めます。									
(2) 市内の各種スポーツ団体と連携し、身近な場所でスポーツに親しむことができる機会を創出します。									
事業の実績									
(1) 指定管理者に社会体育施設の管理運営を委託しました。									
①山東グラウンド、市民体育館									
指定管理者 特定非営利活動法人カモンスポーツクラブ									
指定管理委託料 3,575,000円									
利用者数 グラウンド 15,742人 (令和5年度 12,013人)									
体育館 11,128人 (令和5年度 10,854人)									
②近江グラウンド									
指定管理者 特定非営利活動法人おうみ地域人権・文化・スポーツ振興会									
指定管理委託料 1,045,000円									
利用者数 グラウンド 6,079人 (令和5年度 5,268人)									
③双葉総合体育館									
指定管理者 一般社団法人近江スポーツクラブ									
指定管理委託料 12,981,000円									
利用者数 体育館 23,028人 (令和5年度 17,594人)									
④山東B&G海洋センター									
指定管理者 株式会社スポーツプラザ報徳									
指定管理委託料 16,299,000円									
利用者数 プール 29,275人 (令和5年度 31,152人)									
体育館 9,568人 (令和5年度 9,029人)									
⑤伊吹B&G海洋センター、伊吹第1・第2グラウンド、伊吹テニスコート									
指定管理者 公益財団法人伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団									
指定管理委託料 16,147,252円									
利用者数 プール 3,245人 (令和5年度 3,440人)									
第1グラウンド 25,362人 (令和5年度 21,625人)									
第2グラウンド 5,002人 (令和5年度 2,573人)									
テニスコート 1,317人 (令和5年度 1,415人)									

事業の実績

⑥すぱーく米原、米原野球場、息郷体育館

指定管理者 特定非営利活動法人MOSスポーツクラブ

指定管理委託料 10,875,000円

利用者数	すぱーく米原	9,821人	(令和5年度	10,634人)
	野球場	2,593人	(令和5年度	3,726人)
	体育館	1,453人	(令和5年度	1,737人)

(2) 社会体育施設の維持管理に必要な業務を行いました。

施設維持管理委託料(番場多目的広場、施設隣接地樹木伐採等) 3,308,462円

利用者数 番場多目的広場 2,163人(令和5年度 2,188人)

修繕費(市民体育館トイレ、すぱーく米原事務所棟屋根ほか) 1,240,425円

(3) 社会体育施設の改修を行いました。

伊吹第2グラウンド駐車場修繕工事 1,382,700円

市所有家屋解体工事設計業務委託料 1,254,000円

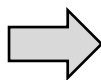
市所有家屋解体工事 5,960,900円

山東B&G海洋センター改修工事設計業務委託料 1,903,000円

双葉総合体育館改修工事設計業務委託料 1,841,400円



【市所有家屋解体工事前】



【解体工事後】

(4) 国スポ・障スポ大会に向けて、来場者用の駐車場整備に着手しました。

OSPホッケースタジアム隣接駐車場整備用地購入費(2筆) 4,217,400円

市所有地測量業務委託料(2件) 6,050,000円

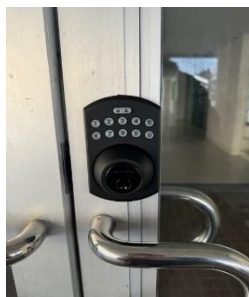
(5) 学校体育施設等の遠隔施錠システムを導入し、米原市公共施設予約システムとの連携により、オンライン上での予約が可能になりました。

遠隔施錠システム導入および運用業務委託料 5,071,000円

学校体育施設無線環境構築業務委託料 925,100円

遠隔施錠装置取付工事 3,831,300円

設置箇所 学校体育施設等17か所



【設置した機器(リモートロック)】

事業の成果等

- (1) 指定管理者による体育施設の適切な維持管理を行い、多様な市民ニーズに対応したスポーツ活動の場を提供することができました。
- (2) 必要な施設の修繕を行い、市民が安全・安心にスポーツや運動に親しむ環境を提供することができました。
- (3) 学校体育施設遠隔施錠システムの導入が完了し、米原市公共施設予約システムとの連携により、DX化の推進とセキュリティを強化することができました。今後、本格的な運用後に利用者の満足度調査を行い、課題を把握して運用の改善につなげます。

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
スポーツを身近に楽しめる環境づくり	米原市民意識調査「スポーツの推進」満足度	88%	84.0%	95.5%	A
スポーツを身近に楽しめる環境づくり	体育施設利用者数	250,000人	262,644人	105%	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
令和6年度に実施された米原市民意識調査において、「スポーツの推進」満足度が84%と上昇し目標達成率が95.5%となったことと、体育施設利用者数が目標人数を上回り、目標達成率が105%となったことから、A評価としました。					A
③事業の課題と今後の取組					
<p>施設の老朽化が進んでおり、誰もが安心安全にスポーツを楽しむ環境を維持するため、計画的な改修を行い、施設の長寿命化に努めます。</p> <p>施設の利用者数は、前年度（令和5年度）と比較して、全体的に増加傾向にあり、国スポ・障スポの開催に引き続き、スポーツ活動を推進する取組が必要であると考えています。</p>					

款	10 教育費	項	6 保健体育費	目	3 体育振興費	決算書	154 ~ 157 ページ																											
事業名						スポーツ推進事業	主管課	教育部 スポーツ推進課																										
事業費(円)		令和6年度		令和5年度		財源内訳(円)		令和6年度	令和5年度																									
予算額		66,437,000		43,183,000		国 費		0	0																									
うち繰越		0		0		県 費		5,425,000	1,192,199																									
決算額		65,312,311		40,166,187		市 債		0	0																									
うち繰越		0		0		そ の 他		29,344,618	8,486,413																									
執行率(%) / 増減率(%)		98.3	+62.6	93.0		一般財源		30,542,693	30,487,575																									
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和6年度)						その他の内訳(令和6年度)																												
② 国スポ・障スポリハーサル大会の開催による市 実行委員会負担金および空調改修工事等による 公益財団法人伊吹山麓まいばらスポーツ文化振 興事業団への補助金の増額のため。						スポーツ振興くじ助成金 2,089,000円 地域の絆でまちづくり基金繰入金 27,255,618円																												
事業コスト				事業費		人件費(4.80 人 役)		計																										
決 算 額				65,312 千円		33,653 千円		98,965 千円																										
市民1人当たり (36,835 人)				1,773 円		914 円		2,687 円																										
事業の目的および内容																																		
(1) スポーツ・運動に親しむ機会や環境を提供し、市民の生涯スポーツを推進します。 (2) 各種競技の全国大会等に出場する選手や、国スポ・障スポ大会で活躍が期待されるジュニア選手等の活動を支援するとともに、スポーツ大会等で優秀な成績を収めた選手等を表彰し、市民のスポーツや運動に対する関心を高めます。 (3) 国スポ・障スポ大会に向けたリハーサル大会として、男子第66回・女子第46回全日本社会人ホッケー選手権大会を開催するとともに、機運を高める啓発事業を推進します。 (4) 国スポ・障スポ大会の当市開催競技であるホッケー競技の認知度向上および普及を推進し、市民がホッケーを基軸として、「する」「みる」「ささえる」の様々な形で関わり、スポーツのチカラで人々がつながることができる、元気なまちづくりを推進します。																																		
事業の実績																																		
(1) 市民の生涯スポーツを推進するため、スポーツ推進委員による様々なスポーツ支援活動を展開しました。また、スポーツ推進審議会において、スポーツの現状や課題を共有しながら、今後の方向性について検討、協議を行いました。 スポーツ推進委員報酬(委員数 33人) 1,254,000円 【主な活動内容】 ①実技勉強会(年6回ニュースポーツ講習会を開催) ②各種研修会への参加(滋賀県いきいき研修など) ③出前講座(年12回開催、延参加者数451人) ④スポーツ振興会事業やスポーツイベントへの協力など スポーツ推進審議会委員報酬(委員数 15人) 102,500円 ①会議の開催(年2回) ②スポーツ推進計画に係る進行管理など																																		
(2) 市民のスポーツ推進を図るため、各種スポーツ団体に補助金を交付し、活動を支援しました。 ①市スポーツ協会(加盟競技団体数 18団体、加盟構成人数 1,362人) 3,046,876円 ②市スポーツ少年団(加盟数 17単位団、団員 475人、指導者 64人) 2,491,439円 ③公益財団法人伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団 21,457,000円 ④総合型地域スポーツクラブ(市内4クラブ) 2,000,000円																																		
<table><tr><td>総合型地域スポーツクラブ名</td><td>教室数</td><td>延参加者数</td><td>イベント数</td><td>延参加者数</td></tr><tr><td>いぶきスポーツクラブ</td><td>17教室</td><td>3,403人</td><td>8回</td><td>100人</td></tr><tr><td>カモンスポーツクラブ</td><td>15教室</td><td>7,461人</td><td>5回</td><td>445人</td></tr><tr><td>MOSスポーツクラブ</td><td>12教室</td><td>2,521人</td><td>7回</td><td>194人</td></tr><tr><td>近江スポーツクラブ</td><td>11教室</td><td>4,034人</td><td>8回</td><td>548人</td></tr></table>										総合型地域スポーツクラブ名	教室数	延参加者数	イベント数	延参加者数	いぶきスポーツクラブ	17教室	3,403人	8回	100人	カモンスポーツクラブ	15教室	7,461人	5回	445人	MOSスポーツクラブ	12教室	2,521人	7回	194人	近江スポーツクラブ	11教室	4,034人	8回	548人
総合型地域スポーツクラブ名	教室数	延参加者数	イベント数	延参加者数																														
いぶきスポーツクラブ	17教室	3,403人	8回	100人																														
カモンスポーツクラブ	15教室	7,461人	5回	445人																														
MOSスポーツクラブ	12教室	2,521人	7回	194人																														
近江スポーツクラブ	11教室	4,034人	8回	548人																														
(3) 競技スポーツにおいて優秀な成績を収めた選手を表彰し、全国大会等に出場する選手を支援しました。 スポーツ選手大会出場激励金 166件(387人) 1,685,000円																																		



【出前授業】

事業の実績

- (4) 国スポ・障スポ大会の開催に向けて、市実行委員会の各専門委員会を開催したほか、リハーサル大会となる全日本社会人ホッケー選手権大会を開催しました。また、横断幕や階段装飾などの設置、SNSを活用した情報発信、企業協賛を活用した啓発活動、ジョイスポパークの開催など、更なる機運醸成に取り組みました。

国スポ・障スポ米原市実行委員会負担金 22,200,000円



【米原駅の歓迎装飾】



【企業協賛による啓発】



【日本代表合宿の誘致】

- ① リハーサル大会（全日本社会人ホッケー選手権大会）の開催
 会期 令和6年9月20日から9月25日まで
 会場 OSPホッケースタジアムおよび伊吹第1グラウンド
 結果 滋賀クラブは、男子4位/26チーム、女子3位/14チーム
- ② 国スポ・障スポPRイベント「ジョイスポパーク」の開催
 日時 令和6年10月19日
 会場 伊吹第1グラウンドおよびOSPホッケースタジアム
 参加者数 約500人（スタッフ含む。）
 特別ゲスト Yokko氏、山中日菜美選手（女子陸上100m）など



【①代表者会議】



【①試合の様子】



【①学校観戦】



【②山中選手の陸上教室】

- (5) 国スポ・障スポ大会に向けて活躍が期待される選手を指定し、競技力の強化を支援しました。

国スポ・障スポ大会選手育成強化交付金（個人選手10人、団体8団体） 1,000,000円

- (6) 国スポ大会でのホッケー競技開催を見据えて、ホッケーの普及および認知度向上に取り組みました。

- ① スポーツアドバイザーによる普及活動 2,970,738円
 出前授業 45回（延べ2,091人） ※市内小学校の全学年を対象に実施
- ② ホッケー競技普及推進事業委託料 500,000円
 米原・近江地域を対象に、ホッケー競技の認知度向上と競技人口の拡大を図りました。
 委託先 特定非営利活動法人MOSスポーツクラブ
 ホッケー教室 通年事業22回（延べ114人）、体験教室8回（延べ78人）
- ③ ホッケー競技力向上振興事業補助金 1,000,000円
 国内最高峰のホッケーリーグに参戦する地元男子クラブチーム「BlueSticksSHIGA」の母体である一般社団法人ホッケーアカデミー滋賀を支援し、ホッケー競技の普及と競技力の向上を図りました。
 シーズン成績 3位/8チーム
 育成事業 42回（延べ1,852人）



【①出前授業】



【②体験教室】



【③日本リーグの様子】



事業の成果等

- (1) 総合型地域スポーツクラブや市スポーツ協会、市スポーツ少年団など各種スポーツ団体の活動を支援するとともに、スポーツ推進委員会を中心に軽スポーツの普及活動を行うなど、誰もが気軽にスポーツに親しめる機会を確保できました。
- (2) わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大会の開催に向けて、先進地視察やリハーサル大会を実施したことにより、当市での開催に向けた準備を進めることができました。また、ジョイスポパーク等のイベント開催やSNS等を利用した情報発信、歓迎装飾の設置、企業協賛の協力を呼び掛けるなど、機運醸成に向けた取組を進めました。スポーツアドバイザーの活動やホッケー普及事業の委託等により、ホッケー競技の普及促進を図ることができました。

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
地域スポーツの振興	総合型地域スポーツクラブ会員数	1,300人	1,055人	81.2%	A
スポーツ活動等への支援	スポーツ協会加盟人数	2,300人	1362人	59.2%	C
国スポに向けた取組	国スポリハーサル大会の来場者数	2,000人	6,141人	326%	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
令和7年度に開催される「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」の開催に向けて、市内全域でのスポーツの機運醸成を図るとともに、リハーサル大会として、全日本社会人ホッケー選手権大会を開催しました。地域スポーツクラブ会員数、スポーツ協会加盟人数ともにB評価ですが、国スポに向けた取組を実施し機運醸成を図ることができたため総合評価はA評価としました。					A
③事業の課題と今後の取組					
国スポ・障スポを契機として、市民の日々の生活の中にスポーツを取り入れていただくため、さらなる機運醸成が必要となっています。 近年、様々な事情により、スポーツイベントが中止となっており、今一度、米原市の特性としてのスポーツを見直すとともに、今後、ホッケーを核としたスポーツツーリズムを推進するため、県や関係団体と連携し、県内外から呼び込める施策を検討していきます。					

款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 青少年育成費	決算書	148 ～ 149 ページ
事業名		次代を担う青少年育成事業				主管課	くらし支援部 子育て支援課
事業費(円)	令和6年度	令和5年度		財源内訳(円)		令和6年度	令和5年度
予算額	4,971,000	4,515,000		国 費	0	0	
うち繰越	0	0		県 費	500,000	500,000	
決算額	4,899,494	4,434,797		市 債	0	0	
うち繰越	0	0		そ の 他	1,804,100	1,496,065	
執行率(%) / 増減率(%)	98.6	+10.5	98.2	一般財源	2,595,394	2,438,732	
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和6年度)				その他の内訳(令和6年度)			
				地域の絆でまちづくり基金繰入金 1,804,100円			
事業コスト		事業費		人件費(0.50 人役)		計	
決 算 額		4,899 千円		3,506 千円		8,405 千円	
市民1人当たり (36,835 人)		133 円		95 円		228 円	
事業の目的および内容							
子どもが心豊かに伸び伸びと育つまちづくりを進めるため、青少年の健全育成や地域で子どもを育てる環境づくり、子どもの成長の基幹となる家庭の教育力向上のため、関係団体への活動助成を行います。							
(1) 青少年育成市民会議では、定期的にあいさつ運動やパトロールを行い、子どもの見守り、安全確保、青少年の健全育成や非行防止に努めます。							
(2) 子ども会育成連合会では、創作体験事業や支部事業など、各種団体と連携しながら地域での異年齢交流や体験の場を提供し、次代を担う子どもたちの健全育成に努めます。							
(3) PTA連絡協議会では、家庭の教育力向上や学校、家庭、地域の連携の強化を図ります。							
事業の実績							
(1) 青少年育成市民会議 補助金 868,633円 青少年健全育成、子どもの安全確保、非行防止・環境浄化、家庭教育・子育て支援等の活動支援							
①あいさつ運動の実施 年間9回 毎回約250人参加							
②青少年育成大会 令和6年10月19日 近江学びあいステーションで開催 参加者172人 顕彰表彰、あいさつ標語表彰、中学生広場（意見発表）、講演会（PTA教育講演会と合同）							
③巡回パトロールの実施 46回							
④支部ごとの事業（軽スポーツ事業、創作体験事業等）を行い、体験や異世代交流の場を提供							
(2) 子ども会育成連合会 補助金 946,761円							
①ふれあいの里フェスティバル 令和6年11月3日 近江学びあいステーションで開催 参加者500人							
②各単位子ども会（46団体）への助成（令和5年度 53団体）							
③会員数 893人（令和5年度 1,036人）							
(3) PTA連絡協議会 補助金 188,706円 市内のPTA会員の家庭の教育力向上および教育啓発事業等への活動助成							
①教育講演会 令和6年10月19日 近江学びあいステーションで開催 参加者172人 講師 川谷潤太氏 演題 子どもの「ヤル気」引き出し術～とっておきの秘策を伝授します～							
②会員数 2,345人（令和5年度 2,865人）							
③単位PTA 16団体（令和5年度 18団体）							
事業の成果等							
各団体へ活動助成を行うことで、あいさつ運動や巡回パトロールの定期的な実施、ふれあいの里フェスティバル、教育講演会の開催など市内で様々な事業を行うことができ、青少年の健全育成や地域で子どもを育てる環境づくり、家庭の教育力向上を図ることができました。							

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
PTA連絡協議会 教育講演会	子育てをテーマにした講演会の参加者 数	300人	172人	57.3%	C
PTA連絡協議会 活動の充実	PTA連絡協議会の広報発行回数	1回	1回	100.0%	A
子ども会活動の充実	子ども会活動への参加者数	300人	500人	166.7%	A
(青少年育成市民会議) 青少年の健全育成の 推進	あいさつ運動実施率	9回	9回	100.0%	A
(青少年育成市民会議) 子どもの安全確保	子ども110番のおうち設置数	350か所	322か所	92.0%	A
(青少年育成市民会議) 子どもの安全確保	子ども110番のくるま設置数	110台	84台	76.4%	B
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
事業全体において概ね計画どおり実施できたことおよび取組ごとの評価においてもCが一つあったものの概ねAであったことから、総合評価をAとしました。					A
③事業の課題と今後の取組					
子ども会育成連合会およびPTA連絡協議会からの退会により各団体の構成人数の減少が進んでいる。特にPTA連絡協議会においては、令和8年度には加入率が半数以下（8/19校園）となる予定で、事業の継続が困難になることから、解散等について協議を進める必要がある。					

款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 青少年育成費	決算書	148 ~ 149 ページ	
事業名		少年センター事業				主管課	くらし支援部 子育て支援課	
事業費(円)		令和6年度		令和5年度		財源内訳(円)	令和6年度	令和5年度
予算額		6,779,000		5,308,000		国 費	0	0
うち繰越		0		0		県 費	1,375,500	1,375,000
決算額		6,361,298		5,157,909		市 債	0	0
うち繰越		0		0		そ の 他	0	0
執行率(%) / 増減率(%)		93.8	+23.3	97.2		一般財源	4,985,798	3,782,909
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和6年度)					その他の内訳(令和6年度)			
事業コスト		事業費		人件費(1.20 人 役)		計		
決 算 額		6,361 千円		8,413 千円		14,774 千円		
市民1人当たり (36,835 人)		173 円		228 円		401 円		
事業の目的および内容								
(1) 青少年の非行防止および犯罪の未然防止のため、少年補導委員や関係機関との連携の下、日常的な補導活動や有害環境浄化活動を実施します。								
(2) 不登校、非行、無職少年やニート、ひきこもりの青少年およびその家族からの相談を受け、自立へ向けた支援を実施します。								
事業の実績								
(1) 街頭補導活動 青少年の健全育成と非行防止の取組として、街頭補導等を実施しました。 少年補導委員報償費 540,000円 (36人) 主な街頭補導 県下一斉補導活動、あいさつ運動、近隣市との合同パトロール (実施回数 122回)								
(2) 相談活動 少年およびその家族等からの就学や就業に関する相談活動等について若者自立ルーム「あおぞら」と連携して行いました。								
(3) 環境浄化活動 有害図書等立入調査や白ポストによる有害図書の回収活動を行うことにより、少年を取り巻く環境の浄化に努めました。(回収総数 有害図書213冊、有害DVD等176枚)								
(4) 啓発活動 ① 少年が夢や考えなどを言葉に表し、同世代で伝え合いお互いを高め合えるように、少年の主張作文の朗読発表会や作文集を作成しました。(応募 41作品) ② 誘拐防止教室や薬物乱用防止教室等を開催し、見知らぬ人から声をかけられたときの対処方法や、飲酒や喫煙が体に及ぼす影響等についての啓発を行いました。 (誘拐防止教室 1園、薬物乱用防止教室 3校)								
(5) 研修および情報交換 ① 街頭補導活動等が円滑に行えるよう、少年補導委員の研修を実施しました。 (研修会 4回) ② 少年の就学状況等を把握するため、近隣の高等学校等を訪問しました。 (32回実施 訪問校数 14校)								
(6) 主な経費 無職少年対策指導員報酬等 (1人) 2,727,713円 少年センター事務職員報酬等 (1人) 2,171,615円								
事業の成果等								
市教育委員会、米原警察署および少年補導委員等と連携し、パトロールや啓発活動のほか、街頭補導・巡回指導活動を行うことで、青少年の非行防止等の健全育成を図ることができました。								

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
補導活動	-	-	-	-	A
環境浄化活動	-	-	-	-	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
当初の予定どおりの活動が実施でき、少年センターの適正な運営が図れたことから、事業全体の評価をAとしました。					A
③事業の課題と今後の取組					
少年センターの適正な運営が図れるよう、引き続き事業を実施します。					

款	10 教育費	項	4 幼稚園費	目	1 幼稚園管理費	決算書	142 ～ 145 ページ	
事業名		幼稚園管理運営事業				主管課	くらし支援部 保育幼稚園課	
事業費(円)	令和6年度	令和5年度		財源内訳(円)	令和6年度	令和5年度		
予算額	19,505,000	18,187,000		国 費	675,400	1,106,675		
うち繰越	0	200,000		県 費	605,200	993,837		
決算額	17,426,899	16,429,884		市 債	0	0		
うち繰越	0	193,380		そ の 他	147,670	282,692		
執行率(%) / 増減率(%)	89.3	+6.1	90.3	一般財源	15,998,629	14,046,680		
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和6年度)				その他の内訳(令和6年度)				
				通園バス利用負担金 66,000円				
				教育実習生受入金 55,000円				
				特定教育・保育施設給食費利用者負担金等 26,670円				
事業コスト		事業費		人件費(1.25 人 役)	計			
決 算 額		17,427 千円		8,764 千円	26,191 千円			
市民1人当たり (36,835 人)		473 円		238 円	711 円			
事業の目的および内容								
(1) 保護者との連携のもと、幼児教育およびチーム保育の充実を図り、地域に根差した特色ある園づくりを進めます。								
(2) 幼児教育・保育の無償化制度について、無償化対象事業（幼稚園型一時預かりなど）を利用する保護者に対して、無償となる要件や手続等を丁寧に説明します。								
(3) 保護者ニーズの変化を踏まえ、山東幼稚園の閉園を決定しましたが、在園児が卒業する令和7年3月末まで、市内唯一の幼稚園として運営を続けます。								
事業の実績								
(1) 市内特定教育・保育施設利用子ども数（令和7年3月31日現在）（単位：人）								
施設名	3歳児	4歳児	5歳児	合計	うち市外の園児	利用定員	定員充足率	子ども数前年度比
山東幼稚園			10	10	0	110	9.1%	▲ 16
※閉園決定に伴い、令和6年度は3、4歳児クラスの募集は中止しました。								
(2) 園内研究会および研修会								
保育者の資質向上を目指して、次のとおり園内研究会等を開催しました。								
施設名	研究会	研修会	令和6年度研究主題					
山東幼稚園	16回	2回	様々な交流を通して子どもの育ちや教師の学びを考える — 他園の同年齢や異年齢児との交流から —					
(3) 子どもの育ちを保障するための交流事業								
内 容	子ども	職員						
他園との交流	19回	5回						
(4) 幼稚園型一時預かり事業 利用者延べ527人（前年度実績902人）								
(5) 山東幼稚園の閉園								
平成15年4月1日に開園した山東幼稚園は、令和7年3月31日をもって閉園しました。								
閉園式 令和7年3月15日 総卒園者数 738人								
事業の成果等								
(1) 計画的な園内研究会等および交流事業を実施することで、子どもの育ちの保障および保育者の質向上に努め、幼児教育の充実を図りました。								
(2) 幼稚園の閉園後の施設について、跡地利用も含めて、子育て環境の充実に資する施設への再整備に向けて引き続き検討を進めます。								

①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R6年度	現状値 R6年度	目標達成率	評価 (A～C)
子育て支援の充実	市民意識調査の「子育て・子育て支援の充実」についての満足度	R8/90%	未実施 (R5/83.2%)	—	—
子育て支援の充実	市民意識調査の「米原市を子育てしやすいまちだ」と思う市民の割合	R8/85%	未実施 (R5/78.8%)	—	—
園経営	幼稚園学校評議員による園経営全体に関する評価点	3.2	4.0	125.0%	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
成果指標に掲げる目標において、目標達成率が100%を超えたことから、A評価としました。					A
③事業の課題と今後の取組					
幼稚園の令和7年3月末閉園まで、園児が安心して教育を受けられるよう、保護者と連携して地域に根差した園づくりを進めました。また、近隣園との交流を深め、集団での育ちや教育の場を確保しました。					

令和6年度
認定こども園運営委員・学校評議員による園評価
【公立認定こども園および幼稚園】

「米原市学校教育の指針」および「米原市保育の指針」の取組内容に関わる評価のため、以下の項目を認定こども園・幼稚園（以下「園」という。）共通項目とした。園における自己評価の結果や園長の説明、保育や行事の参観等を基に、評価と御意見をいただいた。

評価の方法は、それぞれの項目の評価の欄に次の記号（４：よくできている、３：できている、２：あまりできていない、１：できていない）で評価を記入していただき、御意見を求めた。

1 園経営全体に関わること

山東幼稚園	まいばら認定 こども園	おうみ認定 こども園	かなん認定 こども園	いぶき認定 こども園
4.0	3.9	3.7	3.9	4.0

視点① 園の目指す園経営の基本や子ども像は、地域の子どもたちの実態に合っている。

- ・小規模な園ならではの“かなんらしさ”を生かし、異年齢児との交流を大切にされている点がよいと思います。
- ・独自の園経営や恒例となっている交流行事のほか、園児が楽しめる行事の充実を図っていた。
- ・現状（1学年1クラス10人、職員数、今年度で閉園）をプラスに捉えた園経営・教育をしている。それは、子どもたちの姿や成長の様子から感じられた。
- ・わが子ファースト、自分の都合で判断する保護者は一定数いるものです。そういう思いの保護者を意識しつつも、取り組みや活動を評価されている多くの保護者の期待に応えられるよう、今後も子どもたちのために頑張っていただきたいと思います。様々な意見を真摯に受け止め、改善すべき点は改善に努めてください。

視点② 園の教育（保育）目標、教育（保育）推進の基本、園の様子等を保護者や地域に分かりやすく説明するなど、積極的に情報発信に努め、地域に開かれた信頼される園づくりに取り組んでいる。

- ・第1回目の運営委員会で、保育目標や運営方針等、丁寧に説明いただいている。地域の実態に合っており、先生方の御指導の中にその方針などの実践が見てとれる。大変素晴らしく、地域の者にとってありがたいことである。
- ・保護者と先生の信頼関係ができていると思った。
- ・毎日帰りには子様子を詳しく話してくださり、様子がよくわかりとても感謝している。安心して送り出せている。
- ・園全体に目標に向けた取り組みが感じられていました。園児らのすくすくと活動している様子もよかったです。
- ・毎月、自治会では『かなんだより』を回覧させていただいており、園の様子がわかります。回覧

は、高齢者が見ることも多いので、文字を大きくして文章を短くしていただくと見やすいと思います。

- ・ 5歳児 10名という極小規模園の運営を余儀なくされた中、子どもたちの健やかな成長のために恵まれた環境をフルに活かし、職員が一丸となって日々工夫しながら教育・保育活動に挑戦していた。
- ・ 週に一回のクラス日より発行からも、保護者に対し丁寧できめ細やかな保育の対応を感じた。
- ・ 園児一人ひとりにとって、何が必要で大切か場面に合わせて目標設定や方法など先生方が密に連携を図っていた。また、他園との交流も単発ではなく、日々の生活から交流されていることも子どもたちの大きな成長に繋がった。
- ・ 保護者の方が、先生方に大変感謝をし、喜ばれていることが保護者アンケートからも感じられた。園に何度も行かせていただいたが、いつもわかりやすく説明して下さりありがたいです。
- ・ 情報発信の面でいうと、キッズビューと手渡しプリントが混合していたのがわかりにくかった。配信やおたよりが全体的に遅いかと感じました。
- ・ 公立園の良さを生かして園運営を保護者に積極的に情報発信していただきたいです。

視点③ 園長のリーダーシップの下、教職員が課題を共有し、園の教育（保育）目標達成に向け、一丸となって取り組んでいる。

- ・ 子ども達はいつも元気でのびのびこども園に通っている子が多いと感じる。朝、園長先生が挨拶立ちしてくれているのが安心につながっている。人の気持ちがくみ取れる優しい子どもをたくさん育てておられると感じる。
- ・ 「生き生きと遊ぶ心豊かなたくましい子どもの育成」を目標に掲げ、園長を先頭に職員全員が一丸となり、それぞれの役目を果たしておられることが伺えました。また、そのことは保護者アンケートの数値結果にしっかりと表れていました。
- ・ 毎日休まず喜んで登園する姿を見て、よほど園が楽しいところなのだろうと感心しています。
- ・ 避難訓練を大切にされていると感じました。
- ・ 園長のリーダーシップの下、園が一丸となり、さらに担任の頑張りとお人柄がしみじみと伝わってくる1年であった。
- ・ 保育の充実度は、子どもたちの姿に現れます。参観時の子どもたちの劇や歌・様々なチャレンジ等に取り組む姿は、日々の充実した保育を物語っていると感じた。先生方の積み重ねの指導により、十分に年齢別目標に到達されていた。
- ・ 小規模園だからこそその良さを最大限に活かした取り組みをしていた。
- ・ 今年度、チーム担任制で大きく変わったが、子どもたちも保護者の方も安心しておられて素晴らしい。
- ・ 職員の自己評価を読ませて頂いて、日々先生方が素晴らしい保育をされておられる事が感じ取れます。中に入れば色々な問題が有るかもしれませんが、先生たちが余裕を持って保育ができる環境を作っていただき、日々目指す保育をお願いしたいと思っています。
- ・ 皆さん、全員が協力し合って運営されている姿を拝見して素晴らしいと思っています。
- ・ 申し分ない。

視点④ 特別支援保育推進に向け、障がいのある子どもの視点に立ち、子どものニーズを把握し、管理職およびコーディネーターを中心に、園ぐるみできめ細かな支援の充実を図っている。

- ・園児と保護者と園の信頼関係も深まり、不安から安心に繋がったのだと思う。常に職員の情報共有と連携を図り、地域や他園との交流もいくつもの工夫をこらし付加価値を高め、積極的に幅広く取り組み続けてきた。山東幼稚園から巣立つ園児たちは、最高に幸せな子どもたちである。

視点⑤ 園の諸活動を応援する組織づくり等、保護者や地域との連携を図り、地域の教育力を生かした取組を積極的に推進している。

- ・コロナ禍が弱まり、人との関わりにおける活動が戻り、地域・中学生・PTAなどの方々の御協力により「笑顔」の場が広がり「楽しい・嬉しい体験」が積み重ねられたことで、子どもたちは感情表現が豊かになるとともに、人との出会いや会話から人と関わることへの安心感と嬉しいワクワク感が育っていったと思われます。乳幼児期には家族をはじめ、保護者や多くの人との温かい関わりが一人一人の人格形成にも繋がっていくと考えます。
- ・焼き芋に参加させていただきましたが、各先生方が頑張っていたいており、子どもたちがいきいきしていることが素晴らしいと思いました。
- ・一学年で、しかも、少人数、複数校への就学という保育状況を踏まえて、他園との交流を計画的に積み重ねたり、全職員で子どもたちの課題や発達状況を共通理解して関わったことが、子どもたちの成長に繋がった。
- ・保護者をはじめ、地域にも信頼され、安心安全な園経営が昨年以上にできている。
- ・地域の方の所に出向き、いちご狩りやさつまいも掘りなど普段では絶対に関わることのない人たちや経験をさせてもらうことで、子どもたちにとって社会性を学び、食べ物への関心に結び付きとてもいい機会だと思う。また、子どもたちにとっては長い距離を歩くと聞きました。運動離れで体力が低下しやすい今、とてもいいことだと感じた。
- ・子どもたち一人一人、ご家族・家庭ごとに課題が異なる中で、様々な対応をしていただいている。
- ・地域との交流はとても良いと思いました。

視点⑥ 教育・福祉・保健等関係機関との連携を図り、子どもの育ちをつなぎ、ともに支える取組を行っている。

- ・就学に向け、今まで以上に他園との交流事業の企画や、地域・卒園生を巻き込んだ行事の工夫もとても良い。保護者の感想からも、園への感謝の気持ちがよく伝わり、園運営への高い評価がされていることは素晴らしい。
- ・細やかな対応をしていただいている分、小学校に進学して取り残される子ども、家庭がないかが心配。
- ・施設を有効に使われている。
- ・双葉中学や地域との連携などうまく運用されている。

視点⑦ 未就園児家庭を含めた全ての子育て家庭に対する支援の取組を積極的に行っている。

- ・入園前は『はなばたけ』という子育て支援センターに通わせてもらい、自分も先生や他のママさんと話し、情報交換や気分転換もでき、すごく良い場所だった。
- ・一時預かり事業の実施、大変ですが頑張ってください。(今年度、緊急時に利用し、大変助かった。この取り組みが市民に浸透すればいいと思う。)
- ・短時部の子どもも夏休みなどの関わりを大切にされている。(夏祭り参加、幼稚園型一時預かり等)
- ・あゆっことの連携をがうまくいくといいと思います。
- ・未就園児事業は、子育て支援センター同様に室内で遊べるよい空間である。利用時に園児の雰囲気を感じられたことは、親子共に育ちが感じらるのが良い。
- ・あゆっこが園内に設置されており、未就園の子どもを持つ親が話しやすい場所であり、なにより、園の雰囲気を感じて身をもって知れる安心感からそのままこども園に入園させたいという流れになるのだらうと思いますが、少子化が増加する今、入園希望者が殺到するこども園は素晴らしいです。

2 基本的な生活習慣の形成

山東幼稚園	まいばら認定 こども園	おうみ認定 こども園	かなん認定 こども園	いぶき認定 こども園
3.8	4.0	3.7	3.6	4.0

視点① あいさつをはじめとして、基本的な生活習慣の定着を図るために、生活に必要な習慣や態度が生活体験を通して養われるよう生活指導の工夫に努めている。

- ・年3回だが、民生委員として「あいさつ運動」に取り組ませてもらっている。子どもや保護者の方々から返ってくる声に元気をいただける。
- ・「おはよう」「ありがとう」「ごめんね」が言えていると思いました。
- ・朝、入り口に園長先生をはじめ主任先生が立って挨拶をしてくださり、子どもも習慣付いて朝挨拶をするようになった。
- ・年3回ですが登園時に挨拶運動に関わらせていただきました。知らない人からの挨拶ではにかむ園児もいましたが、幼児組の子どもたちは元気に挨拶をしてくれました。挨拶は一日の始まりであり、活動のスタートでもあるので、保育者や大人がモデルとなりにこやかに嬉しい気持ちで園生活ができるよう今後もお願いします。また、基本的な生活習慣は日々の繰り返しで身に付いていくので、育ちに応じた努力の過程を認めながら自分でできた喜びをたくさん味わわせてあげてください。
- ・保護者同士の挨拶を目にする事が少なかったように思います。そのためか、子ども同士の挨拶が少なかったと思います。
- ・生活習慣が定着しやすいように環境を整え、個々に声掛けをして保育者がゆったりと関わっておられると思いました。

- ・訪問時の元気のよい挨拶から、日々の指導が十分されていることが分かる。また笑顔溢れる表情から、よい雰囲気の中で日々の教育・保育活動が進められていることが理解できる。先生方の言動が素晴らしいお手本である。
- ・日々の小さな積み重ねを繰り返し取り組んできたことが、園評価からも伝わった。年少組から毎月継続されてきた「がんばりカード」により、園と園児と保護者が目標達成に向けて続けたことは、着実に成果として表れている。
- ・給食では、園児と全職員が毎日一緒に食べて一人ひとりに目を向け情報を共有されているなど、とても丁寧に細やかな指導や関わりをしていると感じた。
- ・どの先生にいつ会っても気持ちの良いあいさつをしてくれるので安心してしています。
- ・基本的な生活習慣を身に着ける大切な年齢で、また1年間の成長や差が大変多くご苦労をいただいていると思います。コロナの流行で手洗い等の回数も増え、ひとつひとつの積み重ねが大切で、本当に頭が下がります。
- ・子どもの年齢に合わせて、普段の生活の中で、できることを見つけ”やってみよう”と思えるように関わってくれているのがわかります。
- ・先生方が手本となり、子どもたちが学ぶ環境ができています。
- ・挨拶や生活習慣がしっかり身についたと思います。
- ・最近、小学校の子の挨拶が良くなるようになったと感じています。小さい頃からの習慣がとても大切だと思います。あいさつ運動をさせていただくと、保護者の方が気持ちよくくださると子どもも笑顔で返してくれるように感じます。朝の玄関での受け入れ時に、園長主任が率先して保護者にあいさつするよう心がけてくださると嬉しいです。
- ・先生がされていることは子どもたちに見られているとの意識を常に持っていることは大事だと思います。特に、言葉使いの影響は大きいように思います。
- ・挨拶をすると自然と笑顔が返ってきます。廊下ですれ違った際、小さい子の笑顔が印象的です。

視点② 社会の決まりや集団生活のルールの習得に向け、教職員の共通理解の下に取り組んでいる。

- ・集団生活のルールをしっかりとできていることが伝わってきます。
- ・学校へ入った途端、先生の言うことが聞けず、授業中座っていられず、うろうろする子がいる。小学校との連携は？と思う。
- ・自分のことは自分でする、そしてできるまで待つ5歳児の指導姿勢が伺え、それが子どもたちの中にも理解されていることが分かった。
- ・縄跳びの縄の始末は、手先の巧緻性が求められるため、身に付けるにはなかなか難しい。根気よく指導されてきたことや、始末に時間がかかる友達にも黙って見守る優しい仲間の姿にも感心した。
- ・私は、どちらかと言うと過保護に曾孫を見ていると指摘を受けているが、園を訪問して見ていると先生がしっかり指導をしていただいて安心です。
- ・おたよりの中で、これにチャレンジしていると伝えてもらうことで、家庭でも練習したり話題にすることができている。

視点③ 子どもたちの望ましい食習慣の形成に園全体で取り組んでいる。

- ・河南小・中の残飯量が市内で一番多いとか…。好き嫌が多いのか、食べる量が少ないのか、不思議に思っています。
- ・栽培した野菜を使って、採れたてクッキングを何回も実施したことは、収穫の喜びや味覚の感動が、家庭での食生活にも繋がると思う。
- ・給食当番活動を復活させ、全ての配膳を園児たちでしてきたことはすぐに活かされるので、小学校入学前に実体験できたことはきっと自信へと繋がるのではないかな。
- ・好き嫌いがどうしてもあって、家でも困っていると話すと、いつも園での取り組み、関わり方を話してくれるので家でもまねて行っている。”一口でも食べられたら OK”、”自分で食べられる量を決めて完食する喜びを大切にする”をまねています。

3 豊かな感性や表現力の育成

山東幼稚園	まいばら認定 こども園	おうみ認定 こども園	かなん認定 こども園	いぶき認定 こども園
4.0	3.8	3.7	3.7	3.85

視点① 全身（五感）を働かせた活動を展開している。

- ・夏是水遊びや泥遊び、スライムなど感触遊びをして、子どもはとても喜んでいる。
- ・踊りの姿や活動している姿に、先生の心がけなどを感じています。
- ・豊かな環境を活かし、五感を働かせて季節感を味わいながら子どもたちが活動してきた一年であったことが伺える。
- ・参観時での劇や合奏得意技などの披露も、全てやる気があふれ子どもたちの成長した姿を見ることができた。
- ・1年を通して、書いたり作ったりして自分を表現する機会を大事にしていた。その表現したものが残せている園全体の環境もとても良い。
- ・よく運動場で泥遊びや水遊びをされている姿を拝見しました。冷たさやぬるぬるさなど、大切な活動だと感じています。
- ・雨や天気の良い日は室内の広い場所で体を動かす遊びをしてくださったり、お話の時間も目を見てしっかり話を聞くことも身についたと思います。
- ・自然環境の素晴らしい園です。再発見するともっと心豊かな保育が充実すると思います。1回目の訪問時にも思いましたが、感動を(体験)伝えてみてはどうでしょう。

視点② 子どもたちが喜んで話したり、聞いたりすることができるよう、教職員がきめ細かな対応を心掛けている。

- ・子どもの笑顔をたくさん見ることができる。心が安定しているからだと感じる。
- ・子どもたちが元気に活動している。どの組も先生方がきめ細やかな対応をしていることがよくわかりました。
- ・子どもたちを見ていると、目を輝かせているのがわかる。先生が信頼されているのが、うかがえ

る。

- ・話を聞いてもらう、受け止めてもらえるということが安心につながり、進んで活動していくことにつながると感じました。
- ・繰り返し取り組む姿勢が、自分がやりたいことを見つけることや思う存分に楽しむこと、自分で考え自分の言葉で話せるようになったという結果が成果に表れている。
- ・先生が仲間の一人として全力で付き合い、遊ぶことが子どもたちに良い刺激になっているのだと思う。
- ・どんな些細な話でも子どもと同じ目線に立って、丁寧に聞いてくれていると感じる。登園時、特にありがたい。助けられているなと感じます。
- ・泣いて登園したり、行くのをしぶられる時は、無理に親から引き離そうとせず、まずは、子どもの気持ちを聞いてくれて、そして今日一日楽しくこども園で過ごせるように、楽しみを一緒に見つけてくれる。先生方に感謝です。
- ・ぶれない軸を持ちながら、多岐にわたる子どもたちの発想を生かしていける先生方はさすがだなと思う。

視点③ 一人一人の子どもの主体性を大切に、満足感・充実感を味わえるような環境の構成および活動を展開している。

- ・保育室内の子どもの作品を見せていただくと、どの子の作品ものびのびとし、製作を楽しんでいることがわかる。
- ・運動会や発表会では子ども一人一人、自分のやりたいことを大事にしてくださり、自分たちで役割を決め作り上げ、楽しくやる気ももたせてくださり達成感につながるようにしてくれている。
- ・子ども一人一人を大事に受け止め、園・学年・学級のねらいに応じながら計画をされ保育に取り組んでおられることが、園児の様子や園の取り組みの様子から伺えました。乳児は言葉でうまく伝えられない分、保育者は子どもの表情や温かい声掛けにより、「見て・聞いて・触れて・感じて」学びを深めています。また、友達や周りの様子、遊びの環境などを自ら選択し、その中で考えたり工夫したりして主体的に遊びを作り出していきます。園児は保育者の笑顔、表情、言葉掛けをいつも感じ影響を受けて学んでいくので、保育者の姿勢を問われます。今後も「にこやかで温かみのあるチーム、いぶき認定こども園の先生たち」で団結され、子どもへの関わりをお願いします。
- ・参観時での子どもたちの表現力・集団のまとまり・互いに助け合う気持ち等が育まれている姿に感動した。
- ・一人ひとりが、自分の役割を十分に理解して協力して表現する姿は、生き生きとしていて素晴らしかった。また、大きな声ではっきり台詞を言ったり、司会進行をしたりする姿からは、自信が伺え仲間とともに作り上げていく過程こそが大切であり、充実した時間であったことが想像できた。
- ・10人の園児のうち3人欠席した状況でも、7人で補い助け合い協力しながら進める力に、一人ひとりの持つる力を最大限に引き出す保育を展開してきたと感じた。

- ・それぞれの個性をいかに見抜いて引き出してあげるかが大切であり、生活や遊び、沢山の行事などの中から、先生の鋭い感覚・目線で子どもと接して細やかに対応していることが分かった。
- ・子どもを見ていてしっかり成長していることがわかる。
- ・保育参観の内容も自分たちのアイディアを取り入れてもらい、認めてもらうことの喜びを学んでいると思う。
- ・個々に応じた支援や補助、発達段階に応じた援助はむづかしいと思います。そのことを常に意識して保育をされているように思います。

4 健やかな体と豊かな心の育成

山東幼稚園	まいばら認定 こども園	おうみ認定 こども園	かなん認定 こども園	いぶき認定 こども園
3.8	3.7	3.7	3.7	4.0

視点① 心身ともに健康で安全な生活が行われるよう環境づくりを工夫している。

- ・家庭内での体験が不足している昨今、本当にいろいろなことをしていただき、素晴らしいと思います。
- ・広い園庭の活用、サッカー教室、保健・健康面の手洗い・ブラッシング指導など、バランスよく保育を展開したことが理解できる。
- ・運動会での姿やそり滑りを楽しむ姿から、普段からのびやかに体を動かすことを楽しんでいることが伺えた。広々とした園舎内の空間や園庭を活かして、子どもたちの活動を広げてくれたことが、心身の健康に繋がったと思う。
- ・地域の豊かな地を活かして、のびのびと活動してきた結果として、子どもたちが心も体も元気に成長してこれたのではないかと感じる。
- ・運動会では、それぞれの発達に応じた動きを伸び伸びと楽しそうにしておられました。また、リレーなどでは、力いっぱい身体を動かすこともできていました。個としても全体としても輝いておられました。
- ・園から帰ると私がいる時は、ほとんど自分の家に帰るまで私と妻に園で習った事、なわとびやあやとり、歌、ぼうずめくり、トランプ等教えてくれる。また、会話は、こども園の子どもと思えないほどしっかりした事に驚いている。
- ・家庭にはないこども園マジックで、みんなで学ぶ雰囲気と環境を作っていただいている。
- ・遊びを通して学び成長していく子どもたちにとって、良い環境づくりに努められ取り組んでおられると思います。

視点② 自然や動植物、絵本や物語等に親しむ機会を個々や集団に合わせて取り入れている。

- ・自然豊かな園庭を活かし、子どもたちがのびのびと活動している。その周囲に、見守り、声かけをする先生方がおられる。子どもたちは本当に幸せである。

- ・毎週金曜日には絵本借りがあり、週末は必ず寝る前に読み聞かせをする時間になり、とてもありがたく思う。
- ・伊吹ならではの特性ある自然環境の中で、子どもたちは伸び伸びと遊びきり、とても幸せだなと思います。子どもも保育者も四季の自然の移り変わりを肌で感じ取り、その時期にしか味わえない自然との関わりを大事に受け止めて保育を展開され、子どもたちは満足いくまで遊びることができ、心身共に成長されていると思いました。家庭では経験できない遊びや活動、行事など、安全面に配慮されて今後もよろしくお願いします。
- ・自然豊かな場所ならではの環境を大切にされていると思います。
- ・絵本との出会いも、担任を中心におはなしサークルなど様々な取り組みが行われた。家庭だけでは難しくても、園での取り組みが絵本を好きになるきっかけとなり、今後に繋がるだろう。
- ・生き物を育て、羽化や産卵の様子を実際に見て命の存在・大切さ・尊さを知り体験してきた。それが、より生き物に興味を持ち、図鑑や絵本で調べて関心を深めている。園での生活や活動がその場で終わらず一つ一つが結び付き、繋がり、活動に流れができることは、子どもたちの経験の積み重ねとなり成長に繋がっている。
- ・自然や動物の関わりについては、とてもよかったと思います。

視点③ 自然環境に関わり動植物などの飼育・栽培を通して、自然の不思議さや命の大切さに気付く取組をしている。

- ・芋掘り体験など、自分が体験させてあげられないことをさせてもらえて、子どもの経験になるので嬉しい。
- ・うさぎ当番など動物を触ることや関わることもあるから、豊かな心が育成されているのかなと思った。
- ・園でうさぎの飼育をして、毎月当番制でえさを持参してあげ、当番が来るのを楽しみにしている。
- ・にわとり小屋があるのに飼育できないのは残念。市で調達できないでしょうか？子どもたちが飼育に携わることで、動物への命の大事さなど気付くことになると思う。
- ・植物（野菜など）を育てて、食育活動に生かすことで子どもたちが野菜や食に対して興味を持つていくことができているように思います。
- ・動植物とのふれあいを通して命の尊さを感じたり、様々な感動体験をしたりすることは幼児期には非常に重要な教育活動である。小規模園の機動力を活かして上手く挑戦できている。
- ・2匹のカメを大切に飼育したことや、小さな命の誕生やお別れなどの感動体験は、生きていく中でとても大切な経験へと繋がっていく。
- ・クラスが上がっていくにつれて、栽培するものも変わってきたりして親子で楽しく育てることができた。うまく育たなかったらどうすべきなのか自分で考え、聞いたりする姿が見られ命と向き合う姿が見られた。
- ・教職員が自然の中で遊んだ経験がない、遊ぶ方法を知らないといった話がありました。まさにその通りで、今後ますますその傾向にあると思います。自然の中で五感を通した体験は、就学前のこの時期にこそ大切だと考えます。先生方が自然の中で遊ぶ体験や研修が必要になってく

るのではないかと思います。

- ・特に自然環境が豊富な園です。植物や野菜を作る栽培、水やりだけでも素晴らしい取り組みです。

視点④ 身近な大人や友達と一緒に、調理したり食べたりする楽しい食体験の工夫に取り組んでいる。

- ・更生保護として何かできることがあれば申し付けください。
- ・ピーマン、ミニトマト、ナスなどを植え育て、栽培して園でクッキングしてくれ食育になり、家では食べられない野菜も食べられるようになった。
- ・野菜を育て食べたりと、心豊かな教育ができていると感じます。
- ・焼き芋行事に参加させていただきましたが、大変いい取り組みで当日だけでなく、関連して準備などの取組に工夫を感じました。
- ・自分たちの栽培したものを、自分たちで調理して食べる。苦手なものもちょっと食べられる、とってもいい食育活動だと思います。
- ・『収穫したらすぐに食べる』経験は、野菜作りや畑の草むしりなどを含めての食育のため、野菜の味わいも格別だったと思う。先生方も改めて実感された『これぞ食育』は素晴らしい。
- ・育てて収穫し、調理をする体験型学習の経験から、感謝の気持ちや食のありがたさも実感することができる。1年を通して食育活動が行われた経験が、家庭でも食への興味・関心やお手伝いにも繋がっていく。
- ・家庭では食べないものも、みんなで作ってクッキングしてみたら食べられたと嬉しそうに子どもが伝えてくれることがある。
- ・クッキングや花の水やりもすごく楽しんでいました。

5 人と関わる力の育成

山東幼稚園	まいばら認定 こども園	おうみ認定 こども園	かなん認定 こども園	いぶき認定 こども園
4.0	3.8	3.7	3.9	3.85

視点① 一人一人の子どもが安心して自己表出できるような保育者との信頼関係作りに努めている。

- ・子どもたちはもちろん、先生方もいつも笑顔で接してくれるので気持ちがよい。子どもたちも安心できていると思う。
- ・子どもたちは保育者と仲間との出会いから数多くの体験を通して探求心を深めておられます。特に保育者との愛情ある関わりは、信頼関係が深まり安心して過ごされている様子が伺えました。また、中学生や地域の方々との関わりも今年度は機会が増していったことで、いろいろな人と関わり言葉を交わし笑顔が増していきました。
- ・ほかの組織や機関との連携の取組の説明を聞きましたが、大変良い取り組みで効果があると思います。継続実施をお願いしたいと思います。

- ・親がゆっくり子どもに接する時間が持てない中、園では、親以上に接してくださって有難いです。核家族が多くなり、園の必要性を感じています。
- ・参観させていただいた折にも、安心できる仲間や保育者の中でのびのびと生活している様子が見られました。
- ・普段から、自分の思いを言葉で伝える力や仲間の思いを聞く力を育むことを大切にして保育を展開されてきた。少人数で生活する子どもたちだからこそ、今後大きな集団で生活していく子どもたちには、より必要な力の一つだと考えられる。全職員が共通理解して、それぞれの立場から関わったことが、子どもたちに確かな力がついたのだろうと思う。
- ・十人十色の違いを認め、認め合うよう実践し続けることは容易ではない。職員数が少ないにも関わらず、他園との交流や様々な機会を作るなど、人と関わる力を伸ばし、これだけ盛り沢山で充実した有意義な取り組みを図ったこと、そのような関わりを持ち続けてもらえたことは、とても恵まれた幸せな子どもたちだと思う。
- ・参観時の姿から、日頃から接している先生方の信頼関係があったからこそだと思った。
- ・発表会や畑の作業、日々のごっこ遊びなどを通して一人一人の子どもさんが力をつけておられること、また、保育者の先生方と信頼関係を築いておられることが感じられます。
- ・支援の必要なクラスメイトとのかかわりがとてもうまくできていると思う。お互いがクラスの一因となっていて、見ていて嬉しくなる。
- ・チーム担任制になったことで、保育者との信頼関係作りが少し気になりました。
- ・「〇〇には言った」「〇〇先生は見ていた」と子どもから聞くが、迎え時に共有がないことが多かった。

視点② 子どもが生活や遊びに主体的に取り組み、繰り返して体験できるような環境作りに取り組んでいる。

- ・保育参観に行かせてもらって、「ああ、こんな運動もできるのか。こんなセリフ長いのに覚えられるんだ」と感動した。
- ・一人一人が自主的に取り組んでいることに、先生方大変さを感じます。
- ・一人ひとりに声をかけ、目配りや気配りしながら自分の気持ちや感じたことを言葉で表せるようになったことは、日々の積み重ねの賜物である。
- ・子どもたちは、仲間の思いや個々の個性を理解したうえで、共に力を合わせて様々な活動に取り組んできたので、より自主的でやる気にあふれた姿に成長したのだろうと感じた。
- ・保育の中で、自分でこんなもの作りたい、こんな遊びがしたいと思えるように先生方が環境を整えてくれているのですばらしいと思いました。
- ・入園時は、おむつをしていたと思いますが、今、本当にしっかりと話も出来、豊かな感性を身に着けた子どもたちに育てていただいた事に感謝です。

視点③ 子ども同士が一緒に活動する中で、友達の良さや自分との違いに気付いたり、互いに認め合ったりする支援を行っている。

- ・紙工作の活動をしている様子を見せてもらったとき、他の子と相談・協力しながら取り組んでいる姿をたくさん見る事ができた。まさに、他と関わり、主体的に取り組む姿だと感じた。

- ・子ども同士仲良しで、互いに認めているように感じる。
- ・“今日の素敵な姿”を帰りに話す時間を作ってください、我が子もそれを発表する・される時があり、それが嬉しく、家に帰ってからその話をして自信につながっている。それを聞いて、他児も認めたり自分もやろうという姿になるので、良い時間だなと思った。
- ・クラスの中で自分の居場所があり、仲間同士伝え合ったり認め合ったりして、自分の思いを素直に伝えられることで、人と関わる力を身に付けていくと考えます。しかし、いつも思うとおりにならないこと、悔しいことなどの感情も味わいながら我慢することや努力すること、繰り返し取り組むこと、失敗してもまた挑戦することなどを経験し、できた喜びや嬉しい感情を味わい自己肯定感を身に付けていきます。そのような過程を大事に受け止め励まし、人と関わることの難しさと楽しさを今後も積み重ねられることを願います。
- ・年長組としての思いやり、やさしさ、責任感を感じ、人とのかかわる力の成長を感じます。
- ・異年齢との交流で、関わり方を考える姿がたくさんあって、良いと思います。
- ・きめ細かな指導から、個々の良さを引き出し、互いの違いを認め合う集団づくりを進めてこられたことが様々な場面で伺えた。
- ・自分の思いを他者に伝え、他者の考えをしっかりと聞く等、より良い人間関係づくりの基本を粘り強く指導されてきたことは素晴らしい。
- ・少人数の中で過ごす、言わなくてもわかってくれる友達や人の近くに行ってしまうことは自然なことである。その中で、まずは自分が大好きになることが大切である。そして対等な関係で意見を出し合い、相手も認められていく。そのためには、根気よく一人ひとりと先生方が向き合ってきたのだと考える。
- ・保育参観を通し、一年間の子どもたちのしてきた遊び、友達とのやり取りを見られる機会があり、とても良いと思う。
- ・学校現場ではインクルーシブを進める動きがあります。こども園こそ、いろんな子どもたちが違いを認め合い共に育つことができる場であると考えます。今の特別支援に力を入れた保育を進めてほしいと思います。
- ・子どもと先生、子ども同士の関係を築く中で仲間づくりや社会性を身につけるための基礎ができあがるのだと思います。この力こそ、これから生きる力につながる大切なものだと思います。今後も、丁寧に育ててほしいと思います。
- ・チーム制が機能しているように思います。大きな園であるため大変ですね。

6 その他

「知・徳・体の調和のとれた米原の子どもの育成」に向けての御意見や御提言、また、各園や教育委員会・保育幼稚園課への要望などがあればお書きください。

- ・園の先生方の対応等に関しては、すごく大変だと思いますが、子どもたちにとってはとても心強い存在なので頑張ってくださいと思います。が、タスクが増加しすぎないようにしてもらい、先生方の心も体も元気で頑張ってもらえるよう、いろいろな面からの支援等、よろしくお願いします。
- ・一年間ありがとうございました。保育者の皆さんの努力が本当に伝わりました。大変なことも

多々あると思いますが、これからもよろしくお願いします。

- ・ 幼児クラスを見学させていただいて気付いたことを記入させていただきます。幼児クラスの廊下や保育室には子どもの表現が現れた絵が掲示されていました。個性が発揮できる素材・色が自由に選択できる場が子どもの表現を豊かにしていくと同時に、個性が輝く表現に繋がると考えます。今回の絵だけなのかもしれませんが、みんな一緒に表現だなという感じを受けました。例えば①手袋の表現ですが、どの子も一緒に大きさではなく、準備段階で大きさの違う手袋を準備し、子どもが表したい大きさの手袋を考えさせて選んで貼る。②雪だるまについても、大きさの違う雪だるまを自分で選択して表現をしていくなど、また、色についても原色だけでなく混色を準備し、好きな色を選ぶ数や量のあることで、一人一人異なる個性が現れる表現に繋がっていくと考えます。活動後に、保育室や廊下に提示される場でいろいろな友達の表現を見ることで「あの色素敵だな」「次、私もやってみよう」などという思いに繋がっていきます。絵画表現においては、これが一番いいという答えはありません。絵画表現においては、感じたことを自由に素直に表現できる素材の環境づくりが、自由な楽しい個性ある表現に繋がっていくと思います。保育者の概念を除き、柔軟性を広げて幼児期だからこそ自由に楽しめる発想と表現力について検討していただけたらありがたいです。
- ・ 園での先生方の教育や支援の大変さをすごく感じています。本当にありがとうございます。異世代交流は今後もしてほしいです。高齢者との交流は互いにいい交流になっているので、今後よろしくお願いします。
- ・ 本年度は、運営委員として参加させていただきましたが、大変いい経験をさせていただいたと思っています。私は園のことは何にも知りませんでしたが、私のような者が何らかの形で園に関わることが大事なのかなと思いました。
- ・ 園長先生や先生方の思いやりの気持ち子どもさんたちに伝わっているのではないかと思います。子どもさんたちも先生に甘えたりして寄り添っているのでは。1年、1年の成長を見ればよくわかります。今後も先生たちの仕事も大変でしょうがよろしくお願いいたします。
- ・ 日々園児のことを第一に考え、様々なことに対し鋭意努力されていることに敬意を表します。今後益々「かなん認定こども園」が、繁栄しますことを願っていますのでよろしくお願いします。
- ・ 少子化により米原市も少人数のクラスが多々あると思います。少人数だからこそできることを行って頂きたいです。子どもたちの笑顔が絶えない園に。よろしくお願いします。
- ・ 地域との交流や子どもたちの体験をさせたい時に、見守りの人員が必要な時は声掛けしてください。民生委員児童委員のみなさんに声掛けさせていただくこともできます。
- ・ 職員も保護者も5歳児10名の園児でどのような保育・教育活動を展開していったらよいか心配もあったと思いますが、一年過ぎれば先生方の熱意・チャレンジ精神で保護者からの信頼も十分得られました。このような境遇でも、1人ひとりを大事にし粘り強く指導支援し、子どもたちが大きく成長してくれたことを誇りにして次に活かしてほしいと思います。
- ・ 子どもたちにかかわる全ての皆様のおかげで、子どもたちは自信をもって進学し、これからも成長していつてくれると思います。
- ・ 山東幼稚園は22年の歴史に幕を閉じますが、豊かな自然に恵まれた園舎で、多くの子どもたち

が心豊かに育っていったことを忘れてはならないと考えます。

- ・園長を中心に職員が一丸となって取り組み、こんなに幸せな園生活を送れたさくら組の10人の子どもたちにとって、大切な思い出であり一生の宝物になったと思います。幼稚園で培った力を糧に、心と身体を育てほしいと願うばかりです。
- ・今年度で閉園となりますが、これまでに巣立っていった子どもたちにとって、山東幼稚園は『誇り』です。それは、子ども一人ひとりを大切に思いしっかりと向き合い、子どもたちのために真剣に話し合い、必死に応援してくれる先生やできたねと一緒に喜び全力で自分と向き合ってくれる先生、そして、このような居場所はなかなかありません。この山東幼稚園の魅力を他園でも引き継いでいただけたら、幸いです。
- ・山東幼稚園の卒園児家族が参加したサマーフェスティバル、また、卒園した中学生がボランティアで協力した運動会など、在園児が10人だとは思えない盛況ぶりでした。温かな雰囲気が醸し出され、多くの方々に愛され、心に残る園になっていたと感じました。
- ・山東幼稚園のこの上ない環境や素晴らしい先生方に恵まれた子どもたち。園生活でバランスよく「知・徳・体」を身に付け、こんなにできることが沢山あるのだと感心することばかりでした。根気強く丁寧に何度も繰り返しながらも、手を出しすぎない保育をされてきた成果なのだと思います。
- ・運動会やサマーフェスティバルでは、卒園児である大東中中学生ボランティアやこれまでお世話になった先生方など、とても多くの人々が関わって下さいました。みなさんが心から楽しみながらお手伝いされていて、このひと時を共有させてもらえたことにも感謝しています。
- ・施設は老朽化しているとはいえ、子どもたちにとっては、木のぬくもりに包まれたとても豊かな空間です。市内には、屋内でのびやかに活動できる場が、ほとんどありません。未就園児がのびのび遊んだり、保護者がゆったりくつろいだりできるように、使用する部分(棟)だけを補修するなどして、今後も、ぜひとも、子育て支援の場として活用されることを願います。
- ・山東町時代から今に至るまでの地域の方の期待、職員の思いが詰まった幼稚園であるため、廃園になっても子どもたちが集える、親子でゆったりと遊べる場所として残してほしいと思います。
- ・市内では公立のこども園が多くを占めていますが、個人的には、私立長岡学園が認定こども園となったことも山東幼稚園の閉園に大きく影響しているのではないかと考えています。市では、閉園の理由として「少子化と共働き世帯の増加による園児数の減少」や「施設の老朽化による外壁の腐食や雨漏れなど、修繕費用が膨大になる見込み」とされていますが、雨漏りは開園当初からあったと記憶しています。わずか22年で老朽化となってしまったのは残念で仕方ありません。また、天狗の丘についても、開園2年目にガーデニングサークルを立ち上げて9年間活動しました。天狗の丘はグッドデザイン賞を受賞していたのですが、開園後は花壇がほったらかしの状態だったのでサークルで花の植え替えや手入れなどをしてきたものの、サークルだけでは限界があり園の協力を得て、保護者も巻き込んで一緒に作業する『フラワertime』を設けてきました。親子や子どもたちが集う場でもあるので、以前のようにお花が咲いている天狗の丘となるよう、今後も管理をお願いしたいと思います。
- ・山東幼稚園の有効活用に向けた構想づくりはどのように進んでいるのでしょうか。開園以来、

ハンドベルとオカリナサークルにも所属しており、これまでずっと子どもたちに音楽を届けてきました。残念ながら幼稚園はなくなりますが、今後は市内こども園などへの演奏など、地域に繋がっていきけるかもしれないと考えています。そのためにも、練習場所など活動拠点として園舎を活用させていただきたいのです。当面の間は私が窓口となり、繋ぎ役を務めたいと思います。建設的な話し合いの場を設けていただけますよう、また改めてよろしくお願いいたします。

- ・園児たちも卒園児たちも山東幼稚園は楽しかったと思っているに違いありません。だからこそ閉園になっても帰って来れる居場所づくりが必要だと感じました。一部老朽化していますが、まだまだ活用方法はあると思います。施設の活用について未だに具体的な話が聞こえてきておりません。市としての具体的な話の場は開催されるのでしょうか。議員や市職員幹部だけで決めてしまっては駄目です。当然市民のご意見も聞くべきであるし、幼稚園にかかわって頂いた方々からのご意見・ご要望も提出しても良いのではないのでしょうか。決まってからでは遅いです。彦根に近い都市公園では駄目です。屋内での居場所が必要です。
- ・お互いを認め合ったりするのに難しい年齢ではありますが、小学校中学校のいじめの芽となる部分があるのでご苦労は多々あると思いますが、どうぞよろしくお願いします。
- ・教育フォーラムが一昨年度から、こども園・小・中の交流の場となりました。他の市町村にはないすばらしい取り組みです。ボランティアの方も30名とたくさんの方が出てくださいます。角田さんのリーダーシップあってこそですが次へと引き継いでいけるように取り組みのあり方をまとめて行く必要があると思います。(焼き芋を作って下さる方は70代後半の方が多い) 全員の「虹」の合唱は、他のこども園の園児さん、小学校1～5年生にも聞かせてあげたいです。今年から保護者の参観もできてよかったです。
- ・校園の教育フォーラムは、中学生も大変喜んでおり、小・中・園の子どもたちの交流の場として取り組んでいきます。
- ・出席、連絡を記入する覧(サイト)に記入すると担任の先生だけでなく他の先生も目を通してくれていたのか知ってくれていて声をかけてくれたので安心した。園全体で、子どもを見ているのが伝わり親として安心しました。そういった所から信頼関係は生まれます。これからも小さな気づき一つから大切にしていって欲しいです。
- ・今年度はほとんど関わる事が出来ませんでした。来年度以降は、もし議員を続けることが出来たら3ヶ月位に1回程度意見交換をさせて頂き、できることやご相談などお役にたてればと思っております。今後も宜しくお願いします。
- ・今年度は、孫の送迎も少なくなり、こども園に行く事が少なくなってしまいました。園の様子などしっかりと見れなくて申し訳ないと思っています。地域から見ると、職員も、取り組みも素晴らしいと思います。ただ、私たちに何が出来るのかとなるとわからない事ばかりです。それが心残りです。
- ・近隣住民としては多数の成長盛んな園児等を育成され、よくできていると評価します。今後のさらなる育成の提案として、年に数回程度園外協力者によるお話、英語教室、干し柿作り、かきもち作りなどをご検討されてはどうでしょうか。各行事で大変とは思いますが、参考にしてください。

- ・こども園では保護者に毎日会うことができ、連絡も伝えやすいと思うが、就学してしまうと綿密に家庭が連絡を取ることがなくなってしまう。困り感を抱えた子ども、家庭が取り残されることのないような対策を取ってほしい。
- ・新興住宅も増え、米原市をよく知らない保護者も増えていると思うので、郷土愛をはぐくむ取り組みがあってもいいかなと思う
- ・こども園や小学校ではあいさつに力を入れていると伺ったが、地域に会覧される新聞、園だより「挨拶をがんばっているので、地域の方も答えてあげてね」と一言あれば、地域でのやり取りが不深まるかなと思う。
- ・1歳半から登園させていただきました。本当にお世話になりました。先生によって迎える保護者への共有があるクラスと全く毎日何もないクラスがあったので、統一したほうがいいのではないかと思います。
- ・今回の運営委員会では、職員の自己評価をもとにのみ話されたので、実際この1年間どのようなねらいや目的をもってどんな力をつけてこられたのか分かりずらく、評価がむづかしかったです。園評価するものの視点に立って、それぞれの評価項目に対するどんな保育が展開されたのか示してくださるとよかったです。
- ・調和とは具体的にどういう姿をイメージされているのか。その具体的な子どもの姿を幼小中で共有するために何をしていくのかを校園に示すことが大事だと思います。
- ・おうみ認定こども園は大規模園で多くの乳幼児がいて大変だと思いますが、お体に気を付けて頑張ってください。
- ・廊下に物が置いているのが気になりました。

令和6年度
小・中学校学校評議員・学校運営協議会委員による学校評価
【小学校・中学校集計結果】

米原市教育委員会

回答者人数 小中学校計 106 人

小学校名	回答者数（人）	中学校名	回答者数（人）
柏原小学校	6	柏原中学校	6
山東小学校	7	大東中学校	7
大原小学校	7	伊吹山中学校	7
伊吹小学校	7	米原中学校	6
春照小学校	5	河南中学校	10
米原小学校	7	双葉中学校	7
河南小学校	10		
坂田小学校	7		
息長小学校	7		
小学校合計	63	中学校合計	43

1 学校経営全体に関わること

【評価 小学校 3.70(+0.03)、中学校 3.60(-0.03) (評価は4段階)】

(1) 視点① 学校の目指す学校像・子ども像は、地域や子どもたちの実態に合っている。

ア 小学校

- ・学校教育目標「自己肯定感」「自己有用感」の育成を実現するために、授業の内容や年間行事、校内掲示物など様々なところで児童それぞれの個性を発揮する場が工夫されていると感じた。
- ・校長の経営構想のもと、具体的な教育目標をたて地域と共にある学校づくりが子どもたちの自己肯定感の育成に貢献している。また、保護者の評価も高いことも取組の結果といえる。
- ・教職員の皆様の日頃の多忙な業務を考えると難しいかもしれないが、日々の困りごとや、工夫されていること、達成できたことなどをC・Sでも共有していただくことが増えると、協働につながる意見交換もできて良いのではないかなと思う。
- ・学校内の運営についてはわからないので、評価できない。むずかしい。
- ・校長先生や教頭先生をはじめ、教職員の皆さんが一生懸命に熱意をもって、毎日子どもたちに指導をいただいていることに感謝申し上げたい。説明をいただいた様々な取組は、直ぐに結果や成果となるものは少なく、子どもたちが成長する中で徐々に成果として発揮されてくるものだと思う。今後の子どもたちの成長を楽しみに見守りたいと思う。

イ 中学校

- ・学校経営に関する方針、学校像等、創意工夫しながら周知努力しており、大いに評価できる。
- ・目指す生徒像が見やすい場所に掲げられていて、常に子供たちが意識できて、大変良い。
- ・校長先生・教頭先生方としか接点がないため、詳細はわからないが、教育フォーラムの生徒達の

クラス発表とかを観ていると、学校の教育目標・方針に沿った活動や取り組みがなされていると考える。

- ・学校運営協議会に今年度から参加しているが、校長先生をはじめ学校関係者の皆さんが熱意を持って学校運営に取り組んでいただいていることに喜びを感じている。

(2) 視点② 学校の教育目標、重点目標、学校の様子等を、学校だより等により保護者や地域に分かりやすく説明するなど、積極的に情報発信に努め、地域に開かれた信頼される学校づくりに取り組んでいる。

ア 小学校

- ・学校便りや ホームページ等の情報発信には力を入れておられると思うが、それらを丁寧に読んで理解している読者は多くはないように思う。そうした「大多数向け」の情報は、読者が「自分ごと」として捉えるのが難しい面があると思う。
- ・情報発信と並行して、学校としての考えや、先生お一人お一人の率直な思いを伝えること、それを保護者や地域が受け止め、それぞれの思いを学校に伝えること、つまり双方向の直接のコミュニケーションを豊かにすることが、よりより学校経営のために不可欠だと思う。これは、市内の小中学校の PTA 廃止の動きが進んでいる今、特に必要なことだと思う。
- ・今年度は創立 150 周年記念事業の仕上げの年にあたり、地域あげての大イベントとなった。チラシ広告、テレビ広告、のぼり旗、横断幕などにより、今まで関心のなかった方々にも心待ちにしていただけました。当日、あいにくの雨にもかかわらず、体育館があふれるばかりの参加者で、感動の大成功を収めた。誰もが地域プライドを感じたことと思う。
- ・tetoru で情報発信ができています。保護者との直接対話を実施されるとさらに中身のあるものになると思う。
- ・学校だよりやホームページの学校ブログにより、ほぼ毎日、学校の様子等を伝えられていることは大変素晴らしいことだと思う。クラス単位でも（日頃の子どもたちの様子が）写真や先生からのメッセージ入りの学級だよりが発行され、安心感や信頼感につながっていると思う。
- ・学校だより等において、保護者は我が子に関する部分が主に目につくもので、保護者全員が隅々まで読むとは限らないと思う。保護者に一人でも多く学校を知ってもらうために、掲載はわかりやすく、惹きつける書き方や工夫も必要と思う。
- ・学校ブログを積極的に活用され、更新頻度も高く情報発信に努められている。しかしながら、ブログの存在が保護者に知られていないので、もっと周知を図ったほうがよい。

イ 中学校

- ・学校ホームページを毎日更新され、学校だよりをメール配信されており、保護者の評価が高いことが素晴らしい。
- ・学校目標の「人を愛し、ふるさとを愛し、自分自身を愛せる私になろう」は、とても素晴らしい目標だと思う。これからも学校、保護者、地域の方々と取り組んでいきたい。
- ・Tetoru をうまく活用していただき、学校便りや学年通信も紙電子データ併用でその後、tetoru に移行してはどうか。
- ・教育目標、重点目標は年度初めに学校から説明を受けていますし、学校の様子は学校便り等でこまめに知らせて頂いている。また、安心メールの登録で急な学校からのお知らせや不審者情

報等が早く届くため、保護者の方も安心と思う。

- ・協議会にて詳しい説明がなされ、また、月一回の地域回覧で学校だよりが出されているので、写真などもあり、地域の人にも様子がわかりやすく発信されている。
- ・教職員の自己評価が高いのは当然だとは思いますが、生徒、さらには保護者についてもかなり高い評価である点は学校教職員の努力である。今後も、さまざまな機会に発信して欲しいと思う。

(3) 視点③ 校長のリーダーシップの下、教職員が課題を共有し、学校の教育目標達成に向け、一丸となって取り組んでいる。

ア 小学校

- ・共有されているかどうかは側から見ていただけではわからないが、子どもたちのためにと一丸となって頑張ってくださっていることは重々伝わってくる。
- ・校長の明確な経営理念と校務運営の要としての教頭との連携よく学校をまとめ、多彩な教育活動が着実に進められている。子どもたちの願いもしっかり組み入れられている。
- ・学校教育目標の達成に向け、全職員が一丸となって教育活動を展開され、特に子どもたちが主体的に特別活動に取り組むように仕組むことで、子どもたちの学びの姿に成果を感じる。
- ・児童数の減少等により小規模化は仕方ないが、校長先生をはじめ教職員の皆さんの気配り、目配り、ぬくもりが児童・地域に伝わる。小規模ならではの良さを特色に変えてほしいと思う。
- ・「校長のリーダーシップの下、教職員が一丸となる」という表現には、正直なところ違和感がある。「一丸となる」よりも、先生方お一人お一人が、学校の課題や教育目標について、目の前の子どもたちの状況に照らして考え、多様な意見を交換し合える関係であってほしい。
- ・学校経営方針、目指す学校、子ども像は、学校運営協議会委員と共有できていると思います。学校の教育目標等も学校だよりで発信され、先生方も校長のリーダーシップのもと学校教育目標達成に向けて取り組んでいると感じます。
- ・民生委員、児童委員の懇談会に向けても校長先生のリーダーシップで運営がスムーズにでき、他の先生方も同じ方向を目指しておられた。
- ・校長先生が、「自分の指示を教職員が面倒くさいと思うようなことでも受け入れてくれている。」という話をされたことが印象に残っている。特に、教職員の人数が多い場合、様々な意見があると思うが、校長先生が言葉を選び、吟味し、わかりやすく提示し、かつ、子どもの成長を示すなど、教職員の意欲を喚起しているからだと思う。ひとつの目標に向かうための努力がそこにあったと感じた。
- ・教職員の間で、緊密なコミュニケーションがとられているかが課題としてあるように感じる。

イ 中学校

- ・学校長が様々な方法で改革を進めていただいていることがよく分かった。データ・エビデンスに基づく取り組みでも評価できる。学校経営＝マネジメントで結果を出すためには、先生や生徒の意識が変化する必要があるので、時間はかかるかもしれないが継続していただきたい。
- ・校長先生のフットワークの軽さや地域の方々とともに熱心に教育に取り組まれる姿がすばらしいと思う。
- ・少ない教職員のなか、団結により校長・教頭のリーダーシップで教育目標に向かって尽力していると感じる。
- ・私たちと教職員の交流はほとんどないので、課題などはわからない。

2 自立した人間として生きていくための総合的な力「人間力」を育む教育の充実

【評価 小学校 3.59(+0.03)、中学校 3.41(-0.10) (評価は4段階)】

(1) 視点① 学校は、挨拶運動の推進や道徳教育の推進、命・人権を大切にする心の教育の推進および「いじめのない学校づくり」に向けていじめの未然防止・早期発見・早期解決に積極的に取り組んでいる。

ア 小学校

- ・挨拶運動は廃止してほしい。あいさつは「しなければならないもの」ではなく、「したくなるもの」であってほしい。仮にあいさつ運動をする場合は、子どものためというよりは、大人のためのものと、意識を変えてはどうかと思う。「あいさつしなさい」という眼差しで子どもを見るのではなく、「今日はあいさつの声が出ていなかったな。元気がなさそうだな」等、普段と違う子どもの様子に大人が気付くための活動として、また「子どもがあいさつしたくなるような大人でいよう」と、大人が自らを振り返る機会として実施するのがいいと思う。
- ・いじめをなくすための取り組みにおいては、当事者の子どもたちの意に反した「介入」とならないよう、大人にどのように手助けしてほしいのか、その都度子どもに確認することが大切だと思う。先生方がチームとなって迅速に行動してくださることはありがたい反面、当事者の子どもの思いや、自分たちで解決する力の育成が後回しにならないか、懸念もある。
- ・本年度から子どもたちの自己評価に「いじめはどんなことがあってもいけないと思う。」の項目を入れられて、「いじめのない学校づくり」に向けて一つの取り組みができていたと思う。
- ・子どもたちはアンケートに、先生、友だちに気楽に相談できると答えている。親も子も、いじめや友だち関係、その他のことに悩んだとき、安心して打ち明けられ相談にのってもらえる環境はありがたい。先生方の優しさに包まれているのだと実感している。
- ・教職員の評価を見ると、挑戦・挨拶・そうじの評価%がとても低く感じた。子ども達は、そうじや挨拶をしているつもりになっているのだと思う。そこで、社会性、規範意識、自己有用感を育てるために、たてわり活動を増やしてはどうか。
- ・学校は、いじめゼロを目標に掲げ、小さい出来事にも目を向け、いじめの可能性があればしっかりと追究しようとする姿勢が感じられた。子どもの中にあるレッテルみたいなものは、把握が難しく、知らず知らず「いじめ」の発生へとつながり、大変難しいが子どもたちの小さなつぶやきにも声をかけ、耳を傾けていただけるとありがたい。
- ・今年度は特に「いじめのない学校づくり」に向けて、多角的に方針を練り取り組んでくださったと感じている。他者の気持ちを考えることの必要性や、具体的なことを子どもたち同士で話し合っていることは、とても良いことだと感じた。「いじめ」を考えるときに、「多様性であることを知り、認め合う、尊重する」ということも大切だと思う。考えや行動が違ったとしても、少数の意見であっても、否定されない環境づくりにもつながるといいなと思う。
- ・あいさつ運動、道徳教育の推進については、着実に効果を出している。元気なあいさつによる明るい学校づくりが進んでいる。
- ・自己肯定感が高い子どもは、学校でも地域でも生き生きとしていると思う。子どもが自分に自信が持てるよう活動の場づくりをお願いしたい。

イ 中学校

- ・いじめ対策については、特に幅広に把握されており、大いに評価できる。生徒会を中心にいじめバスターズ宣言を行い、生徒たち自身がいじめを許さない風土を築いてきた。生徒たちの仲間意識や思いやりの心が育っていると思う。一人でも多くの子が自信をもって登校できますよう生徒会、学級、学年全体で取り組んでいただきたいと思います。
- ・あいさつ運動や道徳教育の推進に取り組んでおられる。学校では元気な声で挨拶が返ってくるが、朝の登校時の挨拶は少し元気がないようだ。
- ・生きる力や人間関係力等は「人間力」と言うのかわかりませんが、労力を育むのと同じくらいに大切だと感じている。人は人の間で育つ・成長する様な事を聞いたことがあるので、いろいろな体験や機会を大切にして指導していただけるとよいかなと思う。
- ・学校へ行き子どもたちに会うと、あいさつができており、また、近所の子どもたちも優しく笑うなどして、和やかに成長していると感じた。
- ・教育相談を積極的にされており、いじめや悩みごとの早期発見・解決への対応に努めておられると思う。

(2) 視点② 学校は、児童生徒が社会性や規範意識を身に付け、望ましい勤労観や職業観を育てる系統的なキャリア教育に努めるなど、自己指導力を培う教育に積極的に取り組んでいる。

ア 小学校

- ・児童の社会性、規範意識の向上、自己指導力を培うことについて、学校はしっかりと取り組んでいます。
- ・自己実現の前提である「自己理解」が小学校段階ではうつろいやすい。模範に対する批判力を養うほうが良い。
- ・手段については差し控えるが、この項目においては民間の意見も取り入れてもらわないと偏ることになりかねない。全員が公務員になるとは考えられず、広い知見を必要とされるほうが良い。

イ 中学校

- ・中学生は自立した人間として大きく成長すべき時期であるため、特に力をいれてほしい。自らが判断し、決定・選択した結果について、良い結果も悪い結果も受け入れて前向きに次のステップにつなげられるような体験をつませてやってほしい。
- ・言葉遣いのよくない先生がおられるような気がする。
- ・生徒や保護者の評価を通して、社会性や規範意識など人として大切にしたい力は着実に育っていると思う。教職員は、これらの力を育成するために、さまざまな場面や機会をつくり指導されてきたからこそだと思うが、教職員の自己評価が非常に高い。これを組織として全職員の意識と実践の高さと捉えるのか、教職員個々の指導力の高さと捉えるのか。組織としてであれば素晴らしいことである。

(3) 視点③ 学校は、児童生徒が運動やスポーツに親しみ、体力の向上を目指す教育の推進に取り組んでいる。

ア 小学校

- ・色々と遊びの要素を取り入れてくださっている印象です。
- ・多くのスポーツクラブがあるので、学校の弱みかもしれません。他校も含めると、部活動で進路を決める児童がいる。中学校における部活動の在り方を教育委員会で検討していただきたい。
- ・体力があっても自然体験がなく野山を歩いたこともなく、災害時に生きる力が出るか心配される。自然の中での体験を増やし、たくましく生きる力の増進を図る仕組みを地域・家庭とともに進めていきたい。

イ 中学校

- ・部活動の縮小…非常にさみしい。私自身、中学校時代の一番の思い出は部活動（野球部）で、顧問の先生とは今もおつきあいが続いている。子どもたちにとって将来良い思い出となるような中学校時代の活動を何か残してあげてほしいと願う。

(4) 視点④ 学校は、児童生徒の自己肯定感や自己有用感を育むための教育に取り組んでおり、児童生徒が将来にわたる夢や自分自身を社会に生かそうとする志をもつことにつながっている。

ア 小学校

- ・今後も子どもたちの自己肯定感、自己有用感を高めることを意識して、充実した教育活動の位置づけや場の設定をお願いしたい。
- ・創立 150 周年記念事業を通して、児童は地域の人たちに支えられ、またみんなで力を合わせて未来を築いていくことの大切さを学んだと思う。一人の力ではなく、みんなで協力して困難なことに取り組んでそれを乗り越えていく自己肯定感、自己有用感は育ったことと思う。
- ・米原市が推進している「自己肯定感」「自己有用感」は、教職員自身が曖昧のように感じた。そのため、日常生活においては、子どもたちに具体的にどのように指導していけばいいのか、迷っている先生方がいたように感じた。研究や特定の学習等では、よく吟味されて取り組まれていた。
- ・少人数校のよさを生かして、いろいろ取り組んでいる。全校の先生方で全校の子どもを育てようとしてくださると感じられる。学校アンケートの児童振り返りでも「あきらめない」「友だち関係」「交流活動」の評価点が高く、成果が現れている。「いのち」「ふれあい」「きづき」の視点を大切にした教育活動をこれからも期待する。
- ・自己肯定感、自己有用感は児童本人の中から生まれるのではなく、その児童の身を置く環境によって生まれるものだと思う。学校・市の教育目標として掲げ、学校や家庭が児童に関わることによって児童一人ひとりの心に植えつけられると思う。学校が率先して取り組んでいることは児童の将来につながっていくものだと思う。
- ・入学式や卒業式での大きな声での校歌斉唱、いつも感心して聞かせてもらっている。母校に誇りを持ち、仲間の中で堂々と自己表現できる子をこれからも育てていってほしい。

イ 中学校

- ・子供一人ひとりが無理なく年間を通してできるボランティア活動を考えさせて、実行できるように学校側も協力していくということは、どうでしょうか。ボランティアの継続性につなげれば、子供たちの自己有用感が高まるのではないのでしょうか。

- ・失敗を受け入れる集団作りを目指しているのがよい。生徒が幅広い情報から興味あることを見つけ、追及していける環境を作ることが、将来の夢や目標をもつことにつながると思う。学校長の「好きを伸ばせ」というメッセージがすばらしい。
- ・自己肯定・有用感はボランティア活動の中で、人から感謝されたりすることで育まれると考える。山中のジュニア民生や息吹の奏のボランティアは、それに対応するものとなっている。
- ・収穫感謝祭の取組を通して、職員も生徒も自覚でき、自己肯定感・自己有用感の育成につながっていると感じる。
- ・それぞれの個性が生かされている取り組みが多く取り入れられていると思います。なので、自己肯定感・自己有用感を感じやすい環境にあり、また、お互いにその個性を認め合っている様子も感じられます。

3 個性を生かしつつ一人一人に確かな学力を育む教育の充実

【評価 小学校 3.47(-0.03)、中学校 3.40(-0.02)

- (1) 視点① 学校は、市や全国の学力学習状況調査の結果を分析し、児童生徒の実態に応じた学力向上策を立て、学習指導要領の実施に向けて、児童生徒の思考力・判断力・表現力を育むため、「話す」「聞く」「読む」「書く」活動を大切にした取組を行うなど授業改善に学校全体で取り組んでいる。

ア 小学校

- ・昔とあまり変わっていない印象です。何が変わっていないと感じたのか考えてみると、そもそもいわれたことをそつなくこなすのが目的となっているようなところがあり、児童自身が発見することだと信じて、考える機会を増やしてほしいと思う。
- ・まじめに学ぶ児童の姿がいつも参観の折にも見受けられるが、学びあい（話し合い、質疑など）の場面で、やや活気不足の感がある。
- ・学力学習状況調査から、子どもたちの実態、傾向と対策を考察してから年間計画を立てておられることは非常に効果的だと思う。弱点克服に向けた取り組みを校内研究に取り入れ、レベルアップが図られている。
- ・スマホ等のデジタルデバイスを使いこなす一方で、子供が「本を読む」ことから遠ざかっているように感じる。家庭生活も含めて、家庭生活も含めて、本を読むことへのきっかけを作っていたけるとよいと思う。
- ・学力状況調査の結果から、目の前の子どもたちにまずどのような力をつけていかなければならないかを職員間で話し合い、日々の実践に生かしていると感じた。
- ・学習の様子を見せていただくと、どの子も生き生きとしている。また、廊下ですれ違った際、元気に明るくあいさつをしてくれる。普段のご指導の成果だと思う。
- ・本を読むことは「思考力、判断力、表現力」を養うのに大切と考える。学校では読み聞かせを含め、本を読むふれることへ積極的に取り組んでいると感じた。
- ・目立たずに、少しつまづいている子どもへの学習支援が気になる。学童で見ていると、人の答えを写したり、漢字の書き方がめちゃくちゃだったり、とりあえず宿題を仕上げている子どもを見かける。

- ・1クラスあたりの人数が多い中で、日々授業を工夫されている様子が伝わってくる。学習指導要領の実施は大切なことだと思うが、まずは子ども一人ひとりの発達特性に目を向けて、学び方につなげていただければと思う。「話す・聞く・読む・書く」はそれぞれに得意・不得意が違うので、苦手克服よりも先ず得意なことで力を発揮できる授業デザインが進められるといいと思う。
- ・話す、聞く、読む、書く活動が着実に進み、思考力・判断力・表現力が育っています。

イ 中学校

- ・本校のデータによると、学校の楽しさと授業のわかりやすさ、そして学力定着は相関関係があるようだ。タブレットの有効活用は、個々の学びを深めることはできると思うが、生徒間の生の話し合いや教師からの適切な働きかけが活発な楽しい授業につながり、生徒たちが次のステップに上がるきっかけや欠けている学びの箇所を押さえるのではないかと考える。生徒たちにタブレット使用による静かな半個別学習では味わえない集団学習の醍醐味をたくさん味わって授業を楽しんでほしい。
- ・受験のための暗記重視の教育から「話す」「聞く」「読む」「書く」の基本的な教育が重要である。人はそれぞれ個性があり得意・不得意があるが個性を伸ばす学校教育を少人数学校の強みとして充実されたい。
- ・ワクワクドキドキした体験をもとに、個性豊かな教育ができていると思う。子どもたちに色々考えさせる教育はいいと思う。

(2) 視点② 学校は、英語教育に力を入れ、児童・生徒のコミュニケーション能力の育成や国際理解教育の推進に積極的に取り組んでいる。

ア 小学校

- ・2月の学習参観で、1年生の児童がタブレットを使い英語を発表したり、他の学年もタブレットを学習に生かして発表するなど意欲的に取り組まれていると感じた。
- ・子どもたちの英語の学習意欲が強いのは、ALTの先生と英語教師が毎回の授業を楽しく盛り上げるように工夫されているからだと感じた。
- ・英語教育は、特区としてより高い教育が進められていると感じている。しかし、全職員がレベルアップしているかというのを首をかしげることもある。
- ・英語教育について「なぜ英語が必要なのか」ということを子ども達に分かりやすく伝えていただけるとありがたい。都市部の観光地に比べると明らかに外国人と接することの少ない地域なので、コミュニケーションを英語でとれることの楽しさやその可能性を感じながら学んでほしい。
- ・今、世界で起きていること、ニュース等について、自分なりに考えてみるというのも国際理解につながると思う。世界と日本と自分たちがどのようにつながっているのかを考える機会があると、どのような小さなテーマでも新しい発見になると思う。

イ 中学校

- ・小学校1年生から英語に親しんでいるのはよいのですが、中学校になって英語の力が伸びているのかという疑問です。英文を読み取る力、書く力の育成に具体的な方策を考えて取り組んでいただきたい。

- ・米原市の英語のスピーチコンテストは「英語のできる子が頑張っているのが評価される」という印象があり、帰国子女のように英語が母国語の子にとっては参加しようという気になかなかならないようです。

(3) 視点③ 学校は、特別支援教育推進のため、管理職およびコーディネーターを中心に、組織的に取組、生活や学習上の困難を克服するための適切な個別の教育的支援を行い、個々の能力を最大限に伸ばす指導を行っている。

ア 小学校

- ・こういった取り組みも大切だと思うが、一個人として認め合インクルーシブな環境づくりと設計がより重要だと思う。支援がマジョリティに適応していくためのものではなく、個性を尊重し伸ばし育てるものであってほしい。
- ・9月に非常に残念な出来事があった。深い部分は分かりかねるが、特性のある児童たちへの関わり方について、必要以上に委縮することなく、今一度先生方で意識共有を図っていただければと思う。
- ・管理職、コーディネーター、教員、児童、保護者間の円滑なコミュニケーション、信頼関係を大切にしてほしい。
- ・特別支援教育では、1対1の少人数体制ならではの良い点と気をつけるべき点があり、今年度は不幸な事件が発生した。現在、反省を踏まえた新たな取組や保護者、地域の信頼回復に努められており、この取組を検証しながら学校教育目標達成を目指してほしい。
- ・支援級の子ども達一人ひとりとしっかり向き合い、一人ひとりの発達や状況にあわせて指導されていると思う。通常学級の中で、授業に参加できない、指示や学習内容が理解できない、学ぶにくい子がいても、時間と人手がたりず、対応が難しいことが残念だ。
- ・特別支援学級は一人一人に適切なサポートやフォローが必要なため、長所やつまずき、どういう面で困難があるのか、どう対処すれば良いか、どのようにすれば誰が取り除けるかを、焦らず、児童の成長を見守りながら進めていく必要がある。そのためには、個々の児童のスキルや強みの把握と、本人の求めに対するアプローチが大切と考える。児童の困難さや行動に注目し、場面場面でどんな気持ちなのか、児童のサインをキャッチし、心の声に耳を傾け、できるだけ本人の意思を尊重しながら、時間はかかっても自己肯定感・自己有用感を高めていくことも必要と思う。
- ・支援が必要な子どもが増えてきているように感じる。対応が難しい子どもも多いことと思うが、対応については職員の共通理解が大切だと思う。

イ 中学校

- ・近年特別支援教育は、生徒の特性を考え対応していただける教員の配置、学習ができる環境づくりは重要必須のものと考えられる。早急な対応をお願いしたい。
- ・特別支援教育の授業参観をさせもらう機会があり、とても分かりやすく子どもたちも積極的に参加しているのを見て強く印象が残った。
- ・特別支援教育の推進の拠点として施設の整備や対応について、学校として迅速かつ適切に対応されていると思う。生徒との教育相談から支援につながることもあるかと思う。連携がとれており、個に応じた指導や支援がなされていると感じる。

4 地域に根ざし地域に開かれた信頼される学校の創造

【評価 小学校 3.70(-0.08)、中学校 3.57(-0.02) (評価は4段階)】

(1)視点① 学校は、地域の人材を生かした学校運営と学習活動の工夫に積極的に取組、郷土の自然や文化・伝統を生かした教育活動の推進など特色ある学校づくりを推進している。

ア 小学校

- ・5年生の米作りやふるさとウォークは学生の頃にはなかった素晴らしい取り組みだと思う。
- ・学運協では、個別の行事の内容を相談するだけでなく、地域の学校の運営という大きな枠での議論がもっと必要だと思う。子どもたちが置かれた環境をどう捉えるのか、将来必要な力は何なのか、そのために学校や地域の大人ができることが何なのか等を話し合うことが大事だと思う。
- ・子どもたちが自分の暮らす地域を知り、将来、自分の仕事や家庭だけでなく、地域のことも考えられる人になってほしいと思う。今、地域で交流する機会が減ってきているので、学校活動に地域の人が参加・協力することは、今後さらに広がると良いと考える。
- ・地域の文化や自然を知る体験は、あえて学校で取り入れていただかないと経験できない社会になってきていると思う。地域の人材を活用して、積極的にカリキュラムに入れていただきたい。
- ・地域に根ざした学校づくりにおいては、各地区での神社等のお祭りも子どもたちへの教育の一環として役に立つものと思う。
- ・地域人材を生かした学校支援が進み、各種活動による学校づくりが進んでいる。
- ・学校と地域がうまく関わっており、保護者以外の地域の方々が多く関わっておられることに感心している。参加していても楽しい。
- ・学校運営協議会は、大変うまく機能している。学校支援ボランティア活動も活発である。これはとりわけ地域の方々が協力的で献身的であるからに他ならないと活動をとおして強く感じる。

イ 中学校

- ・地域の課題を実際に住民と話して発見するところから体験してほしい。米原市の大東中学校区特有の課題について、中学生の視点で(解決できなくても)対峙することには意義があると思う。
- ・生徒のアンケートで、自分の住んでいる地域が好きだと答えてくれている事にうれしく思う。息吹の奏やふれあい体育祭等の行事で中学生がお手伝いしてくれている姿やジュニア民生委員・児童委員の活動の様子を知ると地域との関わりは大切だと感じている。
- ・収穫祭など地域の方、保護者の方、生徒、教員が交流できる機会があるのはとてもよいと思う

(2)視点② 学校は、安全・安心な学校づくりに向け、職員研修の実施や家庭・地域・PTAとの連携による取組により、児童生徒の安全を確保している。

ア 小学校

- ・登下校での保護者、地域の皆さんのサポートは、人数も含め、私の通勤途上でも特に多いと感じている。
- ・安全面ですが、登下校（特に下校）中、班でまとまって歩かず、リーダーだけが先に歩き、後ろがついてきていない事があるため心配です。
- ・PTAが廃止になって1年が過ぎ、以前と比較し保護者のまとまった意見や声が学校に届きに

くくなった面もあるかと思う。個々の相談は担任の先生や教頭先生に上がっているかと思うが、PTAがなくなり保護者の負担や活動が減った反面、保護者と学校との風通しがどう変わったかなども学校側の意見をうかがえたらと感じている。

- ・PTAを縮小する上で、来年度はもっとボランティアを募ることで現状以上に学校活動を盛り上げていただきたい。

イ 中学校

- ・来年度は地域の方々の協力をお願いし、防災に本格的に取り組まれると伺っている。防災は、大変現実的で喫緊の課題です。関係者の一致団結の下で、是非とも進めていただきたい。地域の中学校という生徒たちの地域プライドが生まれるのではないかな。
- ・下校時の学童の子どもたちと正門東門などで危険な状態であり校長先生の素早い対応で警察署に話をし、署長や交通課長も学校に来て指導してもらった。地域の皆様にも協力してもらい指導してもらうなど、先生生徒地域が一体となって取り組んでいる。

(3)視点③ 学校は、学校支援地域本部事業、学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を活用し、地域コーディネーターを中心に学校を支援する体制づくりに努め、積極的に地域に働き掛け、創意工夫があり実りのある教育フォーラムを開催するなどしている。

ア 小学校

- ・コミュニティスクールの事業について地域に発信することで、地域の皆様の理解や協力を得ることができ、次の活動のエネルギーになっていくように思う。
- ・教育フォーラムは、地域にどの程度働きかけがあったかわからない。学運協の意見や協力も取り入れていけるとよい。
- ・子どもたちが地域を知り誇りに感じるような地域教育を、今後も多くの人々の協力を得ながら進めてほしい。特に、再来年は創立150周年の節目であり、地域の方々も楽しく参加できるような企画になればいいと思う。
- ・米原という土地柄を生かした課外活動や、地域の方とのふれあいは、本当に素晴らしい取り組みだと感じている。教育フォーラムをはじめとして、世代を問わずに交流できることは、シビックプライドにつながるだけでなく、社会に出ていく上で子ども達の大きな財産になると思う。イベントの開催にとどまらず、いつでも皆が交流できる場所づくりなどに発展することを望んでやまない。

イ 中学校

- ・学校長と教頭先生が積極的に地域の方々の力を借りようとしている姿が開かれた学校づくりにつながり素晴らしいと思う。
- ・回を重ねるたびに規模も大きく内容も素晴らしいものになってきていると感じる。声をかけたらボランティアして下さる保護者や卒業生の保護者がたくさんいるのは学校と地域が良い関係を築けているからなのだと思う。
- ・学校運営協議会も地域コーディネーターを中心に支援活動が実りつつあります。教育フォーラムに参加された方の感想も上々だった。 今後は一般の方の参加が得られるようにしたい。
- ・ふるさと学習では、知らなかった地元域への理解に繋がっていると思う。
- ・吹奏楽部や陸上競技部が地域の催しごとに参加して、地域の方と交流したりするなど、積極的に地域参加ができていると思う。

5 その他

- ・変化の大きい社会の中で、子どもたちが必要な学びができるようにするためには、各校一律のやり方だけではなく、個々や地域のニーズに応じた取組みが大切だと思います。
- ・学校を訪れるとき、校地、校舎を見るだけで「熱い意気」が感じられるのが嬉しい限りである。それに子どもの学ぶ力が力強く後押ししてくれており、頼もしいと思う。
- ・児童の読書活動をサポートするため、以前市でされていた図書館の巡回図書があるといいと思います。年間は大変なので、10月の読書週間とかねて10・11月の2か月間だけとか、学期に1回とかしていただけるといいなと思う。
- ・「学び」は、学齢期だけのものではなく、むしろそれぞれの人生の中で必要と感じた時に学ぶ意欲がもてることが大事ではないかと思う。学校以外にも学習する手段は多様にある時代なので、子ども時代に身に付けるべき力・人間力・社会性などが学校生活の中でしっかり得られるよう、情操教育を大切にしてほしいと思う。
- ・伊吹小学校は今後ますます児童数が減少し、数年先には複式学級となることが予測されている。少人数学級のよさも当然あるが、少人数学級に伴う教育上の課題も考えられることから、残念ではあるが今後の学校の在り方について、教育委員会において議論を進めるべきと考える。
- ・一学年一クラスの学校が多いので、学校内でのたてわり活動や、学校と学校のつながりや学習があると、いつも一緒にいる仲間とは違う、視野の広がり、コミュニケーション能力の育成、学習内容の掘り下げなど、利点が沢山あると思うので、教職員の皆様のご負担にならない範囲でされてはいかがか。
- ・不登校児童が増えている中、中学校では、別に学習できる部屋や別に給食が食べられる部屋など様々な取組みがされている。また、SF Pができ、安心な居場所作りともなっている。その子どもたちがその先、進学するということは、米原市はどのような取組をされるのか知りたい。また、色々な子どもたちは、15歳を過ぎた時点で市としては継続して支援をされているのか知りたい。
- ・今後は、防犯の観点から米原警察署より署長さんをはじめ生活安全課長さんに参加いただき、地域学校協働本部の皆様、各校園の管理職及び先生方で学校運営協議会の充実と発展に向けて取り組みたい。
- ・保護者は学校運営協議会(コミュニティスクール)を全く知らないという保護者も多くいるのが現状である。それは保護者自身の接点がほぼないこと、“学校運営協議会”という言葉は聞いたことがあるが、どういう活動か自身から見えないため、どこかでだれかがやっているのかな というくらいの認識でとどまっているという部分にあるかと思う。「米原中学校で秋に焼き芋を焼く収穫祭がそうで、地域の方もご協力いただいて、子どもたちに関わろうという取り組みですよ」と伝え、「あーあれがそうか!」という答えが返ってきます。そのような現状を感じ、学校運営協議会とその取り組みを、学校から積極的に発信する事が大切だとお話させていただいた。年度が変われば新1年生が入り、その保護者さん方もまた知らないと思う。都度発信して浸透していくことが大切かと感じた。
- ・学校運営協議会の場でも 特別支援学級の児童を、まず児童みんなが「理解する」事が大事と発言させていただいた。小学校には通常級と特別支援学級とがある。特にクラスが別れて授業をおこなっている分、通常級の児童が特別支援学級の児童に対し、少し違った目で見える児童もい

るかと思う。「何であなたは特別支援学級なの?」と違いを率直に感じることは、ある意味自然な感覚かと思うが、一方、子どもはある意味正直であり未熟なので、違いに対し発言をする児童もごく一部いるようである。多人数で過ごす場であるからこそ、一部そういう事も起こってくるかと思う。また、保護者は学校生活の中のことを見る機会がほとんどなく、子どもから聞く話で学校を知るので、我が子がどうなのかも、不安にも感じている保護者もいるかと思う。

- ・怒られたことのない子どもが増えているとか、悪いことや危ないことをしたとき等、怒るといっか叱るといっか、指導してあげてほしい。
- ・多様な面で、地域の方々によるボランティア活動がなされ、内容も工夫しながら定着してきている。教育フォーラムについても、学校、運営協議会、地域コーディネーターで話し合い、工夫し、上記のボランティアを紹介したり、児童生徒のそれぞれに工夫された発表があったりと、地域全体（児童生徒、保護者、地域住民）の自己肯定感・自己有用感が高まる取り組みとなっている。
- ・不登校児や別室登校児も授業を受けられるよう、教室とつながったオンライン配信授業などは検討できないか。
- ・生徒数の減少で、部活の数が制限されているが、誰でも自分がやりたい部活に入れるよう、学校の枠をはらってチームを編成したり、学校を切り離して地域の文化・スポーツ人材で運営したりする体制で、他府県地域のやり方を参考に、市としても早急に考えていく必要があるのではないか。
- ・この学校評価も一方通行なので、何らかの形でフィードバックや、他の学校や市全体としての傾向など知れる機会を設けてほしい。
- ・子どもたちに「地域の力」を導入するとき、多くの地域の人々が協力してくれる。その際、協力した時間に応じ、若干の手当としてお金が振り込まれる。お金を支払うこと、振り込みすることは先生方の雑務を増やし、多くの労力を必要とする。また、ボランティア側も多く書類を提出することになる。先生方の雑務を少なくし、子どもたちと向き合う時間を充実させることが大切かと思う。お金を払うこと、このことは事務处理的には完璧ですが、学校側も私たち支援する側にとっても望むものではないことを教育委員会の方々にも共有していただきたいと思う。
- ・保護者、地域、教育委員会と様々な要望が寄せられると思うが、先生方の負担をなくす視点も大切にしてほしい。行事や取組を増やすのではなく、いまある事業の形を変えたり、2つの行事を1つにまとめたりする「引き算」をやっていってください。先生方の働き方にゆとりが増えることを願っています。
- ・学校は、多くの目で子どもたちを見て指導していくことが大切です。米原市は、加配の配置等でしっかりと学校を支援してくださっていて、本当にありがたい。今後も、教育予算の増額をお願いしたい。
- ・教員の皆さんが夜遅くまで仕事をされている。頭が下がるおもしろいである。教員の方々の余裕のある生活のため、またどの子も楽しくわかる授業推進のため、大幅な教員の補充をしていただけるようお願いしたい。
- ・来年度からPTAの組織がなくなるので、保護者の理解と協力を得る手立てを考えていかなければならないと思う。「人間力」を育む上では、保護者の理解と協力が不可欠だと思う。
- ・生徒会など生徒の自主的・自発的な活動を支援する体制を強化してあげてほしい。「変化は起こ

せる」という成功体験が大切だと思う。

- ・山中の取り組みをモデルとしながら、他学校へコピーできることがあります。校長会や、何かの報告、メディア発信など積極的にお願したい。それが親、生徒、先生、地域の誇りにつながると思う。
- ・農園活動は子どもたちにとってとても良い活動であるといつも感じてる。子どもたちの農園活動を支えていただいている先生方、地域のボランティアの方々におきましては多大な労力を惜しまずに活動を支えてくださり、大変感謝申し上げます。
- ・農園活動はまさに「知・徳・体の調和のとれた米原の子どもの育成」にぴったりの活動であり、活きた経験として子どもたちの中に残っていく活動であると思う。収穫祭を含めて今後も継続してほしい。
- ・わが子の中学生だったころとはいろいろな事が大きく変わり子どもたちには幼さが残る一方SNSの普及で親にはわからないことも増えてきているのではと思う。
- ・テトルは用紙の削減になりとてもよいアプリだと思う。保護者宛てに学年通信や学級通信等でも活用してもよいかと思う。
- ・ボランティア活動の話がありましたが、なかなか中学生が自分から手を挙げるのも難しいと思うので、必要であれば部活動ごとの参加でもいいのかなと思う。
- ・不審者の情報が何度かあった。生徒が安全に登下校できるように、学校の教職員だけではカバーできない危険な道の整備や見守りを教育委員会、市、警察など連携して行っていただきたいと思う。
- ・大人に余裕がないと子どももしんどくなるのかなと思うと、少しでも自分の幸せに余裕をもちたいものだが、難しい。
- ・次年度は、滋賀県で国スポ障スポが開催されるので、一流選手と接触する場を米原市でつってあげて欲しい。

【図書館内部評価】

この内部評価は、米原市図書館サービス基本計画に基づき図書館運営を行った実績について、その成果と課題を見出し、サービスの向上に努めるため、図書館協議会で評価をしていただいたものです。

1 市民の求める資料を提供します

指標	現状	実績 (R4)	実績 (R5)	実績 (R6)	目標 (R8)
(1) 市民一人当たり図書館貸出冊数 (当該年度の年間個人貸出冊数÷米原市の人口)	9.7冊/年 (R1) 6.7冊/年 (R2)	7.8冊/年	8.2冊/年	7.5冊/年	12.5冊/年
(2) 蔵書更新率 (更新(受入+除籍)された冊数÷蔵書冊数×100)	3.2% (R1) 4.6% (R2)	3.0%	3.0%	2.7%	5.0%
(3) 蔵書回転率 当該年度の年間個人貸出冊数÷蔵書冊数	1.3回 (R1) 0.9回 (R2)	1.0回	1.03回	0.92回	1.5回
(4) レファレンス満足度 (レファレンスサービスについてどう思いますか 「満足している」「普通」÷(「合計」-「尋ねたことがない」)×100)	98.0% (R1) 98.5% (R2)	98.4%	98.5%	99.2%	100.0%
(5) 地域資料・行政資料の貸出冊数	1,383冊 (R1) 1,084冊 (R2)	1,168冊	1,167冊	1,459冊	1,300冊

内部評価	(A～E 5段階評価)	C	(参考：前年度)	C
------	-------------	---	----------	---

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・選書会議を年間51回開催し、両図書館で魅力ある蔵書の構築に努めました。 ・レファレンス件数・予約ともに昨年度より増加しました。3,713件のレファレンスと24,917件の予約を受け付け、利用者の求める資料や情報を提供することができました。 ・山東図書館でシビックプライドコーナーを設置し、近江図書館でも特集展示を行うことで、郷土のことや日々の暮らしに役立つ情報を提供することで、地域資料等を活用していただくことができました。
----	---

課題	・令和6年度は空調改修・LED化工事に伴う臨時休館の影響もあり、貸出冊数や蔵書更新率が減少しました。全体的に図書館利用が減少傾向にあるため、引き続きイベントや特集、広報を工夫し、未利用の市民の図書館利用を促進していくことが課題です。
----	--

2 誰もが安心して利用できる便利な図書館を目指します

指標	現状	実績 (R4)	実績 (R5)	実績 (R6)	目標 (R8)
(6) 市民の実利用者率 当該年度の実利用者数÷米原市の人口	14.7% (R1) 11.1% (R2)	12.3%	12.3%	12.2%	15.00%
(7) インターネットからの予約件数	13,072冊 (R1) 13,866冊 (R2)	15,946冊	18,645冊	19,680冊	16,000冊
(8) 高齢者施設等への貸出冊数	654冊 (R1) 443冊 (R2)	935冊	3,057冊	5,085冊	3,200冊

内部評価	(A～E 5段階評価)	B	(参考：前年度)	B
------	-------------	---	----------	---

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度から開始したまいばら協働提案事業で関係団体と連携して高齢者施設への読書支援を進め、多くの本を利用していただくとともに、読書を楽しんでいただくことができました。 ・週3回程度の図書館間物流を維持し、伊吹菰草の里文化センター、米原学びあいステーションとも連携し、市内全域サービスに努めました。また、米原小学校区内の自治会に米原学びあいステーションでの本の受取について案内し、利用を促進しました。 ・山東図書館の空調設備改修工事や照明設備改修工事（LED化）、近江図書館の空調設備等更新工事を行う等、読書環境の改善に努めました。
----	---

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の実利用者数（1年間に図書館の貸出を利用した市民の割合）が減少傾向にあるため、未利用の市民、図書館から遠い地域の市民を含めた幅広い利用を促すことが課題です。 ・図書館利用にハンディキャップを持つ人や日本語を母語としない人へのサービスについて、関係機関と連携を密にして計画的に取り組むとともに、継続的に資料収集していく必要があります。
----	--

3 子どもたちの読書活動を見守り、支援します

指標	現状	実績 (R4)	実績 (R5)	実績 (R6)	目標 (R8)
(9) 児童書個人貸出冊数	158,913冊 (R1) 99,975冊 (R2)	126,053冊	131,694冊	113,101冊	160,000冊
(10) 児童書団体貸出冊数	13,100冊 (R1) 12,445冊 (R2)	18,033冊	22,330冊	23,595冊	15,000冊
(11) 未就学児および小中学生向けの冊子・たよりの発行回数	14回 (R1) 16回 (R2)	18回	21回	18回	20回
(12) 15歳以下の市民1人当たり図書館貸出冊数	15.6冊 (R1) 8.7冊 (R2)	12.3冊	13.3冊	12.2冊	18冊
(13) 1か月に1冊以上本を読んだ児童生徒の割合 小学校	96.8% (R1) 96.0% (R3)	95.4%	94.7%	91.8%	100%
中学校	87.6% (R1) 95.2% (R3)	85.6%	90.3%	93.9%	97.0%
(14) 「まいばら読書の日」の啓発や情報発信等を行った回数	6回 (R3)	8回	9回	10回	10回

内部評価	(A～E 5段階評価)	B	(参考：前年度)	B
------	-------------	---	----------	---

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・新小学1年生への図書館利用カードを発行することで、1年生の利用カード所持率が32%から96%に上がり、夏休み以降の図書館利用促進につなげることができました。 ・出前講座として施設見学を8校、職場体験を4校受け入れることができました。 ・ブックスタートを毎月行い、201人の赤ちゃんに抱っこぬくもりの中で、絵本を読んでもらう心地よさや嬉しさを届けることができました。 ・スペシャルおはなし会やおすすめ本展示、図書館BOOKビンゴ、図書館員体験、夏休み読書リレー、しおり作り体験、親子絵本づくり教室など、子どもたちの読書意欲を高める取組を行いました。 ・絵本のセット貸出を行い、54セット・1,620冊を利用していただくことができました。また、学級文庫用セットを毎月借りに来られる学校等も増加し、昨年度より多くの児童書を利用いただけたことで、児童書団体貸出冊数を増加させることができました。 ・中高生向け図書館だより「そらいる研究所」を4回発行し、学校図書館で掲示してもらうことができました。また、図書館で行っているイベントや特集展示案内を学校に送付し、図書館の利用促進に努めました。 ・学校教育課と連携し、図書主任・学校司書の研修会を1回開催しました。 ・まいばら読書の日を取組を紹介した「まい読通信」を4回発行しました。キッズデーの拡大実施（月1回→3回）、まいばら読書の日とその前の土日に毎月プレゼントを行ったりするなど、まいばら読書の日を周知し、家族みんなでの読書習慣の形成に努めました。
----	--

課題	・1か月に1冊以上読んだ児童生徒の割合が減少傾向にあるため、学校図書館と連携して子どもたちの読書意欲を促進する本の案内を行うとともに、自発的な読書活動を推進していく必要があります。
----	--

4 市民と協働し、交流の場となる図書館を目指します

指標	現状	実績 (R4)	実績 (R5)	実績 (R6)	目標 (R8)
(15) ボランティアと活動した回数	66回 (R1) 12回 (R2)	47回	205回	278回	80回
(16) 行事・イベント開催回数	59回 (R1) 14回 (R2)	59回	75回	75回	70回

内部評価	(A～E 5段階評価)	A	(参考：前年度)	B
------	-------------	---	----------	---

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・おはなしボランティアやハンドベルサークルと連携して、おはなし会やコンサートを実施することができました。 ・まいばら協働提案事業として関係団体と協働し、昨年度の10施設から15施設に拡大して、高齢者施設への読書支援を実施しました。施設訪問をのべ342回行っていただき、来館が困難な市民が本と出会う機会を増やすことができました。 ・雑誌スポンサー制度について継続して実施し、市民に多種多様な雑誌を提供することができました。 ・びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業の1つとして、滋賀県立大学との連携により、学生の企画提案によって謎解きイベント「図書館列車の開かずの扉」を開催することができました。また、滋賀文教短期大学と連携し、「POPと本の帯のコンクール作品展」を開催することができました。
----	---

課題	・生涯学習活動の支援や市民同士の交流の場を提供するために、講座やイベントを市民や関係機関等と連携して開催できるよう努める必要があります。
----	--

5 山東図書館・近江図書館の個性を生かしたサービスを提供します

指標	現状	実績 (R4)	実績 (R5)	実績 (R6)	目標 (R8)
(17) 職員対応満足度	99.3% (R1) 98.5% (R2)	98.9%	99.8%	100.0%	100%
(18) テーマ特集展示回数	401回 (R1) 285回 (R2)	402回	357回	346回	370回

内部評価	(A～E 5段階評価)	B	(参考：前年度)	B
------	-------------	---	----------	---

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・職員対応満足度を上げることができました。 ・季節感や話題性のある本などを提案をするテーマ特集に取り組み、山東図書館と近江図書館で合計346テーマの特集を作成することができました。司書がそれぞれテーマや展示方法を工夫するとともに、自館の本をもう一方の館で特集展示する等、より多くの本に出会っていただけるよう工夫しました。 ・2024年度の主な文学賞や文化・学術賞等の受賞作品一覧「BOOK AWARD2024-2025」などの冊子を発行し、配布することができました。 ・若年層への取組として、おすすめの本や図書館の利用案内を掲載したリーフレット『お祝い』を発行し、二十歳のついでに配布することができました。 ・貸館が無い日にかたりべホールを学習室として開放し、施設を有効活用することができました。 ・ルッチプラザのコンサートやはにわ館の展示など、複合施設の事業に合わせた本の提案を行うことができました。 ・広報まいばらで毎月本の紹介を行うとともに、伊吹山テレビの文字放送でのイベント案内（随時）やZ T Vの番組でイベントの案内等を5回行い、広く市民に広報することができました。
----	---

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・司書の専門性をより高めるため研修の機会を増やし、個人と組織全体のスキルアップを図っていく必要があります。
----	---